

人権問題に関する 市民意識調査報告書

— 2012(平成 24)年調査 —

松山市人権教育推進協議会

はじめに

松山市では、2012(平成 24)年 3 月に「松山市人権啓発施策に関する基本方針」を見直し、『『誇れる』人権尊重で笑顔に～人にやさしい、人がやさしいまち 松山～』をスローガンに市民一人ひとりの人権が守られるまちづくりに向けて人権教育及び啓発施策を進めております。

本調査は、同和問題をはじめ様々な人権問題を解決し、誰もがしあわせに生きることのできるまちづくりを目指すために実施し、その調査結果を分析・検討して本市の人権教育及び啓発の成果と課題を確認するとともに今後の推進に役立てるものであります。

第 1 回目の調査を 1982 (昭和 57) 年に実施して以来、5 年ごとに「同和問題に関する市民意識調査」を行い、第 5 回目の 2002 (平成 14) 年の調査からは同和問題をはじめとする幅広い人権問題に対応した人権教育及び啓発施策を総合的かつ効果的に推進していくために、表題を「人権問題に関する市民意識調査」に改めて実施しております。

第 7 回目となる今回は、これまでの人権教育及び啓発施策がどの程度市民に浸透したのかを検証するために、前回の調査を基本的に継承しながら実施いたしました。また、今回の調査も第 5 回調査から引き続き、松山大学社会調査室の全面的な協力を得て統計的な手続きに基づいて科学的な処理に努めております。

この報告書が、今後の人権教育及び啓発施策の推進に活かされ、同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決に役立つことを願っております。

最後に、今回の調査にご協力いただきました市民の皆様をはじめ、松山大学社会調査室の市川教授、そして調査・分析に携わっていただきました調査委員会の皆様方にお礼を申し上げます。

2013 (平成 25) 年 3 月

松山市人権教育推進協議会
会長 田 所 和 人

目 次

はじめに

I	調査の概要	1
II	調査結果のまとめ	2
III	調査結果	
1	人権及び人権問題に関する意識	7
2	慣習や因習に関する意識	33
3	同和問題に関する意識	39
4	啓発活動に関する意識	51
5	社会活動・社会関係に関する意識	62
6	「松山市人権啓発施策に関する基本方針」に関する意識	68
7	自由記述から伺える意識	72
IV	付 属 資 料	
1	「人権問題に関する市民意識調査」実施要項	79
2	「人権問題に関する市民意識調査」調査用紙	80
3	「人権問題に関する市民意識調査」数値表	90
4	参考資料	124

性別から伺える人権意識のちがい

年代別から伺える人権意識のちがい

あ と が き

I 調査の概要

松山市民の人権意識と人権啓発活動に関する参加状況を把握するために、市内に在住する15歳以上79歳以下の男女を対象に質問紙による調査を行った。

調査対象者は、住民基本台帳から単純無作為抽出で4000名を選んだ。調査期間は、2012年9月24日から10月9日まで。調査方法は郵送によって行った。10月4日に、調査対象者全員に対し再度、調査協力の依頼状を発送した。

4000票のうち、宛先不明・転居等で、返送されてきた調査不能票は、12票。返送されてきた調査票のうち白紙のもの等(15票)を除いた有効票は2301票(男性945名・女性1329名、性別無回答27名)で、回収率は57.5%であった。

本調査は、その前身にあたる「同和問題に関する市民意識調査」として1982年に第1回調査が行われた。以後同調査は、5年おきに3回行われた。第5回目の2002年調査から「人権問題に関する市民意識調査」と改められ、今回に至っている。それぞれの調査における回収率は、1982年—33.3%、1987年—27.3%、1992年—42.5%、1997年—51.9%、2002年—52.2%、2007年—53.5%となっている。回収率は、1987年を除き毎回上昇してきている。

なお、回答者の年代別内訳は、10代—107名、20代—211名、30代—355名、40代—398名、50代—401名、60代—480名、70代以上—311名となっている。(年代無回答は38名)。

2012年度 人権意識調査 回収率

	標本数	回収数	回収率
全体	4000	2301	57.5%
男性	1902	945	49.7%
女性	2098	1329	63.4%
無回答		27	

10代	229	107	46.7%
20代	542	211	38.9%
30代	696	355	51.0%
40代	685	398	58.1%
50代	636	401	63.1%
60代	717	480	66.9%
70代	495	311	62.8%
無回答		38	

- (1) クロス表の「1%水準で有意」「5%水準で有意」「有意ではない」はカイ二乗検定の結果を表す。クロス表は無回答を除いて集計した。クロス表のセルに5未満の数値が入ることが多い場合は適宜カテゴリーの統合を行って集計した。
- (2) 単純集計表の「N」は比例算数の基数を意味する。特に示していない場合は2141である。
- (3) 百分比(%)は、少数点第2位を四捨五入しているため、総和が必ずしも100%にならない場合がある。

Ⅱ 調査結果のまとめ

総 括

第1回の調査を1982（昭和57）年に実施して以来、5年ごとに「同和問題に関する市民意識調査」を行い、第5回の2002（平成14）年の調査からは、同和問題をはじめとする幅広い人権問題に対応した人権教育及び啓発施策を総合的かつ効果的に推進していくために、表題を「人権問題に関する市民意識調査」に改めて実施し今回は第7回目となる。今回の設問は、これまでの調査を基本的に継承しながら実施したが、前回（2007年調査）と同じものもあれば、一部新しい内容のものもある。そのため、2007年調査及び2002年調査と同じ設問については回答率を比較して検討考察した。新しい内容については回答率から考察した。

今回の調査の目的は、「人権教育のための国連10年」（1995～2004年）の取組を通して、同和教育から人権教育に軸足を移してきた状況のもと、これまで積み上げてきた同和教育の成果と課題を人権教育の中心に据え、松山市における人権教育・啓発のさらなる発展のために調査結果を活用することにある。また、人権問題に関する学習会・研修会に市民がどのように参加し、その学習会・研修会を通して市民の人権に対する意識の高揚に、どれだけ効果をあげているのかを把握すること。社会や地域、人とのつながりが市民の人権に対する意識とどのような関わりがあるかということを確認することであった。

今回の調査では、学習会・研修会への参加や社会や地域、人とのつながりが人権意識を高めるために重要であるという結果が明確に出ている。

「寝た子を起すな的な考え方」や「自然消滅的な考え方」等の否定的な考え方が大半を占めていた時代に、同和教育の必要性を訴え、その普及・啓発に努められた多くの先達の今日に至るまでのご尽力に改めて心から敬意を表したい。

1 人権及び人権問題に関する意識

- (1) 「人権が尊重されているか」の質問では、2007年調査と比べて「尊重されている」が増え、「尊重されていない」が減っている。
- (2) 人権問題への関心度では、2007年調査と比べて「関心がない」が増え、「関心がある」が減っている。
- (3) 女性の働き方として、「結婚や出産後、家事に専念する」は、10年前の2002年調査で24.6%、2007年調査で17.0%、今回調査では12.8%と大きく減少している。その理由として、第一に、「今日の経済的な状況から、女性が働いて家庭の経済を支える共働きがふえていること。」第二に、「男女共同参画の啓発活動により、女性が、自分らしい働き方を選択する意識が高まっていること。」等が背景にあると考えられる。
- (4) 体罰については「子どもに体罰を加えることも、時と場合によっては必要か」の問いに対して「親も教師も認める」：「親も教師も認めない」：「親だけ認める」が、ほぼ7:2:1の割合になっている。

しつけは子どもを主体として考えるが、体罰や虐待は大人が主体である。したがって、今後は、「しつけ」と「体罰」と「虐待」の違いについての社会的認識を深め、「子どもの健全育成のあり方」についてより良い方法を模索していく取組と、現実的な実践が一層必要ではないかと考えられる。

- (5) 虐待を発見したときの対処法としては、「児童相談所や保健所等に通報する」と答えた人が51.5%であった。この改正された「児童虐待防止法の内容」の認知度が比較的高かったのは、報道等で児童虐待が大きな事件として扱われ、この法律改正の契機になったことが大きく影響していると思われる。今後も、様々な広報活動を通じて認知度を上げていく努力が必要と思われる。
- (6) 一人暮らしの高齢者に家や部屋を貸す時、「他の人と同様に入居させるべき」、「近くに家族が住んでいれば」を合わせると80.9%。外国人に貸す時も「断るべきでない」、「滞在目的や保証人がしっかりしていれば」を合わせると87.3%と条件付きではあるが、入居に寛容な姿勢が伺える。高齢者や旅人を暖かくもてなす「お接待の心」がこの松山に根付いている結果ではないかと考えられる。
- (7) 入居に関して寛容な姿勢がみられるのに反して、日本に居住している外国人の人権については、「日本人と同様に守られるべき」とする回答が、56.6%で、2007年調査より5.5ポイント低下しており、反対に「同じ権利をもたなくても仕方がない」とする回答は22.7%で2007年調査より6.2ポイント増加している。

主要な国連加盟国の一つであり、民主主義国家を標榜する我が国としては、これは残念な結果だと思わざるを得ない。世界人権宣言の主旨等の徹底とさらなる啓発が必要と思われる。

- (8) エイズ患者・HIV感染者への対応では、「今までどおりつきあう」が65.9%あり、若い世代の比率が高い。「一緒に仕事をしたくない」は、10.0%で2007年調査とほぼ同じである。この調査の特徴は「わからない」が20.7%と約5人に1人の割合であったことである。今後、否定的な考え方を持っている人のみならず、エイズ患者・HIV感染者への理解が十分といえない人への啓発も重要であると思われる。
- (9) 障がい者施設の建設に対する対応では、「反対する人の気持ちがわからない」が、2007年調査と比べて6.4ポイント増加して42.6%、「反対する人の気持ちもわかる」は10.2ポイント減少して42.3%となっている。2007年調査では「反対する人の気持ちもわかる」が52.5%と半数を越えていたことから考えると障がい者理解が少しずつ進展しているといえる。

2 慣習や因習に関する意識

大安、仏滅、家柄、清めの塩等の因習に関する調査結果は、2007年調査とあまり変化がみられない。他のアンケートとの関連から見ると、日ごろから人権意識の高い人、研修機会の多い人ほど、気にしていないことがわかった。

問11の「慣習や因習」に関する調査と問12の「同和問題」との関連で見ると、因習が気

になる人たちは、同和問題をはじめ、女性、障がい者、エイズ患者・HIV感染者、ハンセン病回復者等に対する差別意識も強いという傾向にあることがわかった。今後の松山市民に対する教育及び啓発活動においても、このような非科学的な慣習や因習を改めるための研修内容や方策に検討を加えて、積極的に取り組んでいくべきである。

3 同和問題に関する意識

- (1) 「同和問題にかかわる差別があるか」では「まだまだある」と「少しはある」を合わせると 68.1% と相変わらず高く、「差別はよくない」という知的理解は進みながらも、結婚のときにこだわる社会体質が今なお強く残っていることがわかる。

その社会体質を改善するために「差別はよくない。差別をなくしましょう」だけではなく、「差別がなぜよくないことなのか、そのわけをはっきりさせること」「差別については、すべての人が当事者であること」「差別される人だけでなく、する側の人をも不幸にすること」「差別は恥ずかしいこと、醜いこと」であるという、感性に訴える啓発も必要であろう。これらの啓発は、社会教育の中心的な役割を担う公民館での学習・研修活動のあり方が大きく影響してくる。

また、一部の「同和問題にかかわる差別は少なくなってきた」という意見は差別の現実を見据えた感覚ではなく、何となく触れたくない意識が、差別を見えにくくしているのではないかとも思われる。

- (2) 差別がどんなときにあるのかでは「結婚のとき」が 82.1% と圧倒的に高い。しかし、2002 年 89.5%、2007 年 84.7%、今回が 82.1% と着実に減少している。

また、同和問題はみんなで解決していかなければならないと認識しながらも、「差別は人権侵害なのだ」という認識が乏しく、最も基本的な人権尊重の理念の弱さから「個人としてどうしてよいかわからない…」「だから…」「そっとしておけば…」と考える人に、知的理解を深めるだけでなく差別解消への具体的な行動につながるよう日常化を図らなければならない。

- (3) 家族間や友人間で同和問題を話題にしたかでは「ほとんど話題にしなかった」「まったく話題にしなかった」を合わせて、家族間 82.2%、友人間 91.9% もあることは、今日の社会において友人や家族間での会話が非常に少なくなっている現状から予想されたことではある。しかし、今後も同和問題解決に向けての話し合いが活発になっていくような取組を工夫していかなければならないと考える。

- (4) 家族から同和問題について差別的な話が出たときの対応として「自分で差別のまちがいを説明する」が 2002 年調査の 53.6% と比較すると 10 年間で 5.8 ポイント減っており、年代別では 40 代を分岐点に若年層、高齢層に向かって徐々に減っていく傾向にある。

また、「自信がないので、そのままに」「自分には関係ないので、そのままに」「家族の意見に合わせる」を合わせると 41.3% である。このことは、学校教育・社会教育が連携して同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決に向けて今後とも積極的に取り組む必要があることを示している。

4 啓発活動に関する意識

- (1) 人権の学習会や研修会等には、10代が多く参加している。授業で学習していると思われる。40代の女性の参加が多いのは、授業参観やPTA行事へ参加しているからであろう。授業の充実や研修会等の充実が人権教育の充実につながっていくことがわかる。
- (2) 人権の学習会や研修会に参加したきっかけは、「授業参観日やPTA行事に人権教育が組み込まれていたから」が多い。また、「勤務先から参加するようにすすめられたから」も増加傾向にあり、企業の積極的な取組が伺える。学習会や研修会に参加してみたものの評価をきくと、役立った人は、6割近くいる。参加が「まったくない」人の理由を問うと「行われていることを知らなかった」が5割近い。今後広報の工夫が必要である。
- (3) 人権問題に関するパンフレットをもらったことがある人は、約3割。標語やポスター等を見かけたことがある人は、約6割。街頭啓発やパレードを見かけたことがある人は、約2割である。年代別でみると、10代が多い。各種団体への参加頻度の高い人は、人権問題に関する資料に接する機会が多い。また、その資料を見た人は人権問題への関心が喚起されているとの結果が出ている。

今後は人権問題に関する資料を児童・生徒以外の市民に届けるための工夫が必要である。

5 社会活動・社会関係に関する意識

日頃から多くの人とつきあい、相互に助け合ったりしている人ほど、そのような人間関係を通じて人権に関する関心を深めたり、偏見に気付く機会を多く得るのではないだろうか。このような仮説にもとづいて、今回の調査では新たな試みとして、社会活動への参加の度合いと何かあった時に手助けを期待できる人間関係の量を測定することにした。

社会活動については、「自治会・町内会」「趣味・スポーツのサークル」「ボランティア」「PTA」にどの程度参加しているかによって測定した。それぞれの団体ごとに、「よく参加している」を3点、「ときどき参加している」を2点、「ほとんど参加していない」を1点とし、その点数を合計した。本文中の図表他では、合計点の12点～7点を「活発」、6点～5点を「やや活発」、4点～3点を「やや不活発」、2点～1点を「不活発」、0点を「無」として示している。

また、社会関係に関しては、問20の手助けを期待できる人に○がついた数で測定した。本文中の図表等では、○がつけられた数が4つ～3つを「高」、2つを「中」、1つを「低」、0を「無」として示した。

この団体参加度と社会的支援の期待量とは、多くの他の設問との間に関連がみられた。社会活動が活発で、社会関係が豊富な人ほど、人権問題の研修会・学習会への参加経験を持つ人が多くなり、ポスター・標語・パンフレット等の人権啓発活動に対する認知も高まる傾向がみられた。また同様に、社会活動が活発で、社会関係が豊富な人ほど、人権問題に関心を持つ人が増え、同和問題に関する差別的な言動への対処や、障がい者施設の建設への対応、外国人の人権等、多くの事象について人権意識が高まる傾向がみられた。

6 「松山市人権啓発施策に関する基本方針」に関する意識

- (1) 松山市人権啓発施策に関する基本方針について「知らない」が82.6%と極めて高い。
しかし、この基本方針は、市民一人ひとりの心の奥に働きかけるものだけに、その内容や周知方法は十分工夫しなければならないと考える。
- (2) 基本方針の認知度は低く、また、人権課題への関心度は女性、子ども、高齢者、障がい者に対する関心が高い。このことは、それぞれ自分自身が問題をかかえている身近な課題であるため意識が高いと考えられる。
関心度の高くない項目については、今後学習内容・啓発活動・広報努力の工夫が必要である。
- (3) 今回の調査を含め、これまでに行ってきた調査結果を十分に咀嚼し、行政はもちろん学校教育及び社会教育、企業等が一体となった長期的な施策や事業等を講じていく必要があると考えられる。

7 自由記述から伺える意識

設問の最後の自由記述は480通あり、その中には、人権教育や啓発活動に肯定的・建設的な意見・感想が多くあったが、否定的なものも少しあった。

調査対象者からは、「学習するよい機会になった」「松山市の人権教育・啓発の取組を理解することができた」等の好意的な意見も多数あった。

また、「これも人権とかかわりがあるのだと意識することができた」とか「未来に生きる子どもたちのために住みよい社会づくりに努めたい」等の日常のくらしとのかかわりに目を向ける意見・感想も多くみられた。

人権教育及び啓発活動に関して、様々な考え方があることを大切にしながら、松山市の人権教育及び啓発活動を充実していくための貴重なご意見として今後の取組に活かしていきたい。

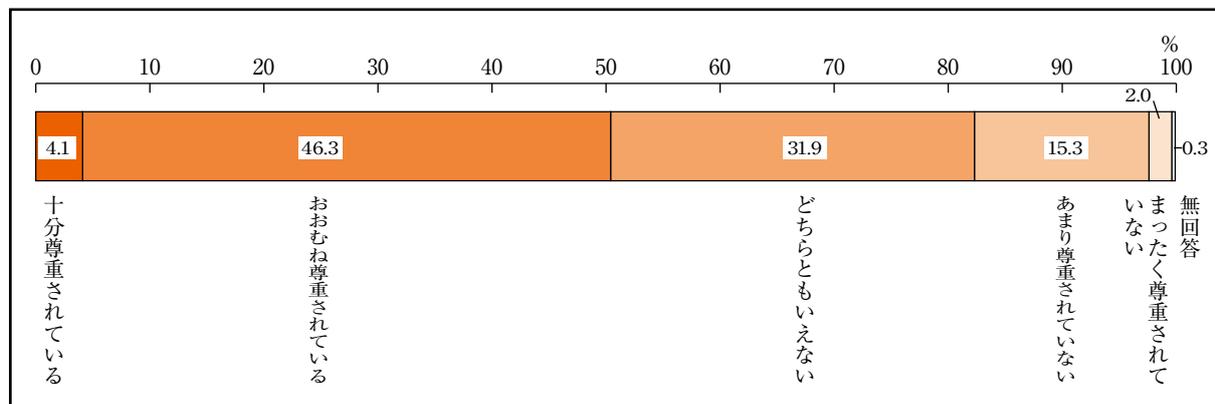
Ⅲ 調査結果

1 人権及び人権問題に関する意識

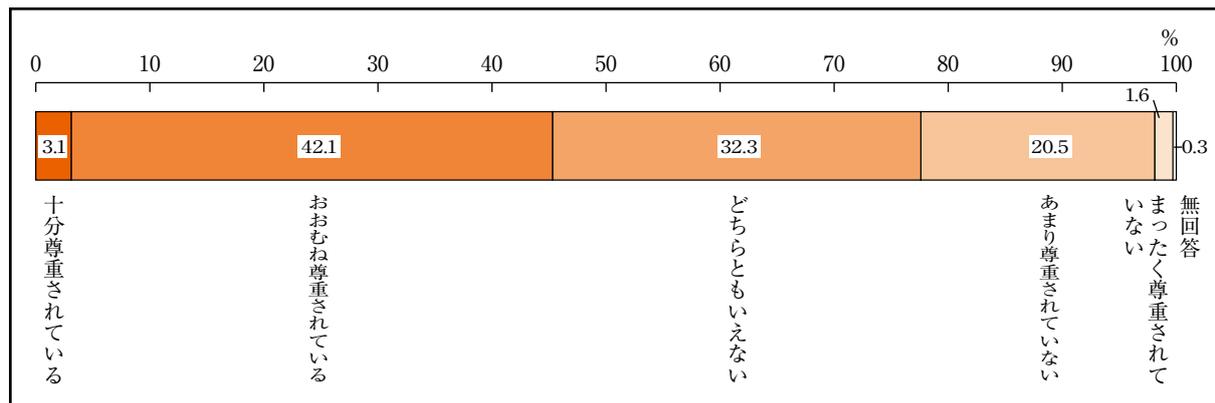
問1 あなたは、今の日本の社会では人権が尊重されていると思いますか、思いませんか。
次の中から1つお選びください。

	人	(%)
1 十分尊重されている……………	95	(4.1)
2 おおむね尊重されている……………	1065	(46.3)
3 どちらともいえない……………	734	(31.9)
4 あまり尊重されていない……………	352	(15.3)
5 まったく尊重されていない……………	47	(2.0)
無回答……………	8	(0.3)

2012年調査



2007年調査



「十分尊重されている」は4.1%と少ないが、「おおむね尊重されている」と回答した人を合わせると50.4%になる。「十分」と「おおむね」を合わせた値は、2007年調査(45.2%)よりも5.2ポイント増加している。

「あまり尊重されていない」「まったく尊重されていない」を合わせた値は、2007年調査(22.1%)に比べ4.8ポイント減少している。

産業の高度化や科学技術の進歩とともに、今日の日本の社会には環境権や知る権利、プライバシーの権利等の新しく考えなければならない人権課題が登場してきたが、それだけ自分たちの身近なところに人権が存在することに人々の目が向くようになり、人権保障の考え方が人々の長年にわたる努力によって少しずつ定着してきた結果であろう。今後も、人権教育及び人権啓発をより一層推進することにより、人々が共に助け合っていく共生社会を発展させていく必要がある。

【表1】 性別×問1（人権が尊重されているか）

	十分尊重されている	おおむね尊重されている	どちらともいえない	あまり尊重されていない	まったく尊重されていない	％の基数
男性	5.7%	48.8%	28.5%	14.1%	2.9%	944
女性	2.8%	44.9%	34.6%	16.3%	1.4%	1322
合計	4.0%	46.6%	32.0%	15.4%	2.0%	2266

（1％水準で有意）

性別の回答では、「人権が尊重されている」とする割合は男性が高く、「どちらともいえない」は女性が高い。この傾向は2007年調査と同様である。しかし、「尊重されていない」とする割合は、男性が2007年調査（22.7％）から5.7ポイント、女性が2007年調査（21.6％）から3.9ポイント減少している。

人権が尊重されていると回答する男性が高い割合を示すのに対して、女性はどちらともいえないと答える割合が高い傾向は、社会制度や慣行においていまだ男性優位な状態にあることを示している。現実には、まだまだ家事や育児、介護は女性が引き受けることが多く、そのため社会に出ていくことが難しい状況もみられる反面、育児休業や保育所の整備、職業選択の範囲拡大等、女性が働きやすい環境も少しずつ整えられてきており、今後さらなる男女共同参画のための取組をより一層推進していかなければならない。

【表2】 *社会的援助×問1（人権が尊重されているか）

	十分尊重されている	おおむね尊重されている	どちらともいえない	あまり尊重されていない	まったく尊重されていない	％の基数
援助一多	5.3%	50.9%	27.9%	14.2%	1.8%	226
援助一中	4.7%	50.9%	28.7%	14.3%	1.3%	530
援助一少	3.6%	46.2%	34.0%	14.3%	1.8%	1155
援助一無	4.0%	38.3%	33.2%	20.8%	3.8%	371
合計	4.1%	46.5%	32.0%	15.3%	2.0%	2282

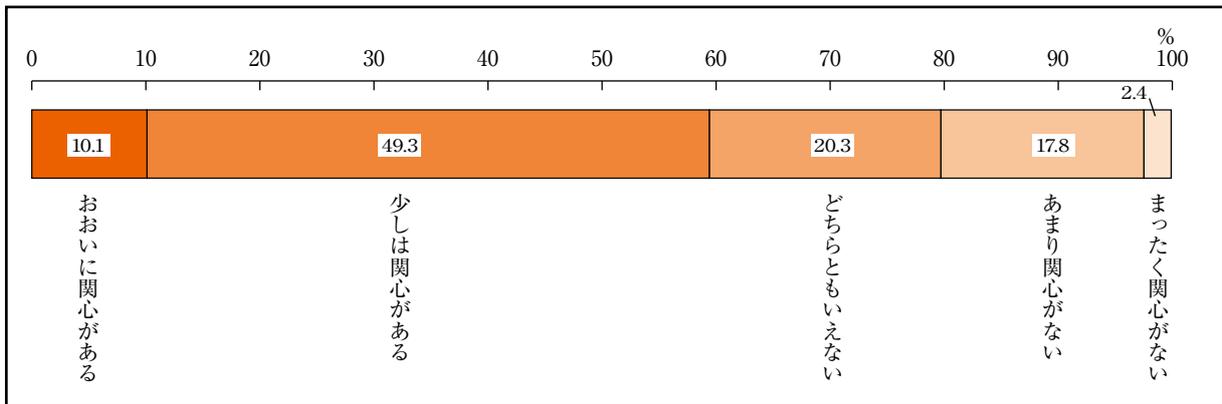
※社会的援助は、問20の家族以外でどれだけ手助けをしてもらえるかを数値化したもので、高いほど「手助けしてくれる人が多い」ことを表している。

社会的援助を多く期待できる人ほど、人権が「十分尊重されている」「おおむね尊重されている」の割合が高くなっている。

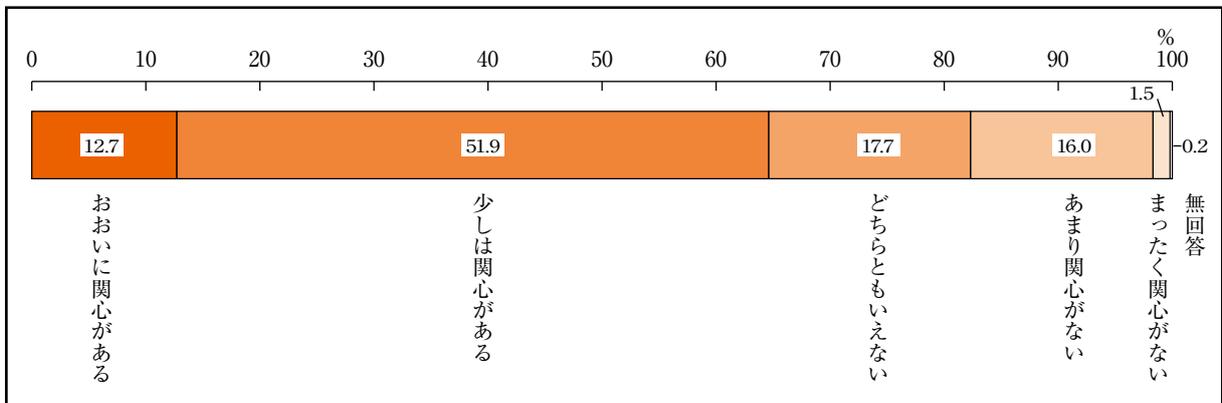
問2 あなたは、人権問題に、日ごろからどの程度関心がありますか。次の中から1つお選びください。

	人	(%)
1 おおいに関心がある	233	(10.1)
2 少しは関心がある	1135	(49.3)
3 どちらともいえない	466	(20.3)
4 あまり関心がない	410	(17.8)
5 まったく関心がない	56	(2.4)
無回答	1	(0.0)

2012年調査



2007年調査



「おおいに関心がある」「少しは関心がある」を合わせると 59.4% となっており、関心度は高いと考えられる。

逆に「あまり関心がない」「まったく関心がない」は、合わせて 20.2% となっている。

「関心がある」は 2007 年調査 (64.6%) から 5.2 ポイント減少し、「関心がない」は 2007 年調査 (17.5%) から 2.7 ポイント増加している。

人権問題に対する関心度の低下している理由として、社会のグローバル化が進展するとともに、人権の保障が国際的な問題となってきたことがある。地球規模での環境問題の解決、貧困や難民の救済、エイズやH I Vへの取組、地域紛争の回避等には、国際的な協力が不可欠である。また、科学技術の発展を支える学問の自由と生命・健康等の人権の尊重とをいかに調整するかといった問題も発生しており、自分たちの生活とかけ離れたように思われる人権問題に対しても、広く目を向けていくような啓発活動が望まれる。

また、日々の生活に精一杯で、人権問題に限らず社会に対する関心が低下してきたことも要因である。公的機関が「ひと」「もの」「こと」と関わりを深める機会を提供することにより、現代社会に存在する様々な問題を、他人事ではなく自分の問題として受け止め、解決のためにどうしたらよいかを共に考えていく「昔ながらの絆」を取り戻すことが大切である。

[表 3] 性別×問 2 (人権問題への関心)

	おおいに 関心がある	少しは 関心がある	どちらとも いえない	あまり 関心がない	まったく 関心がない	%の基数
男性	11.2%	47.0%	18.9%	19.5%	3.4%	945
女性	9.1%	51.2%	21.0%	16.9%	1.7%	1328
合計	10.0%	49.5%	20.1%	18.0%	2.4%	2273

(1%水準で有意)

「おおいに関心がある」とする男性の割合は、2007年調査(16.0%)から4.8ポイント減少している。

[表 4] 性別×年代×問 2 (人権問題への関心)

		おおいに 関心がある	少しは 関心がある	どちらとも いえない	あまり 関心がない	まったく 関心がない	%の 基数
男性	10代	7.5%	43.4%	15.1%	28.3%	5.7%	53
	20代	3.7%	42.7%	20.7%	24.4%	8.5%	82
	30代	6.7%	41.5%	20.0%	26.7%	5.2%	135
	40代	7.9%	52.3%	18.5%	19.9%	1.3%	151
	50代	13.5%	44.1%	20.6%	17.6%	4.1%	170
	60代	10.3%	50.7%	18.8%	17.4%	2.8%	213
	70代	24.1%	48.2%	16.8%	10.9%	0.0%	137
女性	10代	5.6%	57.4%	16.7%	16.7%	3.7%	54
	20代	5.4%	47.3%	16.3%	28.7%	2.3%	129
	30代	7.8%	45.0%	30.3%	14.2%	2.8%	218
	40代	10.1%	51.0%	23.1%	14.6%	1.2%	247
	50代	6.9%	53.7%	19.9%	17.7%	1.7%	231
	60代	9.7%	54.3%	18.4%	16.5%	1.1%	267
	70代	14.9%	52.3%	16.7%	14.9%	1.1%	174
合計		10.0%	49.5%	20.1%	18.0%	2.4%	2261

人権問題への関心度については、「おおいに関心がある」の回答率が年齢を重ねるごとに高くなり、「まったく関心がない」「あまり関心がない」が低くなる傾向にある。

10代の男性と女性では人権問題への関心度の開きが大きく、「おおいに関心がある」「少しは関心がある」では女性の方が12.1ポイント関心度が高い。

年代が上がるとともに人権問題への関心度も高くなる傾向は、多くの経験を積み重ねていく中で自分たちのより良い暮らしだけでなく、その暮らしが将来、世代にわたって持続するよう考える機会を提供してきた人権啓発の成果であるといえる。ただし、見方を変えれば、若い世代に対して人権尊重の精神を養うための、なお一層の啓発活動が不可欠であるといえよう。

[表5] *団体参加度×問2（人権問題への関心）

	おおいに関心がある	少しは関心がある	どちらともいえない	あまり関心がない	まったく関心がない	％の基数
活発	24.0%	48.1%	17.6%	8.6%	1.7%	233
やや活発	10.2%	54.9%	18.4%	15.5%	1.0%	381
やや不活発	8.7%	55.0%	19.4%	14.7%	2.1%	607
不活発	7.4%	48.6%	20.3%	22.2%	1.5%	537
なし	7.9%	40.0%	23.6%	23.0%	5.5%	495
合計	10.1%	49.4%	20.2%	17.8%	2.5%	2253

（1％水準で有意）

※団体参加度は、問18・問19の団体やグループにどの程度かかわっているのかを数値化したもので、関わりが多いほど「活発」と表している。

※団体とは、自治会・町内会、趣味やスポーツ団体、ボランティア団体、PTAまたは保護者を指す。

団体参加度が高いほど人権問題への関心は高い傾向にある。

[表6] *社会的援助×問2（人権問題への関心）

	おおいに関心がある	少しは関心がある	どちらともいえない	あまり関心がない	まったく関心がない	％の基数
援助一多	12.8%	50.4%	22.1%	13.7%	0.9%	226
援助一中	9.7%	52.1%	16.9%	18.9%	2.4%	534
援助一少	9.7%	50.3%	20.7%	17.3%	2.0%	1157
援助一無	10.8%	42.2%	22.0%	20.7%	4.3%	372
合計	10.2%	49.4%	20.2%	17.9%	2.4%	2289

（1％水準で有意）

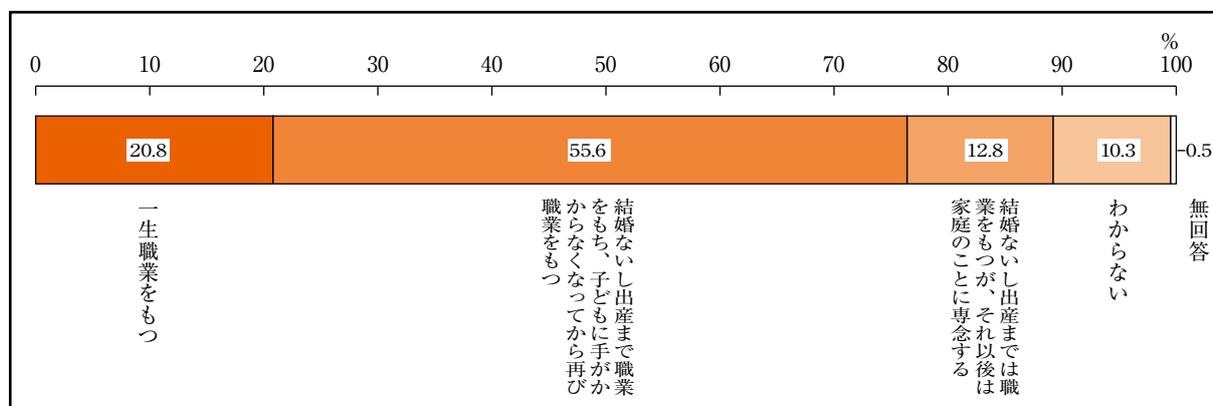
※社会的援助は、問20の家族以外でどれだけ手助けをしてもらえるかを数値化したもので、高いほど「手助けしてくれる人が多い」ことを表している。

社会的援助が多い人ほど人権問題への関心は高い傾向にある。

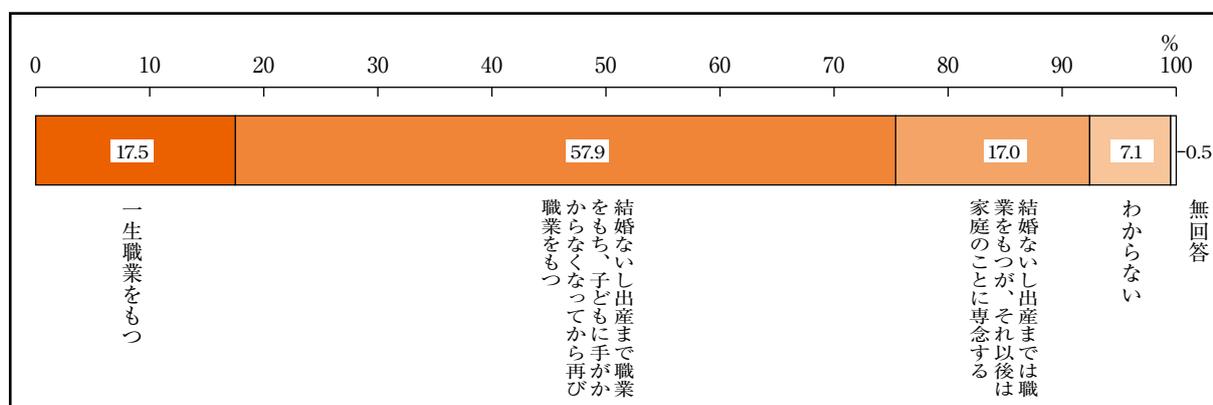
問3 あなたが、理想とする女性の働き方として、最も近いものはどれですか。次の中から1つお選びください。(男性の方もお答えください)

	人	(%)
1 一生職業をもつ……………	478	(20.8)
2 結婚ないし出産まで職業をもち、 子どもに手がかからなくなってから再び職業をもつ……	1280	(55.6)
3 結婚ないし出産までは職業をもつが、 それ以後は家庭のことに専念する……………	294	(12.8)
4 わからない……………	237	(10.3)
無回答……………	12	(0.5)

2012年調査



2007年調査



「一生職業をもつ」と「…再び職業をもつ」を合わせると、76.4%となっている。2007年調査との対比では、女性の一生の就業を好ましいと考えている割合は、全体の4分の3程度と高く、変わっていない。しかし、その内訳をみると、「一生職業をもつ」が3.3ポイント増え、「…再び職業をもつ」が2.3ポイント減っている。

また、「…家庭のことに専念する」は、2002年（25.7%）2007年（17.0%）今回12.8%となっており、この10年で12.9ポイントも減少している。

[表 7] 性別×問3 (女性の働き方)

	一生職業をもつ	再び職業をもつ	結婚・出産後は 専業主婦	わからない	%の基数
男性	13.0%	57.4%	15.7%	14.0%	938
女性	26.7%	55.0%	10.6%	7.7%	1324
合計	21.0%	56.0%	12.7%	10.3%	2262

(1%水準で有意)

性別による回答の相違点は、「一生職業をもつ」については女性が13.7ポイント高く、「…家庭に専念する」は男性が5.1ポイント高い。この傾向は2007年調査と同じであるが、「一生職業をもつ」の男性の割合の増加が0.7ポイントと小幅なのに対して、女性の割合が4.9ポイント上昇と大幅であることが今回の特徴としてあげられる。

[表 8] 年代×問3 (女性の働き方)

	一生職業をもつ	再び職業をもつ	結婚・出産後は 専業主婦	わからない	%の基数
10代	15.9%	51.4%	15.9%	16.8%	107
20代	15.2%	60.7%	11.8%	12.3%	211
30代	23.4%	54.6%	10.4%	11.5%	355
40代	25.7%	52.1%	10.1%	12.1%	397
50代	23.8%	57.1%	9.8%	9.3%	399
60代	18.1%	59.2%	13.9%	8.8%	475
70代	18.6%	55.0%	19.9%	6.5%	307
合計	21.0%	56.1%	12.7%	10.3%	2251

(1%水準で有意)

「一生職業をもつ」という回答は、30代～50代の世代で高くなっている。

全体としては「一生職業をもつ」と「結婚ないし出産まで職業をもち、子どもに手がかからなくなってから再び職業をもつ」を合わせた数値が、回答者の76.4%となり、中断はあっても女性が生涯にわたって職業をもつことを肯定する回答が多かった。

この数値自体は、2007年調査と比較すると1ポイントの上昇であるが、その内訳をみると、「一生職業をもつ」が3.3ポイント上昇したのに対して、「結婚ないし出産まで職業をもち、子どもに手がかからなくなってから再び職業をもつ」が2.3ポイント低下する等、「理想とする女性の働き方」の意識の変容が伺える。

また性別でみると、「一生職業をもつ」を支持する割合は、男性13.0%に対して、女性26.7%と、当事者の女性自身が「一生職業をもつ」ことを理想の働き方ととらえていることが伺える。

さらに、10代・20代の若年世代、30代・40代・50代の現役世代そして60代以上のシニア世代を比較してみると、30代・40代・50代の現役世代が「一生職業をもつ」を支持する割合が高い。

一方、「結婚ないし出産までは職業をもつが、それ以後は家庭のことに専念する」は、全体としては12.8%となり、2007年調査では17.0%、2002年調査では24.6%であったことを考えると、明らかな減少傾向を示している。

2008年のリーマンショックをはじめとする世界的な経済の冷え込みや日本経済の大幅な景気の後退等を考えた時、男性も女性も共に働いて、家庭の経済を支えていかななくてはならない厳しい現状が、こうした意識変化の背景にあるのではないだろうか。

同時に、男女共同参画に関する様々な啓発活動を通して、「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という従来の固定的な性別役割分担意識にとらわれず、自分らしい生き方や働き方を選択する意識が高まってきたともいえるのではないだろうか。

[表9] *団体参加度×問3（女性の働き方）

	一生職業をもつ	再び職業をもつ	結婚・出産後は 専業主婦	わからない	％の基数
活発	27.6%	51.7%	14.7%	6.0%	232
やや活発	21.6%	63.4%	9.5%	5.5%	380
やや不活発	19.1%	56.1%	13.9%	10.9%	603
不活発	21.3%	55.8%	12.0%	10.9%	534
なし	19.6%	52.0%	14.2%	14.2%	494
合計	21.0%	55.9%	12.8%	10.2%	2243

(1%水準で有意)

※団体参加度は、問18・問19の団体やグループにどの程度かかわっているのかを数値化したもので、関わりが多いほど「活発」と表している。

※団体とは、自治会・町内会、趣味やスポーツ団体、ボランティア団体、PTAまたは保護者を指す。

団体参加度が活発な人ほど女性が職業をもつことを肯定する傾向にある。

[表10] *社会的援助×問3（女性の働き方）

	一生職業をもつ	再び職業をもつ	結婚・出産後は 専業主婦	わからない	％の基数
援助一多	24.0%	51.6%	12.0%	12.4%	225
援助一中	22.8%	58.5%	10.5%	8.2%	535
援助一少	19.6%	57.2%	13.8%	9.3%	1146
援助一無	20.4%	50.5%	14.2%	14.8%	372
合計	20.9%	55.9%	12.9%	10.3%	2278

(1%水準で有意)

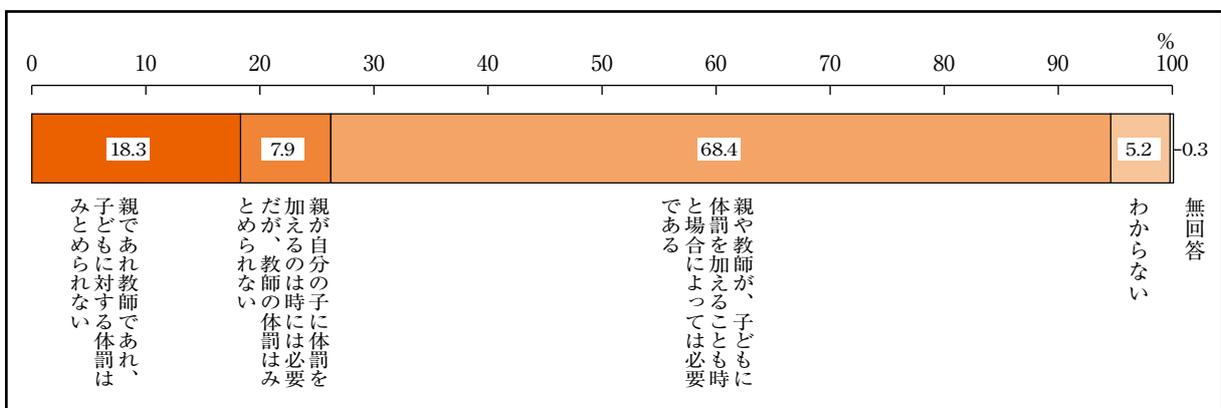
※社会的援助は、問20の家族以外でどれだけ手助けをしてくれるかを数値化したもので、高いほど「手助けしてくれる人が多い」ことを表している。

社会的援助が多い人ほど、女性が職業をもつことを肯定する傾向にある。

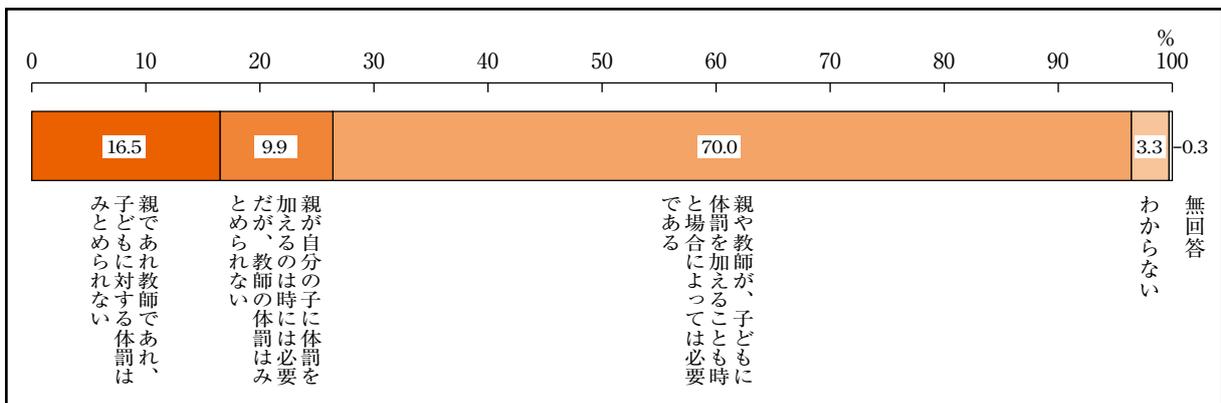
問4 あなたは、子どもに対する体罰に関して、どのようにお考えですか。次の中から1つお選びください。

	人	(%)
1 親であれ教師であれ、子どもに対する体罰は みとめられない……………	422	(18.3)
2 親が自分の子に体罰を加えるのは時には 必要だが、教師の体罰はみとめられない……………	181	(7.9)
3 親や教師が、子どもに体罰を加えることも 時と場合によっては必要である……………	1573	(68.4)
4 わからない……………	119	(5.2)
無回答……………	6	(0.3)

2012年調査



2007年調査



「親や教師が、子どもに体罰を加えることも時と場合によっては必要」は、68.4%で非常に高い。

「親であれ教師であれ、子どもに対する体罰はみとめられない」は、18.3%である。これは2007年調査と比べ、1.8%上昇している。

[表 11] 性別×問 4 (体罰)

	体罰みとめられない	親の体罰はみとめるが、教師はみとめない	時と場合によっては体罰は必要	わからない	%の基数
男性	15.1%	5.6%	75.9%	3.4%	943
女性	21.1%	9.6%	63.1%	6.3%	1325
合計	18.6%	7.9%	68.4%	5.1%	2268

(1%水準で有意)

性別による回答は、「体罰はみとめられない」で女性が6ポイント高い。さらに、「親の体罰はみとめられるが、教師はみとめられない」でも、女性が4ポイント高い。それに対し「親や教師の体罰は必要である」は、男性が12.8ポイントも高い。

[表 12] 年代×問 4 (体罰)

	体罰はみとめられない	親の体罰はみとめるが、教師はみとめない	時と場合によっては体罰は必要	わからない	%の基数
10代	29.0%	10.3%	57.9%	2.8%	107
20代	22.7%	6.6%	62.6%	8.1%	211
30代	18.0%	8.5%	66.8%	6.8%	355
40代	14.1%	7.5%	74.1%	4.3%	398
50代	16.9%	10.1%	68.5%	4.5%	397
60代	19.8%	5.2%	68.9%	6.1%	479
70代	18.7%	8.7%	70.6%	1.9%	310
合計	18.6%	7.8%	68.5%	5.1%	2257

(1%水準で有意)

「…体罰はみとめられない」は10代、20代が高い値を示している。それに対して、40代、50代が低い値である。

また、「親も教師も、時と場合によっては体罰がみとめられる」では、10代でも57.9%、20代でも62.6%が必要と答えているが、30代～70代に比べると割合は低い。

「親や教師が、子どもに体罰を加えることも時と場合によっては必要」が、68.4%と非常に高い値であった。それに対して「親であれ教師であれ、子どもに対する体罰はみとめられない」が18.3%、「親だけみとめられる」が7.9%である。これは、2007年調査と同じ傾向を示しており、「親も教師もみとめる」:「親も教師もみとめない」:「親だけみとめる」の割合がほぼ7:2:1になっていることがわかる。

「体罰は必要」とする考え方が男性・女性ともに高いが、性別による違いでは、女性の方が「体罰をみとめない」傾向が強い。

年代別の傾向をみると、体罰を日々の現実的な問題として捉えている10代、20代が「みとめられない」の値が高く、40代、50代が低い値を示している。このことから、日々のしつけの中で「しつけられる側」と「しつける側」の意識の違いが伺われる。

しかし、その反面、「親も教師も、時と場合によっては体罰がみとめられる」と答えた10代、20代の方が、それぞれ6割程度いる。これは、若い世代でも、ほぼ半数強の若者は、「時と場合によっては、しつけられる中での厳しさ」を望んでいるのではないかと考えられる。

この設問の「時と場合によっては」の条件、つまり、「本当に善悪の判断を子どもにしつけなければならない場面」では、大人による「しつけ」としての体罰は必要だと考えている人が7割程度いることになる。

しつけは子どもを主体として考えるが、体罰や虐待は大人が主体である。したがって、今後は、「しつけ」と「体罰」と「虐待」の違いについての社会的論議を深め、「子どもの健全育成のあり方」についてより良い方法を模索していく取組と、現実的な実践が一層必要ではないかと考えられる。

[表 13] *団体参加度×問4 (体罰)

	体罰はみとめられない	親の体罰はみとめるが、 教師はみとめない	体罰は必要	わからない	%の基数
活発	23.5%	8.5%	64.1%	3.8%	234
やや活発	16.1%	4.5%	76.3%	3.2%	380
やや不活発	18.1%	8.4%	68.7%	4.8%	607
不活発	17.9%	7.6%	68.8%	5.6%	536
なし	18.7%	10.2%	64.6%	6.5%	491
合計	18.4%	8.0%	68.6%	5.0%	2248

(1%水準で有意)

※団体参加度は、問18・問19の団体やグループにどの程度かかわっているのかを数値化したもので、関わりが多いほど「活発」と表している。

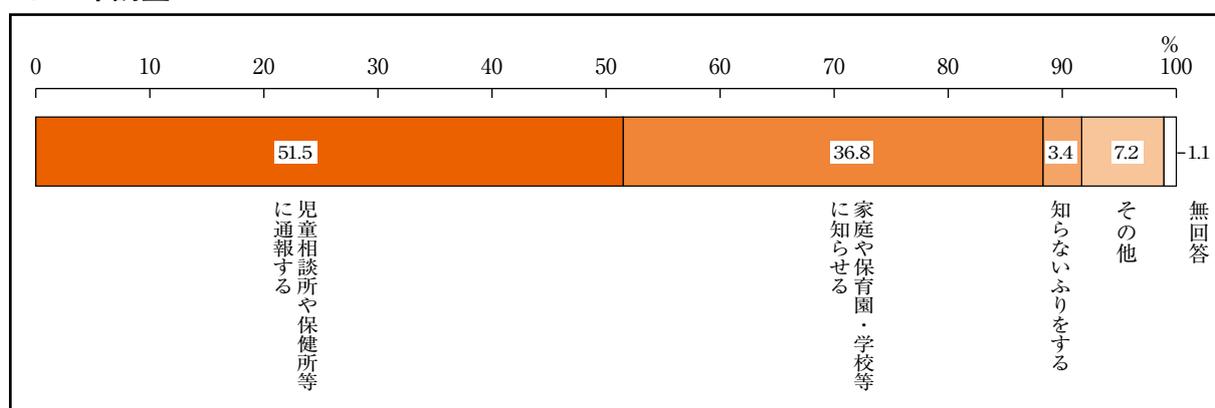
※団体とは、自治会・町内会、趣味やスポーツ団体、ボランティア団体、PTAまたは保護者を指す。

団体への参加が活発な人は体罰について否定する傾向にある。

問5 虐待を受けたと思われる子どもに気付いた時に、あなたはどのようにしますか。次の中から1つお選びください。

	人	(%)
1 児童相談所や保健所等に通報する……………	1185	(51.5)
2 家族や保育園・学校等に知らせる……………	847	(36.8)
3 知らないふりをする……………	78	(3.4)
4 その他……………	165	(7.2)
無回答……………	26	(1.1)

2012年調査



改正された「児童虐待防止法」の「児童相談所や保健所等に通報する」を知っていた人は、全体の51.5%であった。これは、報道等で児童虐待が大きな事件として扱われ、この法律の制定の契機となったこともあって、認知度は比較的高いと考えられる。今後も、様々な広報活動を通じて認知度を上げていく努力が必要と思われる。

[表 14] 性別×問5（被虐待児への対応）

	児童相談所等に通報	家族や学校等に知らせる	知らないふりをする	その他	％の基数
男性	50.2%	37.6%	4.9%	7.2%	938
女性	53.6%	36.6%	2.4%	7.3%	1310
合計	52.2%	37.1%	3.5%	7.3%	2248

（1％水準で有意）

性別の違いでは、女性の方が「児童相談所や保健所等に通報する」が3.4ポイント高かった。また、「知らないふりをする」も2.4%で、男性の約半分の割合であった。

このことから、「児童虐待を許さない」という姿勢は、女性の方が強いという傾向が表れていると考えられる。

[表 15] 年代×問5（被虐待児への対応）

	児童相談所等に通報	家族や学校等に知らせる	知らないふりをする	その他	％の基数
10代	43.4%	45.3%	6.6%	4.7%	106
20代	53.1%	31.1%	7.2%	8.6%	209
30代	56.2%	32.5%	3.4%	7.9%	354
40代	52.2%	34.9%	3.0%	9.9%	395
50代	55.2%	34.3%	3.3%	7.3%	397
60代	51.9%	38.8%	2.8%	6.6%	472
70代	47.4%	46.4%	1.6%	4.6%	304
合計	52.3%	36.9%	3.4%	7.3%	2237

（1％水準で有意）

年代別の違いでは、「知らないふりをする」という割合が、10代、20代で高く、今後は、若い世代に対する「児童虐待防止法」の啓発活動が大事になってくると思われる。このことは、「知らないふりをする」という人を減らすだけでなく、実際に「自分の身を守るため」また、現実に「友達が虐待されているのを救う」方法を身に付けさせるために、虐待を受ける可能性のある若い世代が、この法律の内容を知ることが必要だと考えられるからである。

[表 16] *団体参加度×問5（被虐待児への対応）

	児童相談所等に通報	家族や学校等に知らせる	知らないふりをする	その他	％の基数
活発	50.0%	42.7%	1.7%	5.6%	232
やや活発	49.3%	43.0%	1.6%	6.1%	379
やや不活発	50.7%	39.9%	2.7%	6.7%	601
不活発	54.1%	35.2%	3.9%	6.8%	532
なし	54.8%	28.7%	6.0%	10.5%	487
合計	52.1%	37.2%	3.4%	7.3%	2231

（1％水準で有意）

※団体参加度は、問18・問19の団体やグループにどの程度かかわっているのかを数値化したもので、関わりが多いほど「活発」と表している。

※団体とは、自治会・町内会、趣味やスポーツ団体、ボランティア団体、PTAまたは保護者会を指す。

「各種団体活動に活発に参加する度合い」が高まるほど、「知らないふりをする」という人が減ってきていることがわかる。

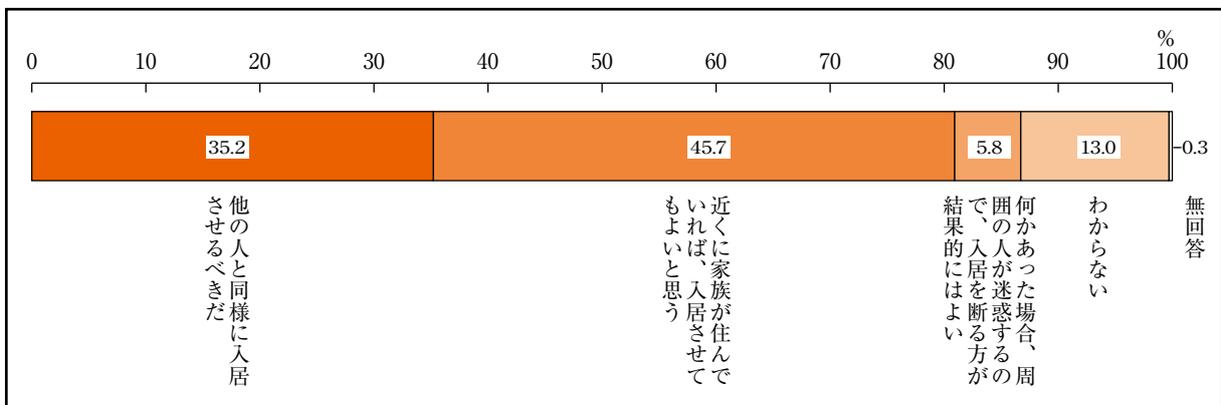
また、「各種団体に参加していない」人の「知らないふりをする」は、6.0%と、「各種団体へ活発に参加する」「各種団体にやや活発に参加する」人の約3.5倍、「各種団体への参加がやや不活発」「各種団体への参加が不活発」の人の約2倍となっている。

この結果からみて、「児童虐待防止」に関する啓発活動を各種団体で積極的に行うことで、「児童虐待」に対する関心を高め、「知らないふりをする」という態度の人を減らし、実践を伴う大きな成果を生み出すことが期待できる。また、「児童虐待」を防止するという面から、保護者を含む周辺社会の子育てに対する関心を高め、子育て支援の充実を図ることが必要であると思われる。

問6 一人ぐらしの高齢者に家や部屋を貸すのを断る家主がいますが、あなたはどのようにお考えですか。次の中から1つお選びください。

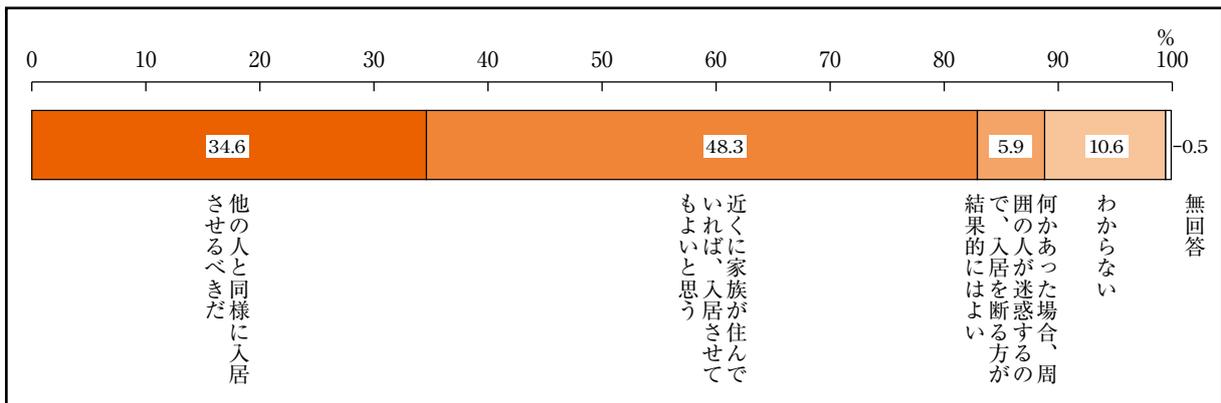
	人	(%)
1 他の人と同様に入居させるべきだ……………	809	(35.2)
2 近くに家族が住んでいれば、 入居させてもよいと思う……………	1052	(45.7)
3 何かあった場合、周囲の人が迷惑するので、 入居を断る方が結果的にはよい……………	134	(5.8)
4 わからない……………	300	(13.0)
無回答……………	6	(0.3)

2012年調査



「他の人と同様に入居させるべきだ」が35.2%で、2007年調査とほぼ同じである。しかし、「近くに家族が住んでいれば入居させてもよいと思う」は45.7%で2.6ポイントの減少である。

2007年調査



[表 17] 性別×問 6 (高齢者の賃貸住宅入居)

	入居させるべき	近くに家族が住んでいけば	断る方が結果的にはいい	わからない	%の基数
男性	37.1%	40.7%	7.2%	15.0%	939
女性	34.2%	49.3%	4.7%	11.8%	1329
合計	35.4%	45.7%	5.8%	13.1%	2268

(1%水準で有意)

性別では男性の方が、高齢者を「他の人と同様に入居させるべきだ」の比率が、女性より2.9ポイント高く、「近くに家族が住んでいけば入居させてもよい」という条件付きで入居を肯定する人の比率は女性の方が8.6ポイント高い。

これは、実生活で高齢者と接する機会の多い女性が、現実的に考えた結果ではないかと考えられる。

[表 18] 年代×問 6 (高齢者の賃貸住宅入居)

	入居させるべき	近くに家族が住んでいけば	断る方が結果的にはいい	わからない	%の基数
10代	34.6%	45.8%	1.9%	17.8%	107
20代	36.5%	44.1%	4.3%	15.2%	211
30代	36.2%	42.1%	6.2%	15.5%	354
40代	34.1%	44.4%	5.3%	16.2%	396
50代	40.6%	42.6%	4.5%	12.3%	399
60代	33.8%	50.1%	6.1%	10.0%	479
70代	31.2%	49.8%	9.0%	10.0%	311
合計	35.4%	45.7%	5.7%	13.2%	2257

(1%水準で有意)

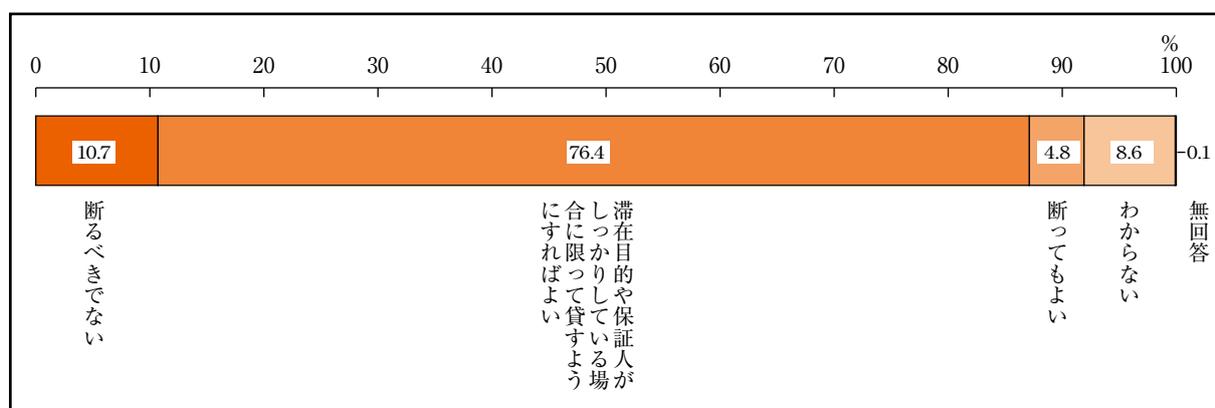
年代別では60代50.1%、70代49.8%が「近くに家族が住んでいけば入居させてもよい」との条件付きで肯定している。60代と30代の42.1%とでは約8ポイントの差がでている。

「断る方が結果的にはいい」は、70代が9.0%と高いが、10代では1.9%、20代では4.3%と低い。これは若い年代層が、高齢者を大切にしようとする気持ちを持っていることの表れと考えられるのではないかと考えられる。

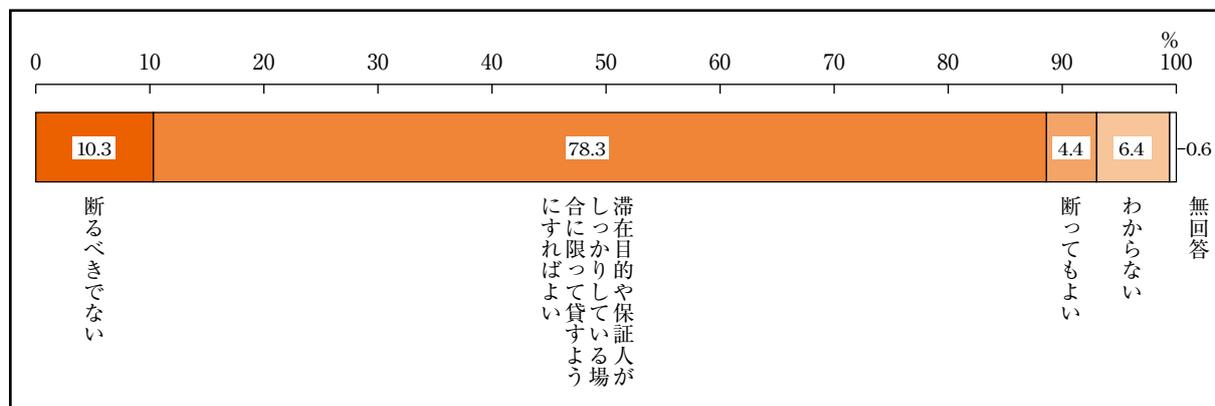
問7 外国人に家や部屋を貸すのを断る家主がありますが、あなたはどのようにお考えですか。
次の中から1つお選びください。

	人	(%)
1 断るべきではない……………	246	(10.7)
2 滞在目的や保証人がしっかりしている場合に 限って貸すようにすればよい……………	1757	(76.4)
3 断ってもよい……………	111	(4.8)
4 わからない……………	184	(8.0)
無回答……………	3	(0.1)

2012年調査



2007年調査



「断るべきでない」は、2007年調査とほぼ同じである。「滞在目的や保証人がしっかりしている場合に限り…」との条件付きで肯定する人は76.4%と、2007年調査とこれもほぼ同じである。松山では近年、身近に外国人と接する機会が多くなっているため、肯定する人が多いのではないかと考えられる。

[表 19] 性別×問7 (外国人の賃貸住宅入居)

	断るべきではない	目的・保証人がしっかりしていれば	断ってもいい	わからない	%の基数
男性	11.7%	74.0%	6.5%	7.8%	944
女性	9.9%	78.6%	3.5%	8.0%	1327
合計	10.6%	76.7%	4.8%	7.9%	2271

(1%水準で有意)

性別では、肯定する人に男女の差はあまりみられないが、「断ってもよい」は男性が女性の約2倍であることがわかる。

[表 20] 年代×問7 (外国人の賃貸住宅入居)

	断るべきではない	目的・保証人がしっかりしていれば	断ってもいい	わからない	%の基数
10代	29.0%	61.7%	4.7%	4.7%	107
20代	10.9%	79.6%	2.4%	7.1%	211
30代	9.6%	78.8%	4.2%	7.3%	354
40代	10.3%	75.3%	5.5%	8.8%	397
50代	9.5%	79.0%	3.3%	8.3%	400
60代	9.2%	78.5%	4.4%	7.9%	480
70代	9.3%	73.3%	8.4%	9.0%	311
合計	10.6%	76.7%	4.7%	8.0%	2260

(1%水準で有意)

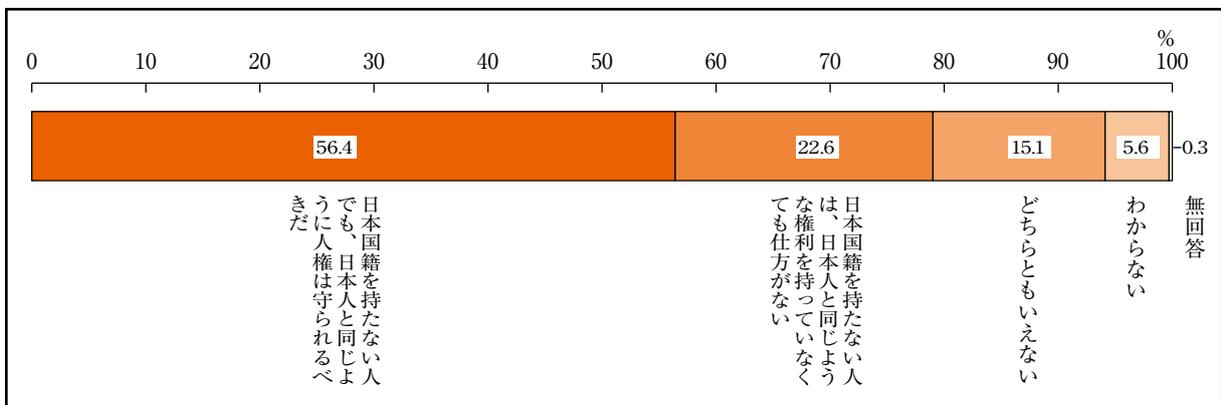
年代別では、「断るべきでない」は、10代が29.0%と、他の年代に比べて特に高い。

これは、全中学校でALT（外国語指導助手）が導入されたり、2011（平成23）年度からは小学校5・6年で、週1単位時間の英語活動が始まる等、外国人とふれあう機会が増えた結果であろうと考えられる。

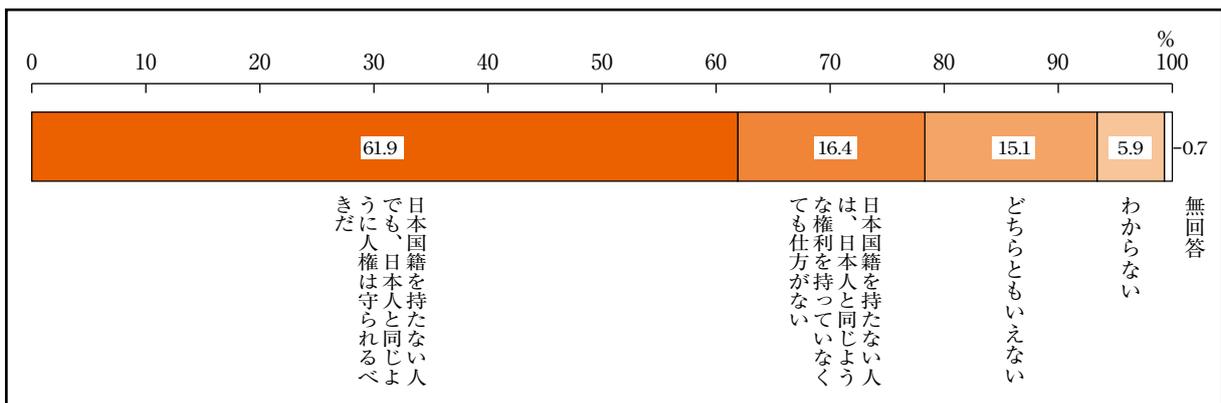
問8 日本に居住している外国人の人権について、あなたはどのようにお考えですか。次の中から1つお選びください。

	人	(%)
1 日本国籍を持たない人でも、日本人と同じように人権は守られるべきだ……	1297	(56.4)
2 日本国籍を持たない人は、日本人と同じような権利を持っていなくても仕方がない……	519	(22.6)
3 どちらともいえない……	347	(15.1)
4 わからない……	130	(5.6)
無回答……	8	(0.3)

2012年調査



2007年調査



「日本人と同じように人権は守られるべきだ」は56.4%と、2007年調査の61.9%から5.5ポイント減少し、「権利を持っていなくても仕方がない」が、2007年調査の16.4%から今回の22.6%と6.2ポイント増加している。

これは、今回の調査の時期が、日本近隣諸国との国際関係の影響を受けていたからかもしれない。

[表 21] 性別×問 8 (外国人の人権)

	人権は守られるべき	権利を持っていなくても仕方がない	どちらともいえない	わからない	%の基数
男性	54.2%	28.7%	13.5%	3.6%	941
女性	58.1%	18.6%	16.4%	6.9%	1326
合計	56.5%	22.8%	15.2%	5.5%	2267

(1%水準で有意)

性別では、「権利を持っていなくても仕方がない」は男性が女性を 10.1 ポイント上まわっている。

[表 22] 年代×問 8 (外国人の人権)

	人権は守られるべき	権利を持っていなくても仕方がない	どちらともいえない	わからない	%の基数
10代	78.5%	13.1%	6.5%	1.9%	107
20代	53.6%	23.2%	17.5%	5.7%	211
30代	52.8%	25.1%	16.1%	5.9%	354
40代	60.4%	20.2%	15.7%	3.8%	396
50代	60.1%	21.2%	15.5%	3.2%	401
60代	52.9%	26.2%	14.6%	6.3%	478
70代	51.8%	23.0%	15.2%	10.0%	309
合計	56.6%	22.7%	15.2%	5.5%	2256

(1%水準で有意)

年代別では、「人権は守られるべき」は 10 代の回答が 78.5% と飛びぬけて高い。

これは、学校教育の中で外国人とふれあう機会があることや、外国人の人権について学習する機会が多くあることの成果であると考えられる。

[表 23] 社会的援助×問 8 (外国人の人権)

	人権は守られるべき	権利を持ってなくても仕方がない	どちらともいえない	わからない	%の基数
援助一多	61.1%	23.0%	13.3%	2.7%	226
援助一中	62.3%	20.3%	13.3%	4.1%	533
援助一少	55.6%	22.0%	16.8%	5.6%	1152
援助一無	49.6%	27.2%	14.0%	9.2%	371
合計	56.7%	22.6%	15.2%	5.6%	2282

(1%水準で有意)

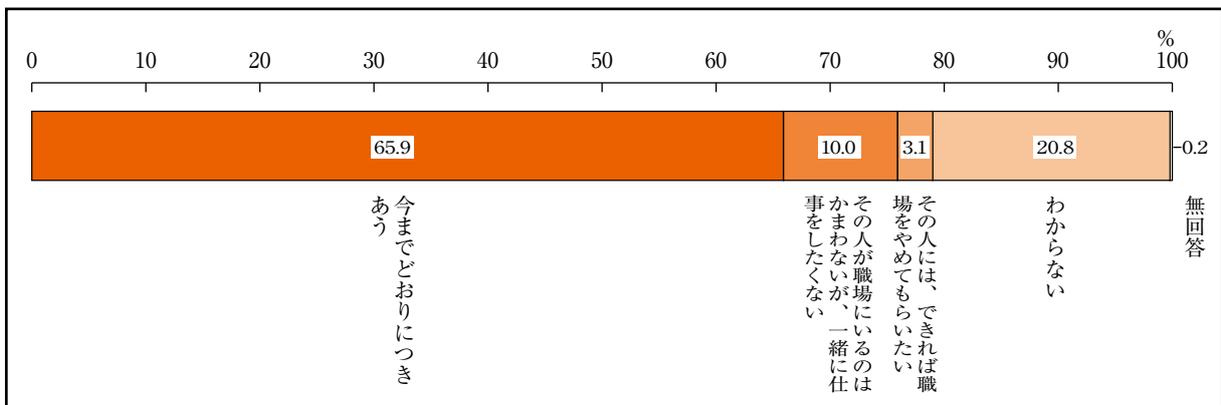
※社会的援助は、問 20 の家族以外でどれだけ手助けをしてくれるかを数値化したもので、高いほど「手助けしてくれる人が多い」ことを表している。

社会的援助がある人の方が「人権は守られるべき」とする傾向にある。

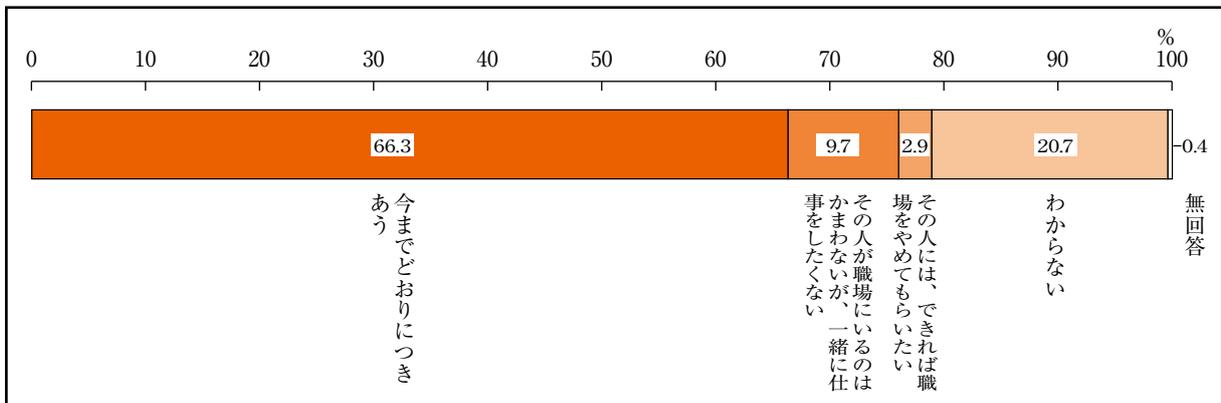
問9 もし職場の同僚がエイズ患者・HIV感染者とわかった場合、あなたはどのように思いますか。次の中から1つお選びください。

	人	(%)
1 今までどおりにつきあう……………	1516	(65.9)
2 その人が職場にいるのはかまわないが、一緒に仕事をしたくない……………	231	(10.0)
3 その人には、できれば職場をやめてもらいたい……………	71	(3.1)
4 わからない……………	479	(20.8)
無回答……………	4	(0.2)

2012年調査



2007年調査



「今までどおりにつきあう」は65.9%で、2007年調査とほぼ変わりがない。反対に、「その人が職場にいるのはかまわないが、一緒に仕事をしたくない」に「その人には、できれば職場をやめてもらいたい」の回答数を加えると13.1%になっている。この割合も2007年調査とほぼ変わりがない。この調査結果の特徴は、「わからない」が20.7%と約5人に1人の割合であるということである。

[表 24] 性別×問9（同僚がエイズ患者）

	今までどおりにつきあう	一緒に仕事をしたくない	できればやめてもらいたい	わからない	%の基数
男性	66.6%	11.7%	3.4%	18.3%	943
女性	65.8%	9.0%	2.9%	22.3%	1327
合計	66.1%	10.1%	3.1%	20.7%	2270

（1%水準で有意）

性別では「わからない」が男性 18.3% に対して、女性は 22.3% と 4 ポイントも高いことが特徴的に表れている。

今後、否定的な考えをもっている人のみならず、この「わからない」とするエイズ患者への理解が十分とはいえない人への啓発も重要であると考えられる。

[表 25] 年代×問9（同僚がエイズ患者）

	今までどおりにつきあう	一緒に仕事をしたくない	できればやめてもらいたい	わからない	%の基数
10代	78.5%	4.7%	2.8%	14.0%	107
20代	71.6%	7.6%	2.4%	18.5%	211
30代	74.1%	6.8%	2.0%	17.2%	355
40代	72.5%	7.8%	3.5%	16.2%	396
50代	67.3%	10.7%	2.7%	19.2%	401
60代	57.7%	13.2%	2.9%	26.2%	478
70代	53.1%	14.8%	5.1%	27.0%	311
合計	66.2%	10.1%	3.1%	20.6%	2259

（1%水準で有意）

年代別では、「今までどおりにつきあう」の割合は、若い世代ほど高くなる傾向が顕著に現れている。逆に、「その人が職場にいるのはかまわないが、一緒に仕事をしたくない」とする割合は、年代が上がるほど高くなる傾向がある。

このことから、エイズ問題に関する啓発を幅広い年齢層で行っていく必要があると思われる。

[表 26] *研修会等への参加状況×問9 (同僚がエイズ患者)

	今までどおりにつきあう	一緒に仕事をし たくない	できればやめて もらいたい	わからない	%の基数
なし	64.2%	10.7%	3.5%	21.6%	1807
1～2回	66.7%	10.0%	1.8%	21.5%	279
3～5回	80.3%	4.8%	2.0%	12.9%	147
6回以上	89.1%	2.2%	0.0%	8.7%	46
合計	66.0%	10.0%	3.1%	20.8%	2279

(1%水準で有意)

※研修会等への参加状況×問9は、問16の人権問題の学習会や研修会等に参加状況によってエイズ患者への理解を数値化したもの。

「今までどおりにつきあう」の割合は、人権に関する研修会等への参加回数が多くなるほど高くなり、6回以上の参加者ではほぼ9割(89.1%)に上っており、研修会等に全く参加したことがない人の64.2%とは顕著な差がみられる。

一方、「わからない」とした人の割合は、研修会等への参加回数が多くなるほど少なくなり、6回以上の参加者では8.7%である。研修会等にまったく参加したことがない人の21.6%とは大きな隔りがある。エイズ問題については、特に研修会等での学びが、差別解消のための方策として有効であると思われる。

[表 27] 社会的援助×問9 (同僚がエイズ患者)

	今までどおりにつきあう	一緒に仕事をし たくない	できればやめて もらいたい	わからない	%の基数
援助一多	73.0%	8.0%	3.1%	15.9%	226
援助一中	74.3%	9.0%	1.3%	15.4%	534
援助一少	62.5%	9.7%	3.1%	24.7%	1156
援助一無	61.3%	14.0%	5.6%	19.1%	372
合計	66.1%	10.1%	3.1%	20.7%	2288

(1%水準で有意)

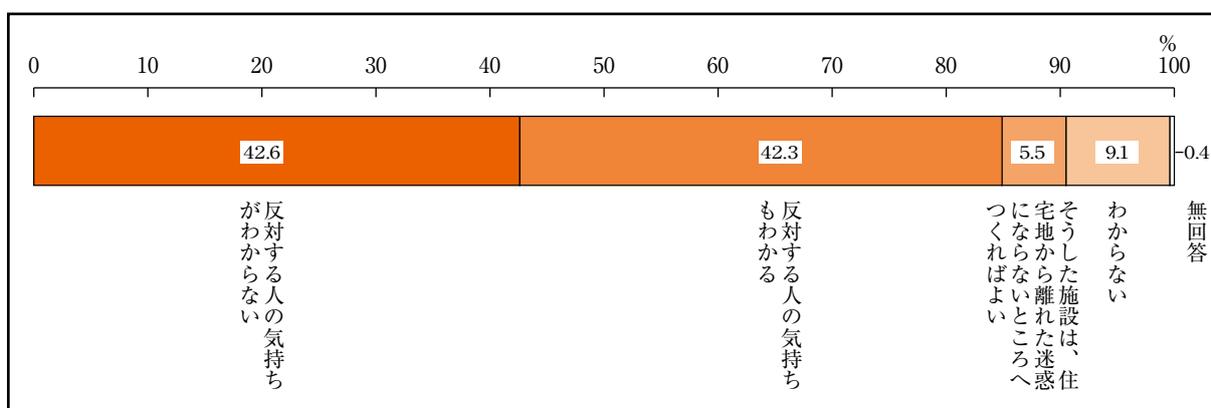
※社会的援助は、問20の家族以外でどれだけ手助けをしてもらえるかを数値化したもので、高いほど「手助けしてくれる人が多い」ことを表している。

社会的援助が多い人ほど、「今までどおりにつきあう」と答える傾向にある。

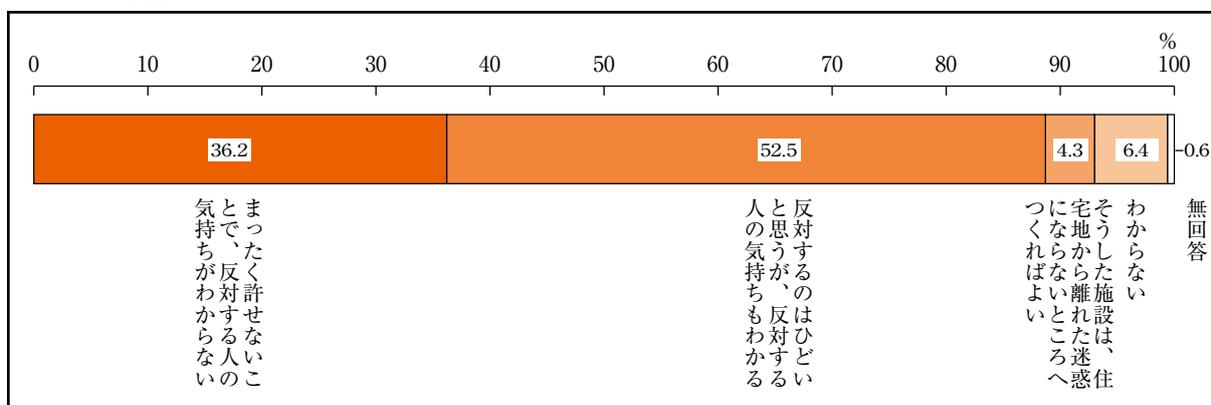
問 10 障がい者がくらす施設が地域に設置されようとした時に、地域住民が反対することがありますが、あなたはどのように思いますか。次の中から1つお選びください。

	人	(%)
1 反対する人の気持ちがわからない……………	980	(42.6)
2 反対する人の気持ちもわかる……………	974	(42.3)
3 そうした施設は、住宅地から離れた 迷惑にならないところにつくればよい……………	129	(5.5)
4 わからない……………	209	(9.1)
無回答……………	9	(0.4)

2012年調査



2007年調査



「反対する人の気持ちもわかる」回答が42.3%で2007年調査に比べて10.2ポイント減少し、「反対する人の気持ちがわからない」が6.4ポイント増加した。2007年調査と大きく変わったのは、「反対する人の気持ちがわからない」との回答が大きくポイントを伸ばし、「反対する人の気持ちもわかる」とする回答と逆転したことである。障がい者施設や障がい者への理解が進んできていることの現れと思われる。

2012年調査 [表 28] 年代×問 10 (障がい者施設)

	反対する人の気持ち がわからない	反対する人の気持ち もわかる	住宅地から離れた 場所へ	わからない	%の基数
10代	46.7%	44.9%	1.9%	6.5%	107
20代	42.7%	40.8%	7.1%	9.5%	211
30代	38.6%	46.8%	3.9%	10.7%	355
40代	41.3%	46.9%	4.5%	7.3%	397
50代	43.3%	45.0%	4.0%	7.8%	400
60代	46.1%	39.2%	5.2%	9.4%	477
70代	42.7%	34.3%	12.0%	11.0%	309
合計	42.8%	42.5%	5.6%	9.0%	2256

(1%水準で有意)

2007年調査 [表 29] 年代×問 10 (障がい者施設)

	反対する人の気持ち がわからない	反対する人の気持ち もわかる	住宅地から離れた 場所へ	わからない	%の基数
10代	41.4%	45.7%	6.0%	6.9%	116
20代	36.9%	54.8%	2.1%	6.2%	241
30代	29.2%	59.8%	4.1%	6.8%	366
40代	31.6%	59.4%	2.2%	6.7%	313
50代	40.1%	50.5%	4.9%	4.5%	426
60代	41.9%	46.5%	4.5%	7.1%	396
70代	34.5%	50.2%	7.5%	7.8%	255
合計	36.3%	52.9%	4.4%	6.4%	2113

(1%水準で有意)

年代別の回答では、「反対する人の気持ちわからない」の割合はどの年代でも増加しているが、特に30代～40代は約10ポイントも増加している。「反対する人の気持ちもわかる」は、2007年調査に比べ20代、30代、40代が12～14ポイントも減少している。しかし、その反面、今回の調査の30代～50代では「反対する人の気持ちもわかる」が「反対する人の気持ちわからない」を上回っていることから、今後ともさらなる障がい者への理解を深めるための啓発活動が必要である。

[表 30] 団体参加度×問 10 (障がい者施設)

	反対する人の気持ち がわからない	反対する人の気 持ちもわかる	住宅地から離れ た場所へ	わからない	%の基数
活発	46.1%	41.8%	6.5%	5.6%	232
やや活発	45.0%	43.7%	4.5%	6.9%	378
やや不活発	42.2%	44.2%	5.0%	8.6%	606
不活発	43.5%	42.7%	4.9%	9.0%	536
なし	39.2%	39.4%	7.9%	13.5%	495
合計	42.7%	42.5%	5.7%	9.2%	2247

(1%水準で有意)

※団体参加度は、問 18・問 19 の団体やグループにどの程度かかわっているのかを数値化したもので、関わりが多いほど「活発」と表している。

※団体とは、自治会・町内会、趣味やスポーツ団体、ボランティア団体、PTAまたは保護者を指す。

団体参加度が活発な人ほど「反対する人の気持ちかわからない」と答える傾向にある。

[表 31] 社会的援助×問 10 (障がい者施設)

	反対する人の気持ち がわからない	反対する人の気 持ちもわかる	住宅地から離れ た場所へ	わからない	%の基数
援助一多	48.0%	40.9%	4.4%	6.7%	225
援助一中	43.2%	48.1%	3.4%	5.3%	532
援助一少	42.0%	41.8%	6.3%	9.8%	1152
援助一無	41.4%	37.9%	7.5%	13.2%	372
合計	42.8%	42.6%	5.7%	9.0%	2281

(1%水準で有意)

※社会的援助は、問 20 の家族以外でどれだけ手助けをしてもらえるかを数値化したもので、高いほど「手助けしてくれる人が多い」ことを表している。

社会的援助が多い人ほど「反対する人の気持ちかわからない」と答える傾向にある。

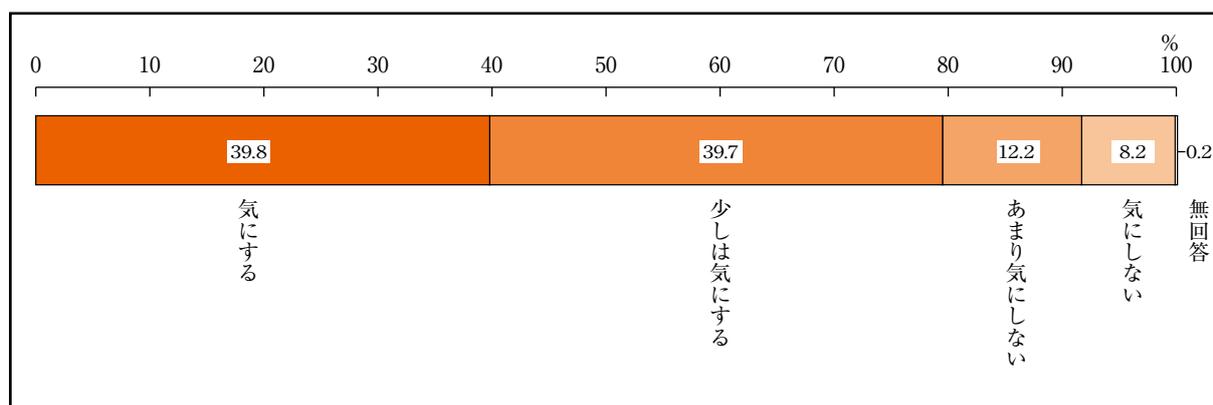
2 慣習や因習に関する意識

問 11 次にあげる A, B, C について、あなたはどのように思いますか。
次の中からそれぞれ 1 つお選びください。

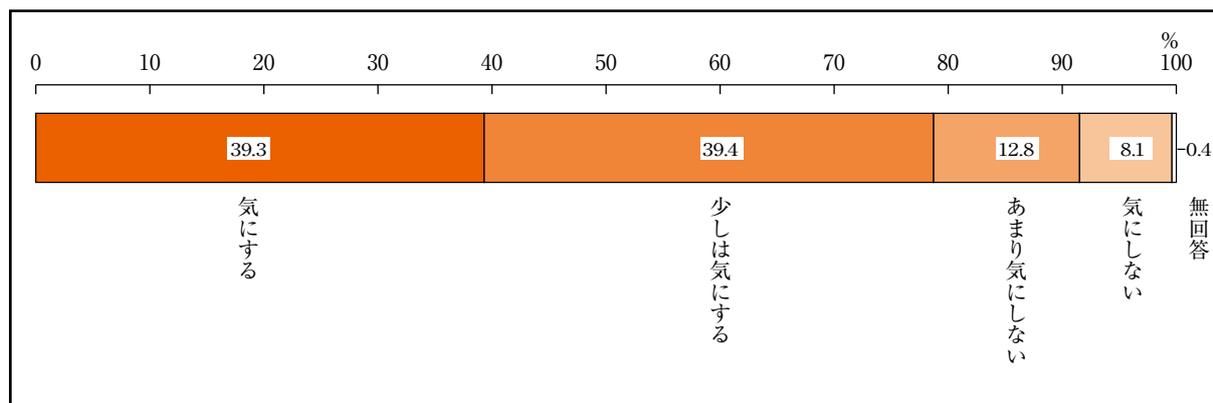
A 結婚式や葬儀を行うときに、「大安」・「仏滅」や「友引」などを気にしますか、気にしませんか。

	人	(%)
1 気にする……………	915	(39.8)
2 少しは気にする……………	914	(39.7)
3 あまり気にしない……………	280	(12.2)
4 気にしない……………	188	(8.2)
無回答……………	4	(0.2)

2012 年調査



2007 年調査



「大安」「仏滅」「友引」等の「六曜」を「気にする」「少しは気にする」と答えた人の割合は、79.5%に及んでいる。2007 年調査と同じ傾向がみられる。

2012年調査 [表 32] 性別×問 11 A (大安・仏滅を気にするか)

	気にする	少しは 気にする	あまり 気にしない	気にしない	%の基数
男性	39.1%	38.3%	12.6%	10.0%	944
女性	40.5%	41.0%	11.8%	6.8%	1326
合計	39.9%	39.9%	12.1%	8.1%	2270

(1%水準で有意)

2007年調査 [表 33] 性別×問 11 A (大安・仏滅を気にするか)

	気にする	少しは 気にする	あまり 気にしない	気にしない	%の基数
男性	35.9%	40.0%	14.1%	9.9%	919
女性	42.3%	39.1%	11.9%	6.7%	1204
合計	39.5%	39.5%	12.9%	8.1%	2123

「六曜」に対する意識を性別で見ると、「気にする」「少しは気にする」を合わせると女性の81.5%が「気にする」と答えており、男性より4.1ポイント高い。女性の方が気にする傾向が強い。

[表 34] 年代×問 11 A (大安・仏滅を気にするか)

	気にする	少しは 気にする	あまり 気にしない	気にしない	%の基数
10代	25.2%	41.1%	14.0%	19.6%	107
20代	34.6%	40.3%	13.3%	11.8%	211
30代	33.6%	44.4%	13.3%	8.8%	354
40代	41.2%	40.2%	12.8%	5.8%	398
50代	44.1%	38.2%	10.5%	7.2%	401
60代	40.3%	41.5%	11.3%	6.9%	479
70代	47.9%	34.0%	11.3%	6.8%	309
合計	39.9%	40.0%	12.0%	8.1%	2259

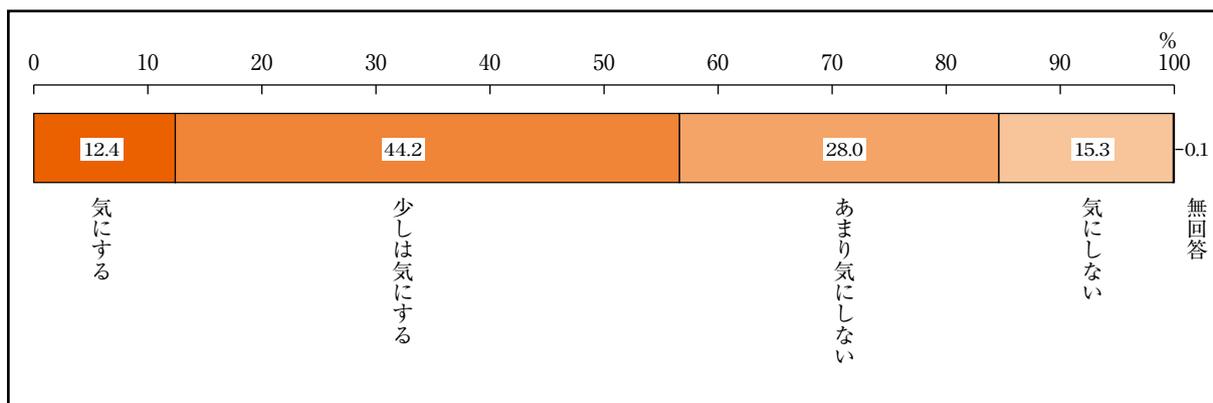
(1%水準で有意)

40代以上は「気にする」「少しは気にする」が8割を越えているが、若い年代ほど「気にしない」傾向がみられる。しかし、10代でも66.3%、20代でも74.9%と、約7割の人がいまだに「六曜」を気にしている。

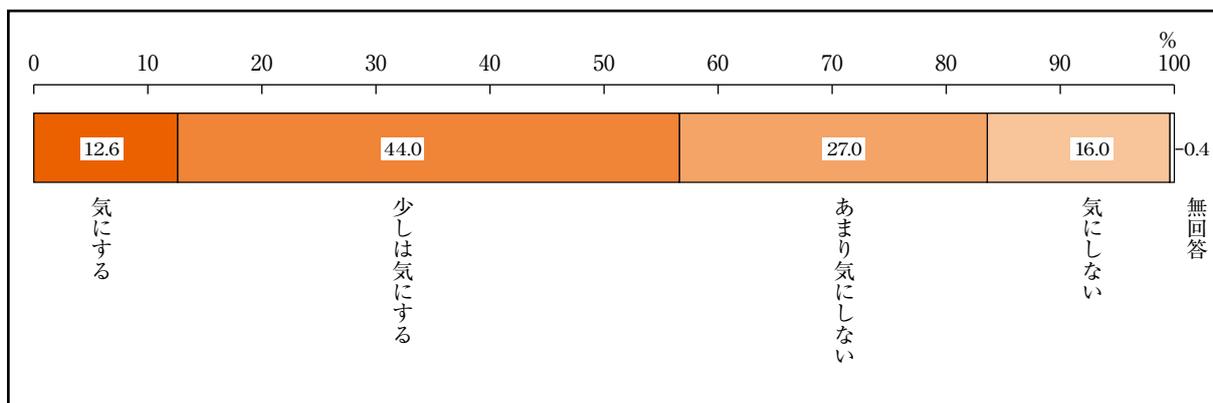
B あなたの身内の結婚のときに、相手の家柄などを気にしますか、気にしませんか。

	人	(%)
1 気にする	268	(12.4)
2 少しは気にする	1016	(44.2)
3 あまり気にしない	645	(28.0)
4 気にしない	351	(15.3)
無回答	3	(0.1)

2012年調査



2007年調査



2012年調査 [表 35] 性別×問 11B (家柄を気にするか)

	気にする	少しは 気にする	あまり 気にしない	気にしない	%の基数
男性	11.7%	39.2%	29.6%	19.6%	944
女性	13.0%	47.7%	27.2%	12.1%	1327
合計	12.4%	44.2%	28.2%	15.2%	2271

(1%水準で有意)

「身内の結婚のときに相手の家柄を気にするかどうか」では、56.6%の人が「気にする」「少しは気にする」と答えている。

「気にする」「少しは気にする」を合わせた人の割合は、女性が9.8ポイント高い。

[表 36] 年代×問 11B (家柄を気にするか)

	気にする	少しは 気にする	あまり 気にしない	気にしない	%の基数
10代	12.1%	32.7%	25.2%	29.9%	107
20代	8.5%	41.2%	28.9%	21.3%	211
30代	10.4%	39.7%	29.0%	20.8%	355
40代	12.8%	49.9%	23.9%	13.4%	397
50代	13.7%	46.4%	25.9%	14.0%	401
60代	11.9%	44.1%	33.8%	10.2%	479
70代	15.2%	45.5%	27.7%	11.6%	310
合計	12.3%	44.2%	28.2%	15.3%	2260

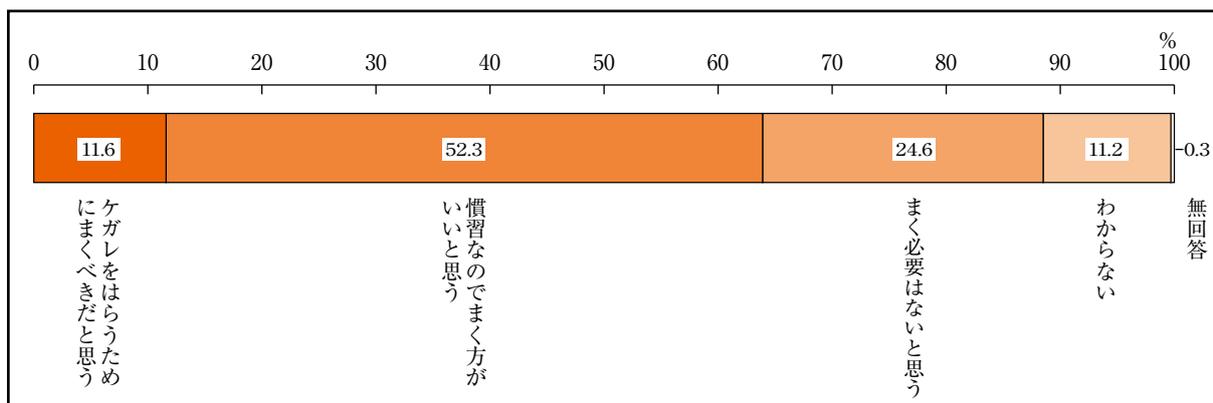
(1%水準で有意)

年代別では、「気にする」「少しは気にする」が40代より上の年代で高い傾向がみられる。

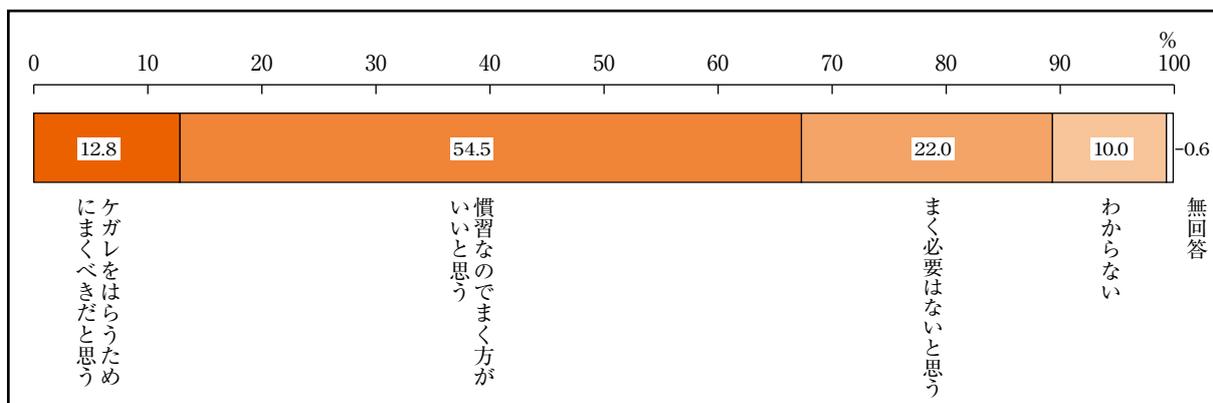
C 葬儀の後で、「清め塩」をまくことについてどのように思いますか。

	人	(%)
1 ケガレをはらうためにまくべきだと思う……………	268	(11.6)
2 慣習なのでまく方がいいと思う……………	1203	(52.3)
3 まく必要はないと思う……………	565	(24.6)
4 わからない……………	257	(11.2)
無回答……………	8	(0.3)

2012 年調査



2007 年調査



葬儀の後で「清め塩」をまく慣習については、63.9%が「ケガレをはらうためにまくべき」「慣習なのでまく方がいい」と答えている。「まく必要がない」と答えた人は24.6%にとどまっている。

2007年調査と比べると、「まくべき」が1.2ポイント減り、「まく必要がない」が2.6ポイント増えている。

[表 37] 年代×問 11 C (清め塩をまく)

	ケガレをはらう ためにまく	慣習なのでまく	まく必要はない	わからない	%の基数
10代	9.3%	55.1%	14.0%	21.5%	107
20代	12.4%	56.7%	10.0%	21.0%	210
30代	13.0%	56.1%	18.0%	13.0%	355
40代	12.1%	51.0%	23.2%	13.6%	398
50代	12.5%	49.8%	30.5%	7.3%	400
60代	10.3%	50.0%	31.8%	7.9%	478
70代	11.6%	53.5%	28.7%	6.1%	310
合計	11.7%	52.4%	24.6%	11.2%	2256

(1%水準で有意)

10代 (21.5%) と 20代 (21.0%) が、「わからない」と答えていることは注目に値する。

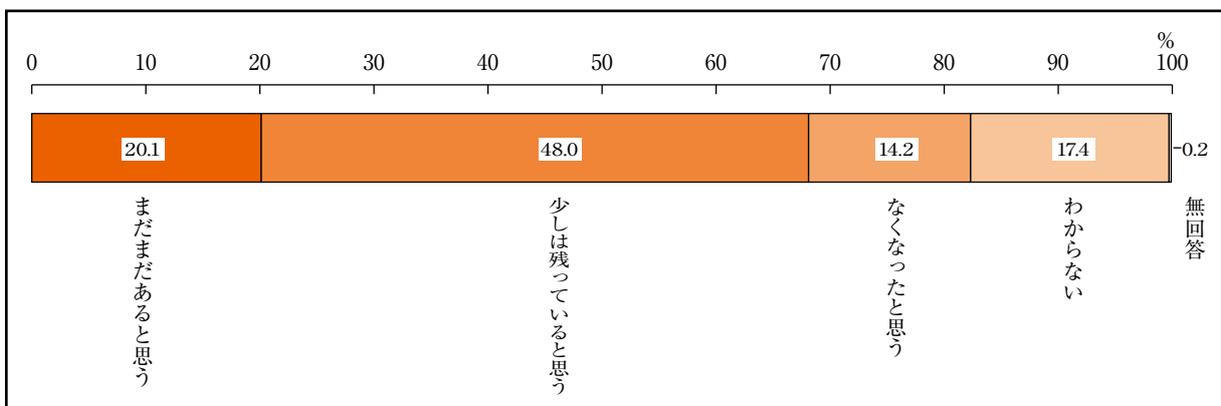
今後、因習によって差別意識が助長されないよう、様々な機会を捉えて啓発していくことが大切である。また、わからないで留めるのではなく、若い世代にも死に対するケガレ意識が様々な差別につながることを伝え、差別を解消していくための正しい認識を深めていくことが必要である。

3 同和問題に関する意識

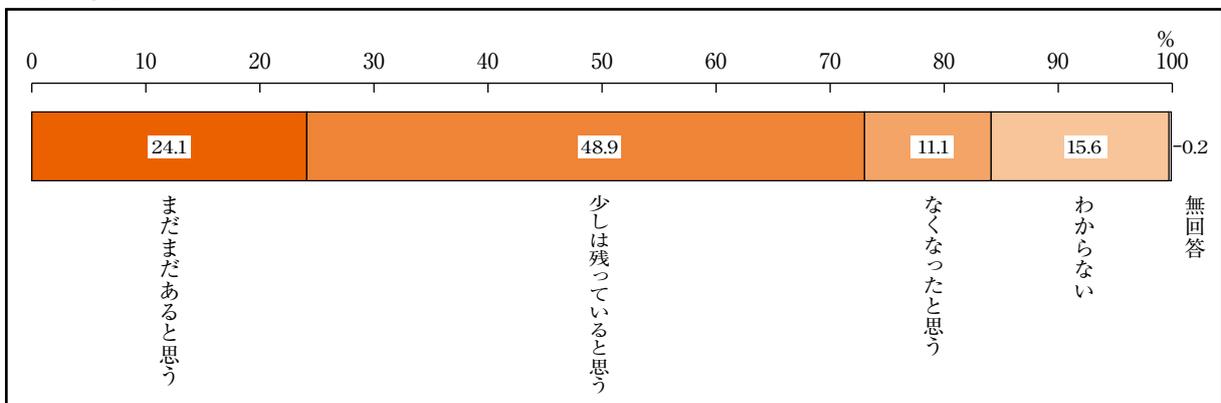
問 12 あなたは、今なお同和問題（部落差別）にかかわる差別があると思いますか、思いませんか。

	人	(%)
1 まだまだあると思う……………	463	(20.1)
2 少しは残っていると思う……………	1105	(48.0)
3 なくなったと思う……………	327	(14.2)
4 わからない……………	401	(17.4)
無回答……………	5	(0.2)

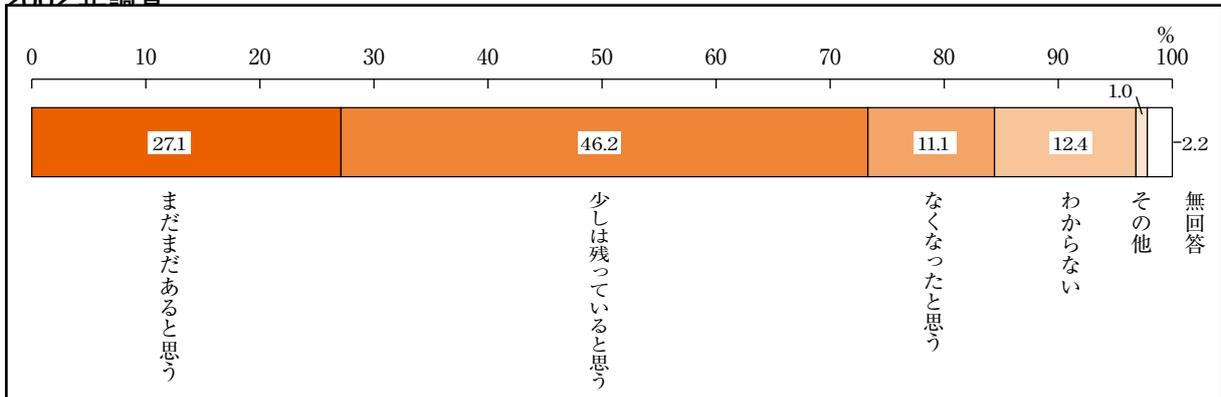
2012 年調査



2007 年調査



2002 年調査



今回の調査では「なくなったと思う」が2002年の11.1%と比較すると、10年で3.1ポイント増え、「まだまだあると思う」が2002年調査の27.1%と比較すると、7ポイント減っている。このことは同和問題にかかわる差別が、少しずつ解消に向かっているものと思われる。

[表 38] 性別×問 12 (同和問題の存在)

	あると思う	少しは残っている	なくなったと思う	わからない	%の基数
男性	21.2%	45.8%	16.4%	16.6%	945
女性	19.3%	50.1%	12.5%	18.1%	1324
合計	20.1%	48.3%	14.1%	17.5%	2269

(1%水準で有意)

性別では、「まだまだあると思う」「少しは残っていると思う」を合わせると、男性67.0%、女性69.4%で女性が2.4ポイント高く、「なくなったと思う」は男性が3.9ポイント高い。

[表 39] 年代×問 12 (同和問題の存在)

	あると思う	少しは残っている	なくなっている	わからない	%の基数
10代	20.6%	35.5%	15.9%	28.0%	107
20代	15.2%	41.7%	12.8%	30.3%	211
30代	22.0%	44.1%	11.9%	22.0%	354
40代	23.9%	46.9%	9.6%	19.6%	397
50代	22.0%	51.8%	13.0%	13.3%	400
60代	19.2%	51.7%	15.9%	13.2%	478
70代	14.5%	55.3%	21.2%	9.0%	311
合計	20.0%	48.4%	14.1%	17.4%	2258

(1%水準で有意)

年代別では、「まだまだあると思う」「少しは残っている」で30代より上の年代で、7割前後の高いポイント傾向がみられる。

[表 40] 研修会等への参加×問 12 (同和問題の存在)

	あると思う	少しは残っている	なくなっている	わからない	%の基数
なし	18.6%	48.0%	15.1%	18.3%	1808
1～2回	22.7%	52.2%	11.9%	13.3%	278
3～5回	27.9%	46.3%	9.5%	16.3%	147
6回以上	41.3%	39.1%	10.9%	8.7%	46
合計	20.2%	48.2%	14.3%	17.4%	2279

(1%水準で有意)

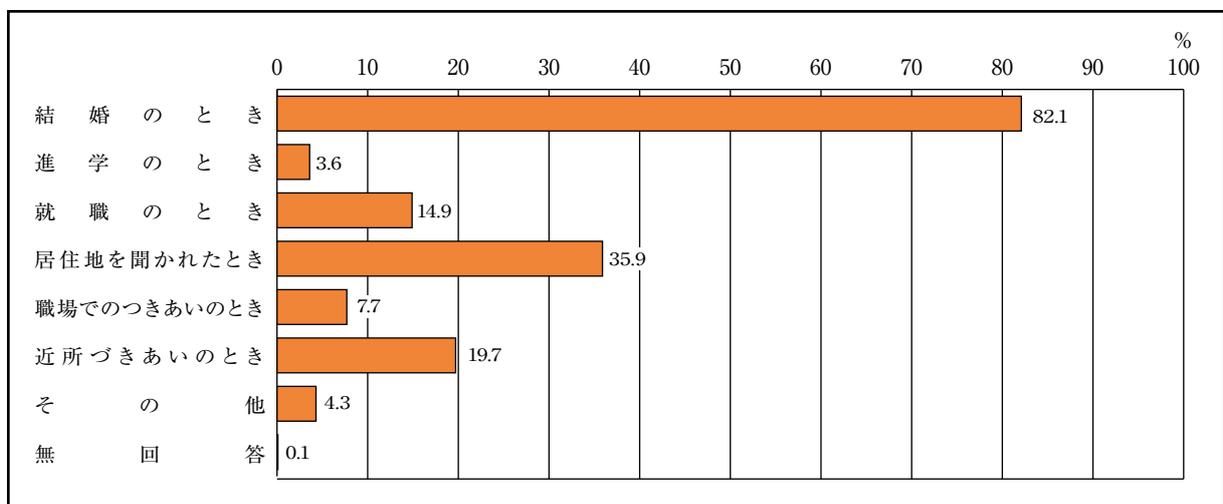
研修会等への参加回数が多い人ほど、同和問題の存在について「まだまだあると思う」とする傾向が強い。このことは、研修会等での学習を通して、「差別を認識し、差別を許さない」とする意識が高まっているのではないと思われる。

問 12 - 2 問 12 で「1」または「2」を選んだ方におたずねします。それはどんな時ですか。
 あてはまるものをすべてお選びください。

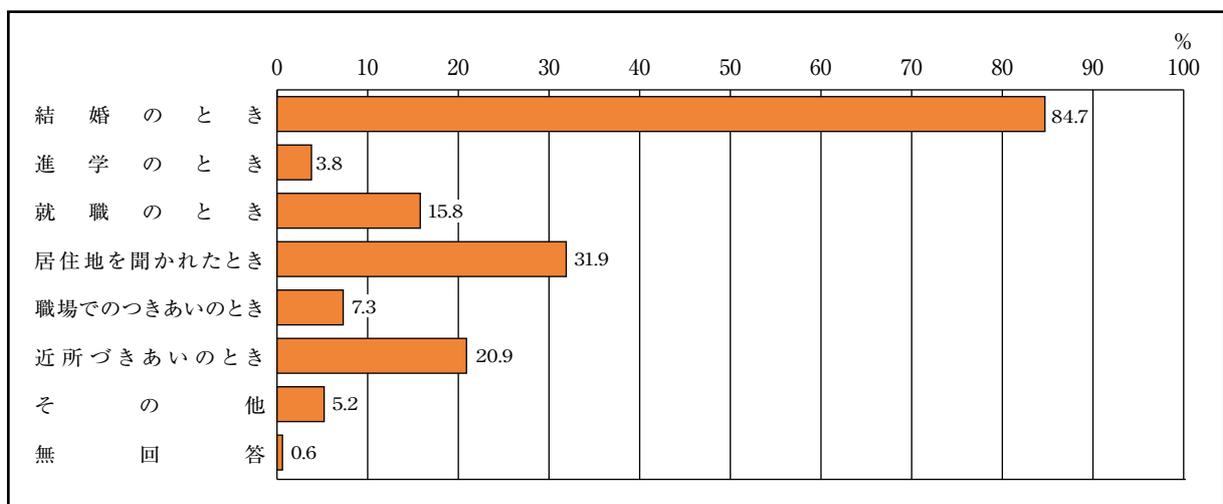
	人	(%)	[複数回答]
1 結婚のとき	1287	(82.1)	
2 進学の時	57	(3.6)	
3 就職の時	233	(14.9)	
4 居住地を聞かれたとき	563	(35.9)	
5 職場でのつきあいのとき	121	(7.7)	
6 近所づきあいのとき	309	(19.7)	
7 その他(具体的に：)	100	(4.3)	
無回答	2	(0.1)	

N = 1568

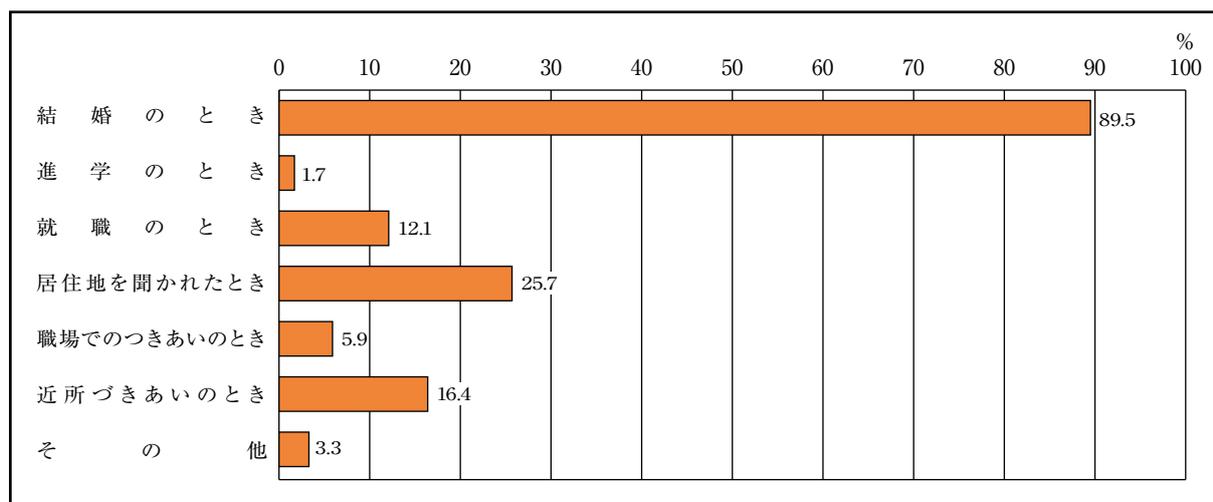
2012年調査



2007年調査



2002年調査



過去の調査でも、「結婚のとき」が一番多く80%を越えており、まだまだ啓発活動の継続的な実施が欠かせない状況である。

3回の調査で「結婚のとき」と答えた人の割合は、2002年89.5%、2007年84.7%、2012年82.1%とだんだん減ってきており、少しずつ解消に向かっていると考えられる。

[表 41] 性別×問12-2 (あると思う差別) [複数回答]

	結婚	進学	就職	居住地	職場	近所	その他	%の基数
男性	76.7%	4.3%	17.5%	37.5%	10.6%	20.6%	7.6%	635
女性	85.9%	3.2%	13.1%	34.9%	5.8%	19.3%	5.7%	915

性別では「結婚のとき」は女性が高く、「就職のとき」は男性が高い。

[表 42] 年代×問12-2 (あると思う差別) [複数回答]

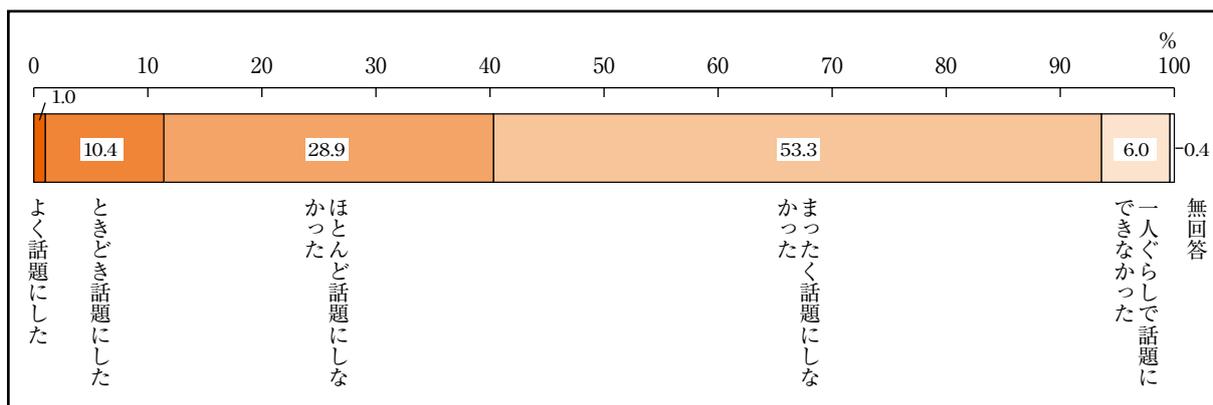
	結婚	進学	就職	居住地	職場	近所	その他	%の基数
10代	66.7%	15.0%	38.3%	50.0%	15.0%	26.7%	15.0%	60
20代	75.6%	5.0%	30.3%	44.5%	12.6%	24.4%	8.4%	119
30代	73.7%	5.2%	19.0%	44.0%	12.1%	30.6%	12.1%	232
40代	83.3%	3.2%	18.1%	37.7%	6.4%	23.1%	8.2%	281
50代	84.1%	2.7%	9.8%	32.4%	5.1%	13.9%	4.1%	296
60代	87.1%	2.1%	10.0%	30.9%	5.0%	13.5%	4.1%	340
70代	87.4%	2.3%	6.0%	29.3%	7.9%	18.1%	1.9%	215

年代別では、若い世代ほど結婚に際して同和問題にかかわる差別意識が減少している。

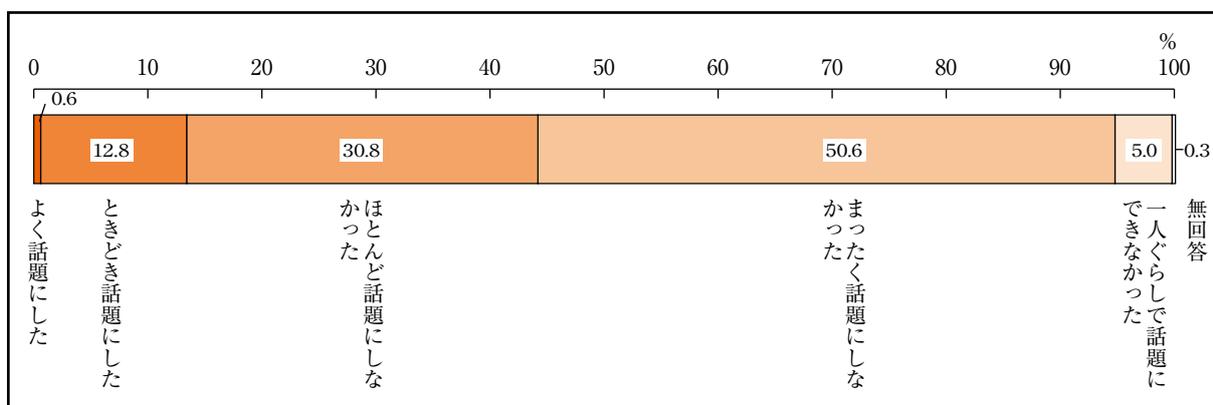
問 13 あなたは、この1年間に家族との間で、同和問題をどの程度話題にしましたか。

	人	(%)
1 よく話題にした	23	(1.0)
2 ときどき話題にした	239	(10.4)
3 ほとんど話題にしなかった	666	(28.9)
4 まったく話題にしなかった	1226	(53.3)
5 一人ぐらしで話題にできなかった	138	(6.0)
無回答	9	(0.4)

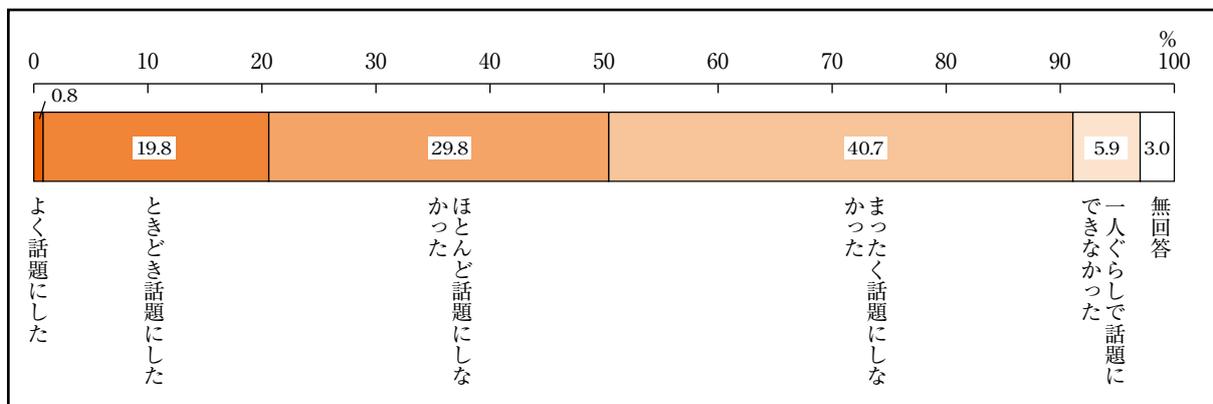
2012年調査



2007年調査



2002年調査



家族との間では、「よく話題にした」と「ときどき話題にした」を合わせると11.4%となっている。2002年調査の20.6%と比較すると、10年間で9.2ポイント減少している

3回の調査を比べると、調査ごとに「よく話題にした」と「ときどき話題にした」が減って、「ほとんど話題にしなかった」「まったく話題にしなかった」が大幅に増えている。

[表 43] 年代×問 13 (家族で同和問題を話題にしたか)

	よく話題にした	ときどき話題にした	ほとんど話題にしなかった	まったく話題にしなかった	一人ぐらし	%の基数
10代	0.9%	13.1%	22.4%	60.7%	2.8%	107
20代	1.9%	7.6%	22.9%	60.0%	7.6%	210
30代	0.6%	10.2%	23.4%	60.7%	5.1%	354
40代	1.3%	10.3%	25.2%	58.4%	4.8%	397
50代	1.0%	7.8%	33.3%	52.0%	6.0%	400
60代	1.3%	10.9%	31.0%	50.6%	6.3%	478
70代	0.3%	14.3%	39.0%	38.6%	7.8%	308
合計	1.0%	10.4%	29.1%	53.5%	5.9%	2254

(1%水準で有意)

「ときどき話題にした」は10代が13.1%、70代が14.3%と他の年代より約3～7ポイント高い。このことは、学校教育や社会教育における研修会等の成果であろうと考えられる。

「正しい認識を深めるための家族との話し合い」で他の年代に広がっていくことが、今後の課題となってくると考えられる。

また、今後も機会をとらえて同和問題の解決に向けての話し合いが活発になっていくような取組を工夫していかなければならないと考える。

[表 44] 研修会への参加×問 13 (家族と同和問題を話題にしたか)

	話題にした	ほとんど話題にしなかった	まったく話題にしなかった	一人ぐらし	%の基数
なし	9.5%	28.4%	55.6%	6.4%	1803
1～2回	17.6%	32.6%	45.5%	4.3%	279
3～5回	17.7%	29.9%	48.3%	4.1%	147
6回以上	28.3%	26.1%	41.3%	4.3%	46
合計	11.4%	29.0%	53.6%	6.0%	2275

(1%水準で有意)

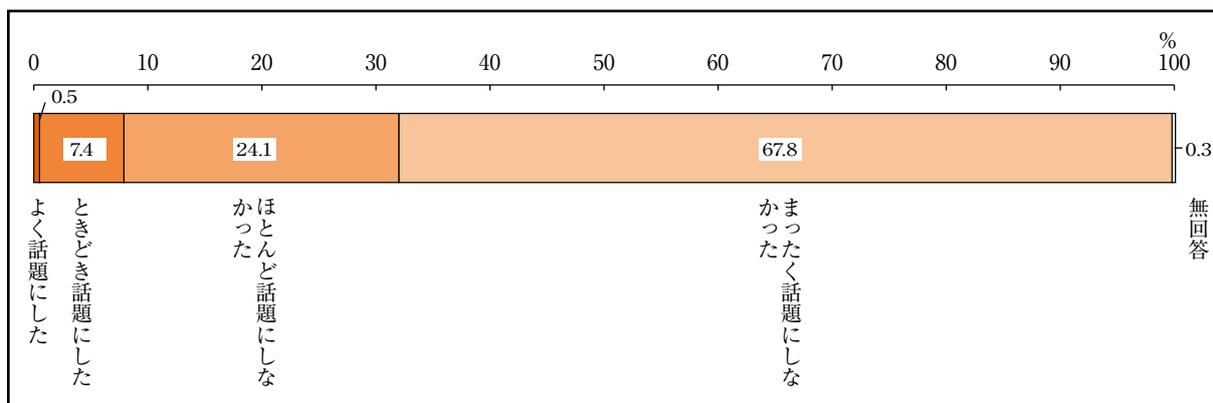
注)「話題にした」は「よく話題にした」と「ときどき話題にした」を統合した。

研修会への参加頻度が高い人ほど、同和問題を話題にする傾向にある。

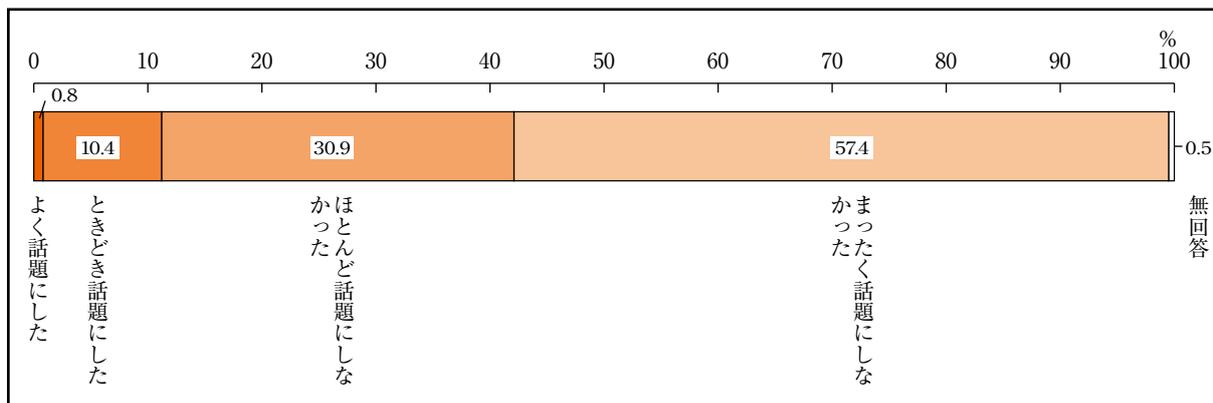
問 14 あなたは、この1年間に友人との間で、同和問題をどの程度話題にしましたか。

	人	(%)
1 よく話題にした……………	11	(0.5)
2 ときどき話題にした……………	170	(7.4)
3 ほとんど話題にしなかった……………	554	(24.1)
4 まったく話題にしなかった……………	1559	(67.8)
無回答……………	7	(0.3)

2012年調査



2007年調査



[表 45] 年代×問 14 (友人と同和問題を話題にしたか)

	よく話題にした	ときどき話題にした	ほとんど話題にしなかった	まったく話題にしなかった	%の基数
10代	0.9%	12.1%	23.4%	63.6%	107
20代	0.5%	5.2%	17.1%	77.1%	210
30代	0.0%	7.9%	15.3%	76.8%	354
40代	0.5%	4.5%	19.6%	75.3%	397
50代	1.0%	6.0%	25.9%	67.1%	401
60代	0.6%	6.3%	29.8%	63.3%	477
70代	0.0%	12.9%	33.5%	53.5%	310
合計	0.5%	7.3%	24.1%	68.2%	2256

(1%水準で有意)

同和問題を話題にした人は、「よく話題にした」「ときどき話題にした」を合わせると7.9%、2007年調査の11.2%から3.3ポイント減っており、問13「家族との話し合い」が2.7ポイント減っているのと同様の傾向を示している。

この傾向は、従来の同和問題を中心とした取組から、社会に存在する多様な人権問題の取組へと広がっていることが要因ではないかと考えられる。

年代別では、10代と70代に「時々話題にした」と答えた人が多い。

今後も、同和問題解決に向けての話し合いが活発になっていくような取組を工夫していかなければならないと考える。

[表 46] 研修会への参加×問 14 (友人と同和問題を話題にしたか)

	話題にした	ほとんど話題にしなかった	まったく話題にしなかった	%の基数
なし	6.4%	22.2%	71.4%	1804
1～2回	10.8%	30.5%	58.8%	279
3～5回	16.3%	27.9%	55.8%	147
6回以上	19.6%	39.1%	41.3%	46
合計	7.8%	23.9%	68.2%	2276

(1%水準で有意)

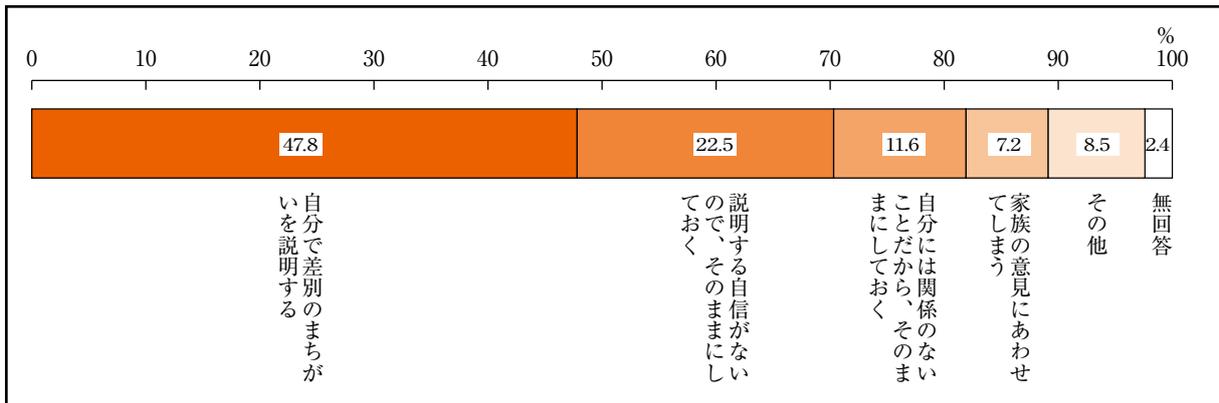
注) 「話題にした」は「よく話題にした」と「ときどき話題にした」を統合した。

研修会への参加頻度が高い人ほど、同和問題を話題にする傾向にある。

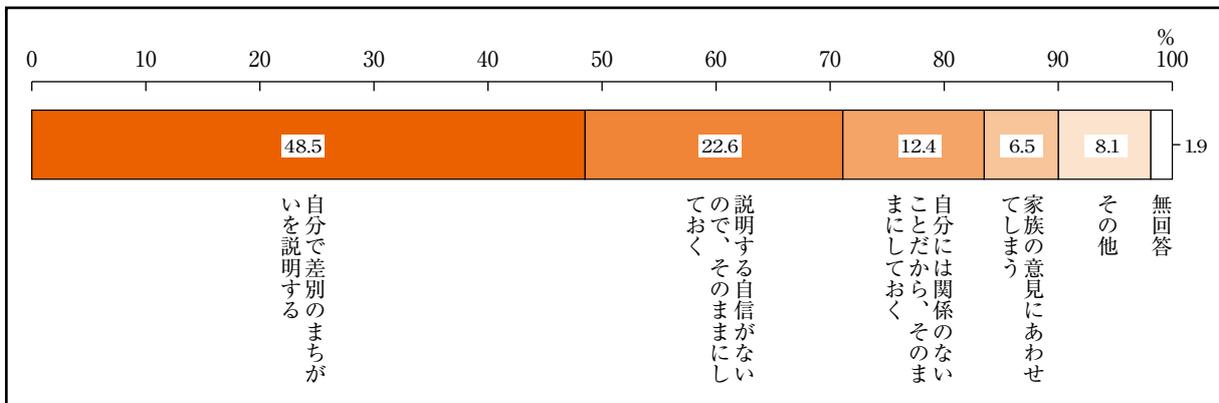
問 15 もし家族から同和問題について差別的な話が出たとき、あなたはどのようにしますか。次の中から1つお選びください。

	人	(%)
1 自分で差別のまちがいを説明する……………	1100	(47.8)
2 説明する自信がないので、そのままにしておく……………	517	(22.5)
3 自分には関係のないことだから、そのままにしておく……………	268	(11.6)
4 家族の意見にあわせてしまう……………	165	(7.2)
5 その他（具体的に：) ……………	196	(8.5)
無回答……………	55	(2.4)

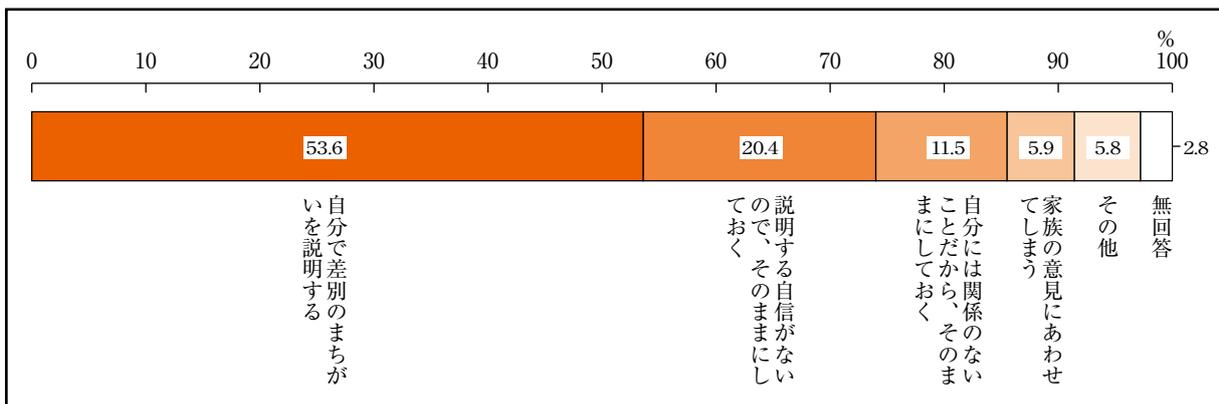
2012 年調査



2007 年調査



2002 年調査



「自分で差別のまちがいを説明する」と答えている人は47.8%である。一方で「そのまま」22.5%、「自分には関係ない」11.6%、「家族にあわせる」7.2%を合わせると41.3%になる。

今回調査と2002年・2007年調査の3回を比べると、調査ごとに「自分で差別のまちがいを説明する」が少しずつ減っている。特に2002年調査の53.6%と比較すると、10年間で5.8ポイント減少している。

[表 47] 性別×問 15 (差別的な言動への対応)

	自分で説明する	説明する自信がないのでそのまま	自分に関係ないのでそのまま	家族の意見にあわせる	その他	％の基数
男性	50.8%	19.6%	13.5%	6.8%	9.4%	929
女性	47.8%	25.2%	10.8%	7.8%	8.4%	1292
合計	49.1%	22.9%	11.9%	7.4%	8.8%	2221

(1%水準で有意)

性別では、男女共に約半数が「自分で説明する」と回答しているが、「説明する自信がないのでそのままにしておく」と答えたのは女性が5.6ポイント高い。

[表 48] 年代×問 15 (差別的な言動への対応)

	自分で説明する	説明する自信がないのでそのまま	自分に関係ないのでそのまま	家族の意見にあわせる	その他	％の基数
10代	48.6%	23.8%	13.3%	11.4%	2.9%	105
20代	45.5%	20.6%	15.8%	10.0%	8.1%	209
30代	51.0%	24.1%	7.9%	6.5%	10.5%	353
40代	59.9%	19.9%	5.4%	5.4%	9.4%	392
50代	47.3%	26.8%	10.4%	5.3%	10.1%	395
60代	45.8%	23.5%	15.5%	7.8%	7.4%	459
70代	43.4%	20.2%	17.5%	10.1%	8.8%	297
合計	49.2%	22.9%	11.8%	7.4%	8.8%	2210

(1%水準で有意)

年代別では、「自分で差別のまちがいを説明する」と答えた人は、40代59.9%を分岐点として、若年層・高齢層に向かって徐々に減っていく傾向にある。

40代は、家族の中心となる親の世代で、その割合が高いことは子どもや高齢者に対する指導が正しく行われているという現実を示していると考えられ、この世代への研修会の充実が、同和問題の解決に大きな効果を生み出すのではないかと考えられる。

[表 49] 問 11 A (大安・仏滅を気にするか) × 問 15 (差別的な言動への対応)

	自分で説明する	説明する自信がないのでそのまま	自分に関係ないのでそのまま	家族の意見に合わせる	その他	％の基数
気にする	42.8%	25.0%	12.8%	10.5%	9.0%	893
少しは気にする	52.6%	23.7%	10.1%	6.1%	7.5%	890
あまり気にしない	52.3%	21.7%	12.3%	2.5%	11.2%	277
気にしない	57.4%	12.0%	15.8%	5.5%	9.3%	183
合計	49.0%	23.0%	11.9%	7.4%	8.7%	2243

(1%水準で有意)

[表 50] 問 11 B (家柄を気にするか) × 問 15 (差別的な言動への対応)

	自分で説明する	説明する自信がないのでそのまま	自分に関係ないのでそのまま	家族の意見に合わせる	その他	％の基数
気にする	35.6%	25.5%	16.4%	13.5%	9.1%	275
少しは気にする	46.1%	24.4%	12.0%	7.9%	9.6%	994
あまり気にしない	52.0%	23.8%	11.3%	5.2%	7.6%	629
気にしない	62.7%	15.3%	9.5%	4.6%	7.8%	346
合計	49.0%	23.0%	11.9%	7.4%	8.7%	2244

(1%水準で有意)

[表 51] 問 11 C (清め塩をまく) × 問 15 (差別的な言動への対応)

	自分で説明する	説明する自信がないのでそのまま	自分に関係ないのでそのまま	家族の意見に合わせる	その他	％の基数
ケガレをはらうためにまく	44.9%	19.8%	13.3%	8.7%	13.3%	263
慣習なのでまく	45.4%	25.6%	12.1%	8.6%	8.3%	1173
まく必要はない	58.6%	20.2%	10.8%	4.5%	5.9%	555
わからない	49.4%	21.1%	11.7%	6.1%	11.7%	247
合計	49.1%	23.1%	11.9%	7.3%	8.7%	2238

(1%水準で有意)

「大安・仏滅を気にしない」「家柄を気にしない」「清め塩をまく必要はないと思う」と答えた人ほど、差別的な言動への対応として、「自分で差別のまちがいを説明する」と答える傾向が認められる。

身の回りにある科学的根拠のない慣習や因習について正しく学習することは、「自分で差別のまちがいを説明」し、同和問題の解決に積極的に取り組む力強い実践者を生み出すことになる」と期待される。

[表 52] 研修会等への参加×問 15 (差別的な言動への対応)

	自分で説明する	説明する自信がないのでそのまま	自分に関係ないのでそのまま	家族の意見に合わせる	その他	％の基数
なし	44.8%	24.9%	13.2%	7.9%	9.3%	1769
1～2回	59.7%	18.7%	6.6%	5.9%	9.2%	273
3～5回	72.2%	10.4%	8.3%	5.6%	3.5%	144
6回以上	77.8%	15.6%	2.2%	2.2%	2.2%	45
合計	49.0%	23.0%	11.8%	7.4%	8.7%	2231

(1%水準で有意)

研修会等への参加状況との関連では、研修会等への参加回数が多い人ほど、「自分で差別のまちがいを説明する」と答えている。様々な人権課題に関する学習の蓄積により、自信を持って説明できる傾向がみられる。

この結果から、全ての人権啓発団体や機関、学校等が、魅力のある人権問題の学習会や研修会等を企画すること、また、お互いのネットワークを連携させること、家庭や企業、一般市民への参加の要請や広報活動を充実させること、多くの人がある研修会等に出席して、同和問題について正しく学ぶこと等が、同和問題を解決するために大切であると考えられる。

[表 53] 団体参加度×問 15 (差別的な言動への対応)

	自分で説明する	説明する自信がないのでそのまま	自分に関係ないのでそのまま	家族の意見に合わせる	その他	％の基数
活発	63.2%	14.3%	8.7%	5.2%	8.7%	231
やや活発	57.6%	18.0%	7.5%	7.0%	9.9%	373
やや不活発	49.8%	23.8%	10.1%	6.6%	9.6%	592
不活発	46.4%	27.7%	12.0%	6.7%	7.3%	524
なし	39.0%	25.2%	17.9%	9.5%	8.5%	485
合計	49.3%	23.0%	11.7%	7.2%	8.8%	2205

(1%水準で有意)

※団体参加度は、問 18・問 19 の団体やグループにどの程度かかわっているのかを数値化したもので、関わりが多いほど「活発」と表している。

※団体とは、自治会・町内会、趣味やスポーツ団体、ボランティア団体、PTAまたは保護者会を指す。

団体参加度が活発な人ほど、差別的な言動への対応として「自分で差別のまちがいを説明する」と答える傾向にある。

[表 54] 社会的援助×問 15 (差別的な言動への対応)

	自分で説明する	説明する自信がないのでそのまま	自分に関係ないのでそのまま	家族の意見に合わせる	その他	％の基数
援助一多	63.9%	11.0%	6.8%	5.5%	12.8%	219
援助一中	56.2%	19.4%	9.1%	6.1%	9.1%	525
援助一少	45.4%	26.3%	12.6%	7.7%	8.0%	1128
援助一無	41.3%	25.7%	16.7%	9.3%	7.1%	366
合計	49.1%	23.1%	11.9%	7.4%	8.6%	2238

(1%水準で有意)

※社会的援助は、問 20 の家族以外でどれだけ手助けをしてもらえるかを数値化したもので、高いほど「手助けしてくれる人が多い」ことを表している。

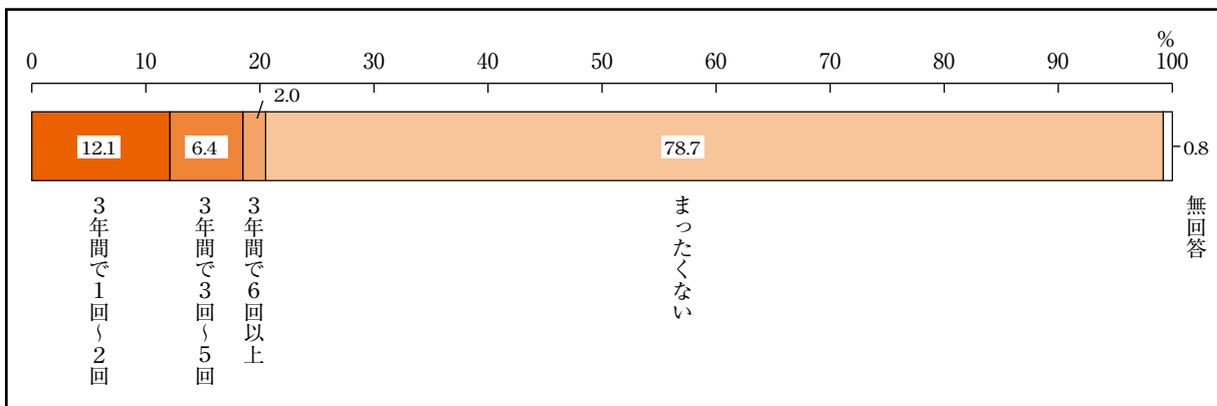
社会的援助が多い人ほど、差別的な言動への対応として「自分で差別のまちがいを説明する」と答える傾向にある。

4 啓発活動に関する意識

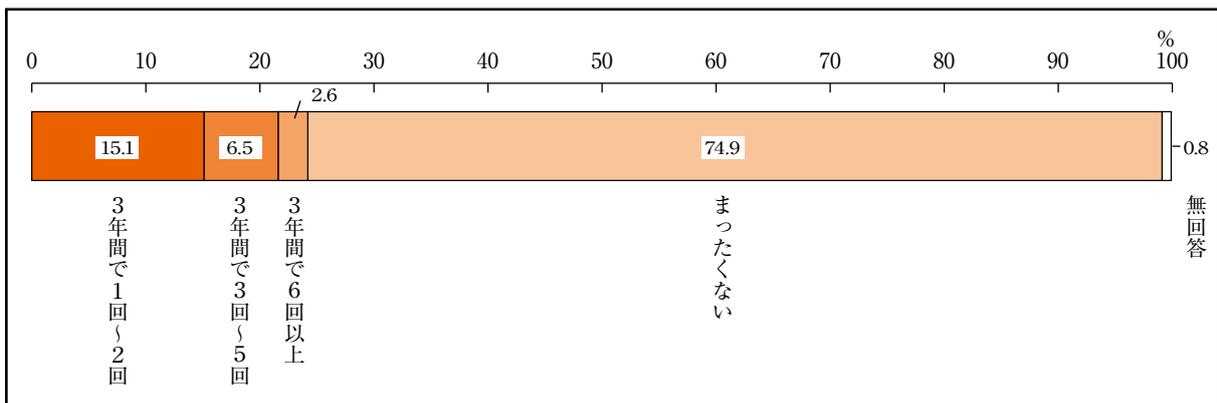
問 16 あなたは、過去3年間で、人権問題の学習会や研修会などに何回くらい参加しましたか（学校での授業を含みます）。

	人	(%)
1 3年間で1回～2回……………	279	(12.1)
2 3年間で3回～5回……………	147	(6.4)
3 3年間で6回以上……………	46	(2.0)
4 まったくない……………	1811	(78.7)
無回答……………	18	(0.8)

2012年調査



2007年調査



3年間「まったくくない」が78.7%で、2007年調査より3.8ポイント増加している。

[表 55] 性別×年代×問 16 (研修会等への参加度)

		なし	1回～2回	3回～5回	6回以上	％の基数
男性	10代	20.8%	26.4%	41.5%	11.3%	53
	20代	80.5%	13.4%	3.7%	2.4%	82
	30代	84.2%	10.5%	3.8%	1.5%	133
	40代	81.3%	10.0%	6.0%	2.7%	150
	50代	83.4%	8.9%	5.3%	2.4%	169
	60代	88.5%	6.7%	3.8%	1.0%	209
	70代	84.4%	10.4%	0.7%	4.4%	135
女性	10代	13.0%	24.1%	48.1%	14.8%	54
	20代	84.5%	12.4%	2.3%	0.8%	129
	30代	78.3%	14.7%	6.0%	0.9%	217
	40代	63.2%	22.7%	12.1%	2.0%	247
	50代	87.0%	10.0%	2.6%	0.4%	231
	60代	90.2%	6.4%	3.0%	0.4%	266
	70代	85.3%	13.5%	1.2%	0.0%	170
合計		79.3%	12.3%	6.5%	1.9%	2245

「3年間で3回から5回」の参加が男女ともに10代が多く、授業での学習が関係していると思われる。40代女性の参加が多いのも、授業参観やPTA行事に参加する機会が多いからと考えられ、学校教育や社会教育の取組がさらに重要であると思われる。

[表 56] 団体参加度×問 16 (研修会への参加度)

	なし	1回～2回	3回～5回	6回以上	％の基数
活発	51.1%	31.2%	11.7%	6.1%	231
やや活発	71.7%	16.4%	9.8%	2.1%	378
やや不活発	79.3%	12.6%	7.0%	1.2%	604
不活発	88.6%	6.2%	3.7%	1.5%	534
なし	89.2%	6.1%	3.3%	1.4%	492
合計	79.5%	12.2%	6.3%	2.0%	2239

(1%水準で有意)

※団体参加度は、問 18・問 19 の団体やグループにどの程度かかわっているのかを数値化したもので、関わりが多いほど「活発」と表している。

※団体とは、自治会・町内会、趣味やスポーツ団体、ボランティア団体、PTAまたは保護者を指す。

団体参加度が活発な人ほど、学習会や研修会などへの参加が増える傾向にある。

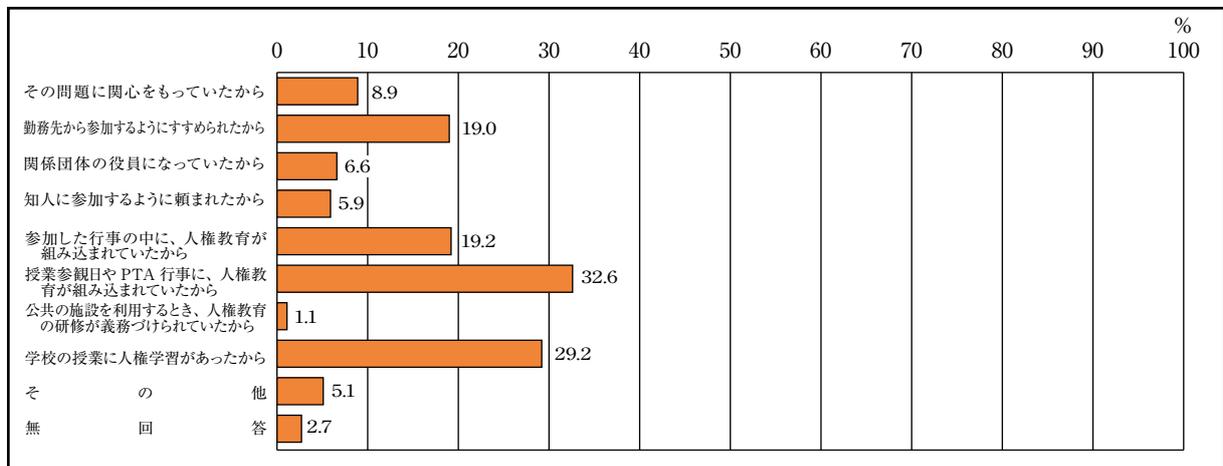
問 16 - 2 問 16 で「1」、「2」、「3」と答えた方にお聞きします。参加したきっかけは次のうちのどれですか。主なものを2つ以内でお選びください。

	人	(%)	[複数回答]
1 その問題に関心をもっていたから	42	(8.9)	
2 勤務先から参加するようにすすめられたから	90	(19.0)	
3 関係団体の役員になっていたから	31	(6.6)	
4 知人に参加するように頼まれたから	28	(5.9)	
5 参加した行事の中に、人権教育が組み込まれていたから	91	(19.2)	
6 授業参観日やPTA行事に、人権教育が組み込まれていたから	154	(32.6)	
7 公共の施設を利用するとき、人権教育の研修が義務づけられていたから	5	(1.1)	
8 学校の授業に人権学習があったから	138	(29.2)	
9 その他(具体的に：)	24	(5.1)	
無回答	13	(2.7)	

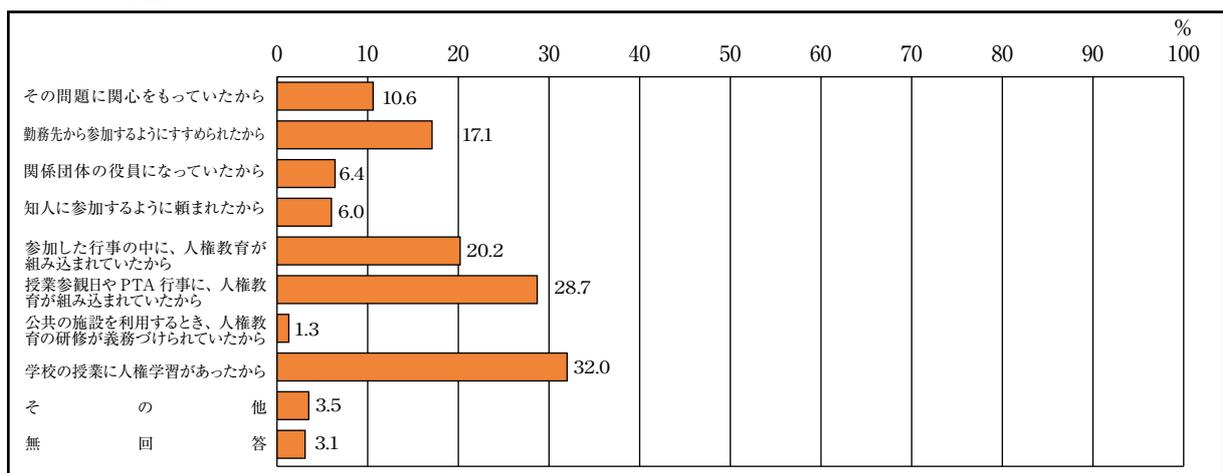
N = 473

注) 問 16 を回答せずに問 16 - 2 を回答していた 1 票を含む

2012 年調査



2007 年調査



2007 年調査では、「学校の授業に人権学習があったから」が一番多かったが、今回は「授業参観日やPTA行事に、人権教育が組み込まれていたから」が2007年調査に比べ3.9ポイント増えて一番であった。このことから、今後とも学校教育や社会教育における啓発活動の重要性が認識される。また、「勤務先から参加するようにすすめられたから」も2007年調査よりも高く19.0%あり、近年企業等が積極的に人権問題に取り組んできた姿勢も伺える。

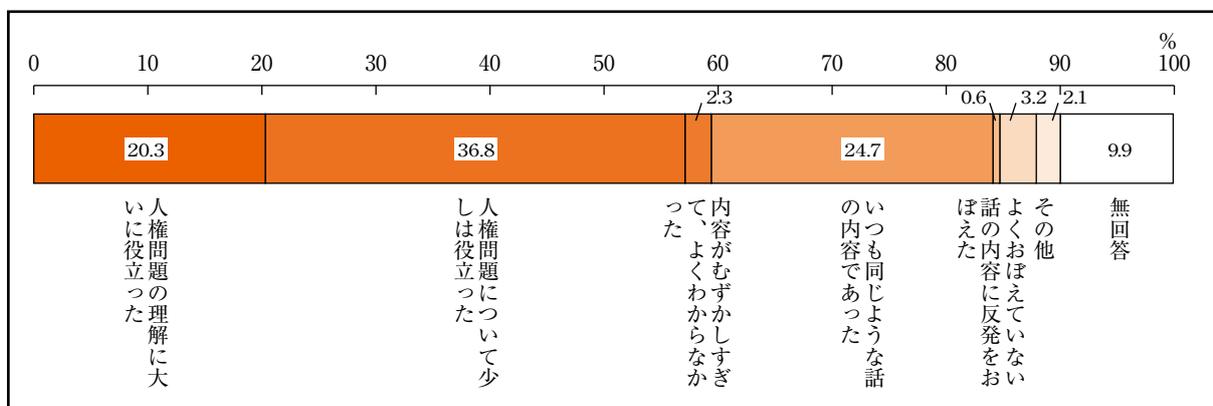
問 16 - 3 問 16 で「1」、「2」、「3」と答えた方にお聞きします。参加してみて、その内容について総合評価すると、次のどれにあてはまりますか。次の中から1つお選びください。

	人	(%)
1 人権問題の理解に大いに役立った……………	96	(20.3)
2 人権問題の理解に少しは役立った……………	174	(36.8)
3 内容がむずかしすぎて、よくわからなかった……………	11	(2.3)
4 いつも同じような話の内容であった……………	117	(24.7)
5 話の内容に反発をおぼえた……………	3	(0.6)
6 その他（具体的に：) ……………	10	(2.1)
7 よくおぼえていない……………	15	(3.2)
無回答……………	47	(9.9)

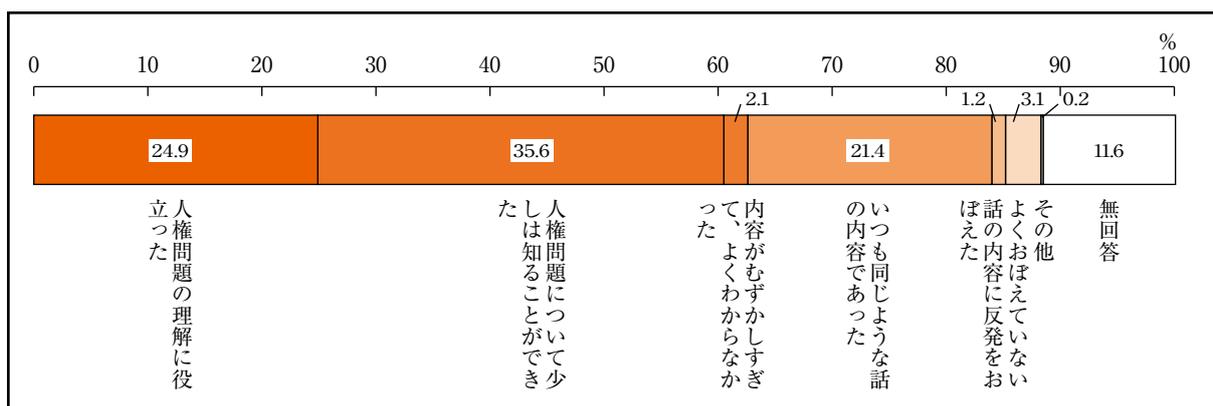
N = 473

注) 問 16 を回答せずに問 16 - 2 を回答していた 1 票を含む

2012 年調査



2007 年調査



「人権問題の理解に大いに役立った」「人権問題の理解に少しは役立った」を合わせた回答が 2007 年調査では 60.5% であったのに対し、今回は 57.1% と 3.4 ポイント下がった。また、「いつも同じような話の内容であった」が 2007 年調査の 21.4% に比べて 24.7% と高くなっていることから考えて、同和問題をはじめ様々な人権問題についての学習内容や方法を工夫す

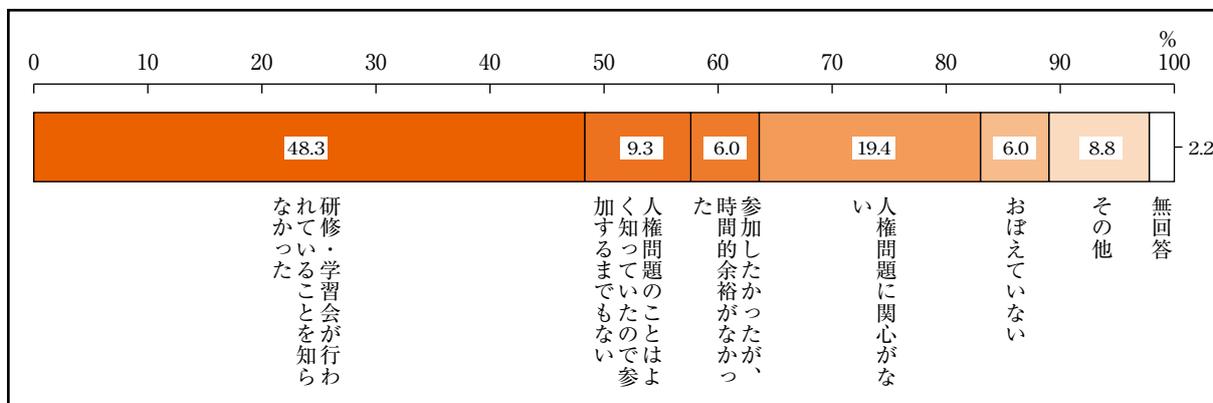
る必要があるのではないかと考えられる。

問 16 - 4 問 16 で「4 まったくない」と答えた方にお聞きします。研修・学習会に参加しなかった理由を、次の中から 1つ お選びください。

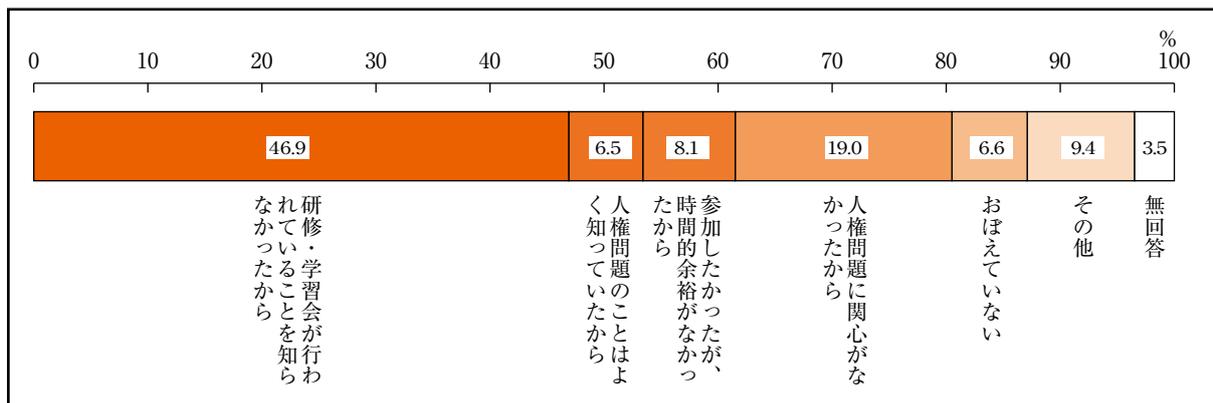
	人	(%)
1 研修・学習会が行われていることを知らなかった……………	874	(48.3)
2 人権問題のことはすでによく知っていたので参加するまでもない……	169	(9.3)
3 参加したかったが、時間的余裕がなかった……………	108	(6.0)
4 人権問題に関心がない……………	352	(19.4)
5 おぼえていない……………	109	(6.0)
6 その他（具体的に：……………）……………	159	(8.8)
無回答……………	40	(2.2)

N = 1811

2012 年調査



2007 年調査



「研修・学習会が行われていることを知らなかった」は 48.3% で、2007 年調査とほとんど変わらない。

[表 57] 年代×問 16 - 4 (研修・学習会不参加の理由)

	知らなかった	よく知っている るので	時間的余裕 がない	関心がない	おぼえて いない	その他	%の基数
10代	38.9%	5.6%	5.6%	16.7%	33.3%	0.0%	18
20代	60.0%	2.9%	6.3%	19.4%	7.4%	4.0%	175
30代	60.7%	2.1%	4.6%	18.9%	4.3%	9.3%	280
40代	59.8%	5.4%	6.9%	17.8%	3.6%	6.5%	276
50代	50.6%	9.8%	6.5%	19.8%	4.7%	8.6%	338
60代	38.9%	14.4%	6.3%	22.1%	7.8%	10.5%	411
70代	35.1%	18.8%	5.3%	20.4%	6.5%	13.9%	245
合計	49.6%	9.5%	6.0%	19.9%	6.0%	9.0%	1743

(1%水準で有意)

年代別では、50代以上に「人権問題のことはすでによく知っていたので参加するまでもない」の回答が多い。このことから、50代以上の人への広報や学習会の内容については、高齢者の人権問題等の身近な問題から差別の本質へ迫るような取組の工夫が必要ではないかと考えられる。

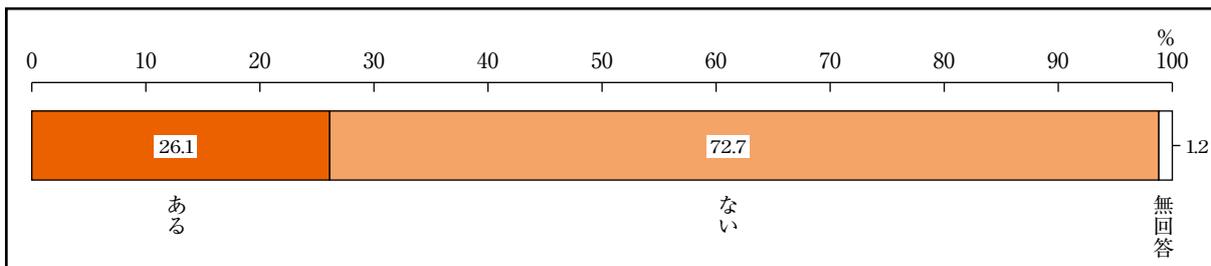
「研修・学習会が行われていることを知らなかった」が20代から50代で多いのは、学齢期の子どもの保護者として研修会への参加が多い反面、参加できていない人にとっては仕事や家事が忙しくて、人権学習に関わる機会が少ないのではないかと考えられる。

問 17 あなたは、最近（過去3年程度の間）、次にあげるA, B, Cについて、もらったり、見かけたりしたことがありますか、ありませんか。

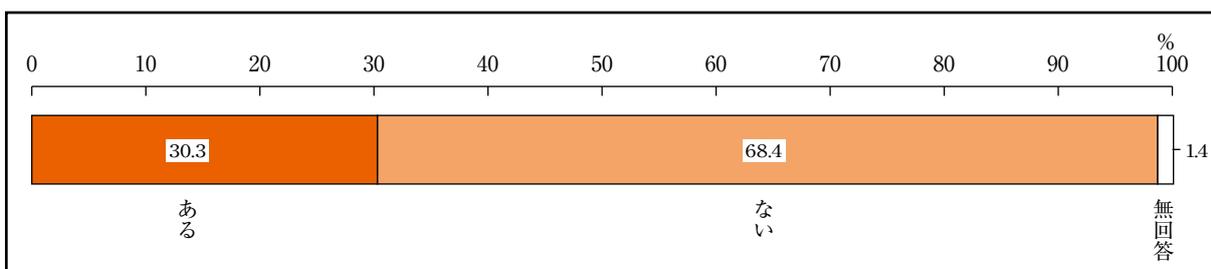
A 人権問題に関するパンフレットなどもらったことがありますか、ありませんか。

	人	(%)
1 ある	601	(26.1)
2 ない	1673	(72.7)
無回答	27	(1.2)

2012年調査



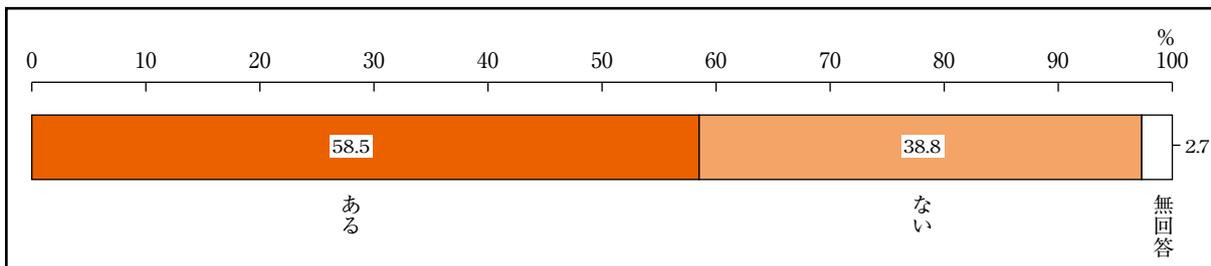
2007年調査



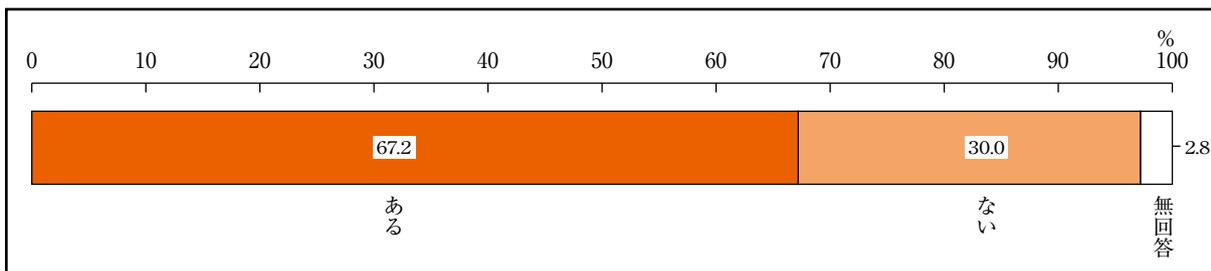
B 人権問題に関する標語やポスターなどを見かけたことがありますか、ありませんか。

	人	(%)
1 ある	1346	(58.5)
2 ない	892	(38.8)
無回答	63	(2.7)

2012年調査



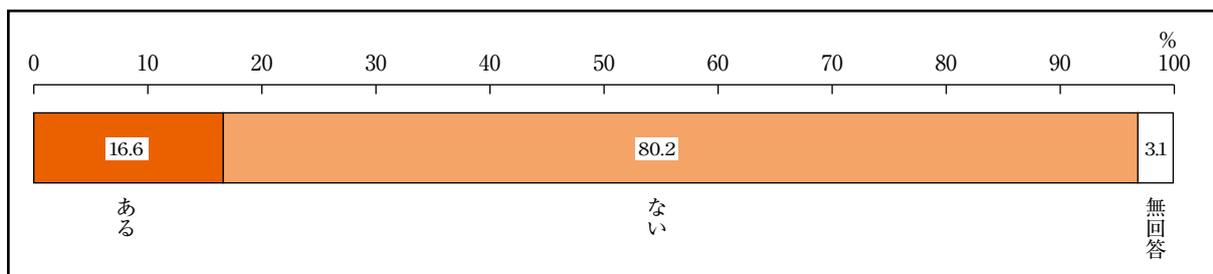
2007年調査



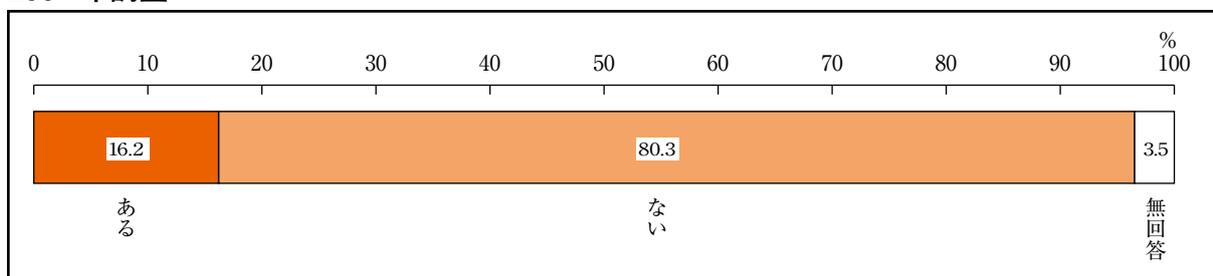
C 人権問題に関する街頭啓発活動やパレードを見かけたことがありますか、ありませんか。

	人	(%)
1 ある	383	(16.6)
2 ない	1846	(80.2)
無回答	72	(3.1)

2012年調査



2007年調査



[表 58] 年代×問 17 A (パンフレット)

年代	ある	ない	%の基数
10代	59.4%	40.6%	106
20代	16.8%	83.2%	208
30代	27.0%	73.0%	355
40代	32.5%	67.5%	397
50代	22.1%	77.9%	399
60代	22.5%	77.5%	471
70代	25.2%	74.8%	302
合計	26.5%	73.5%	2238

(1%水準で有意)

[表 60] 年代×問 17 C(街頭啓発活動・パレード)

年代	ある	ない	%の基数
10代	27.6%	72.4%	105
20代	17.5%	82.5%	206
30代	20.5%	79.5%	347
40代	19.4%	80.6%	387
50代	14.7%	85.3%	394
60代	13.5%	86.5%	458
70代	15.9%	84.1%	296
合計	17.2%	82.8%	2193

(1%水準で有意)

[表 59] 年代×問 17 B (標語・ポスター)

年代	ある	ない	%の基数
10代	90.6%	9.4%	106
20代	63.6%	36.4%	206
30代	63.0%	37.0%	349
40代	67.6%	32.4%	389
50代	55.1%	44.9%	394
60代	54.5%	45.5%	462
70代	50.5%	49.5%	297
合計	60.3%	39.7%	2203

(1%水準で有意)

パンフレットをもらったり、標語やポスター等を見かけたりするのは、10代が圧倒的に多い。

このことは、学校教育現場における人権教育への積極的な取組を示している。

松山市人権教育推進協議会では、小・中・高校生・一般から、人権意識の向上をめざして、ポスター・絵手紙・標語の募集をしている。平成24年度では、標語の応募が50,810点、ポスターの応募が17,644点、絵手紙の応募が5,289点にのぼっている。審査会で優秀作品を決定し、カレンダーに掲載して、小・中学生全員に配布しており、代表の標語は、ポスターになったり各種イベントのキャッチフレーズとして活用されたりしている。

[表 61] *団体参加度×問 17 C (街頭啓発活動・パレード)

	ある	ない	%の基数
活発	27.9%	72.1%	226
やや活発	21.9%	78.1%	365
やや不活発	18.6%	81.4%	587
不活発	11.4%	88.6%	525
なし	13.1%	86.9%	490
合計	17.2%	82.8%	2183

(1%水準で有意)

※団体参加度は、問18・問19の団体やグループにどの程度かかわっているのかを数値化したもので、関わりが多いほど「活発」と表している。

※団体とは、自治会・町内会、趣味やスポーツ団体、ボランティア団体、PTAまたは保護者を指す。

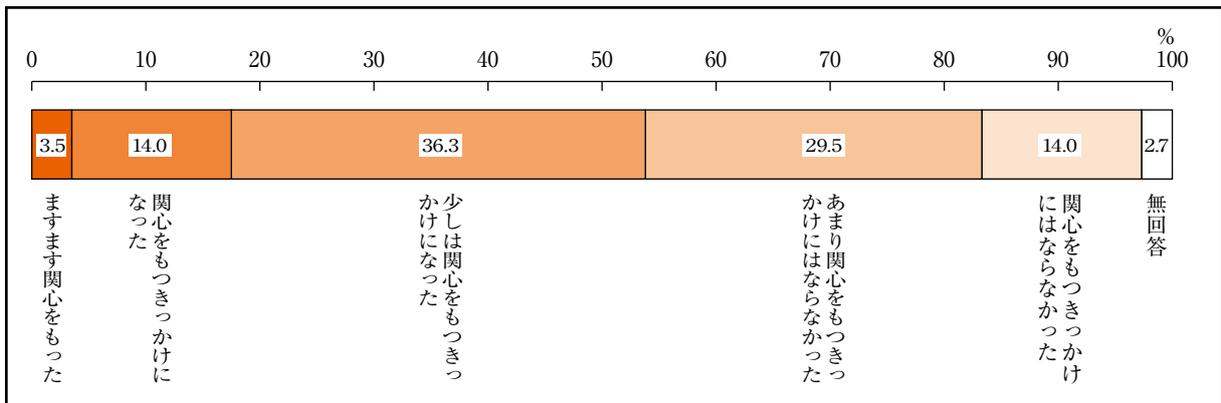
自治会等の各種団体への参加頻度の高い人は、パンフレットをもらったり、標語やポスターを見たりパレードを見たりする機会が多いことがクロス集計の結果からみてとれる。

問 17-2 問 17 の A, B, C の内、1 つでも「1」と答えた方にお聞きします。それらのものは、あなたの人権問題に関する関心をどの程度よびおこしましたか。

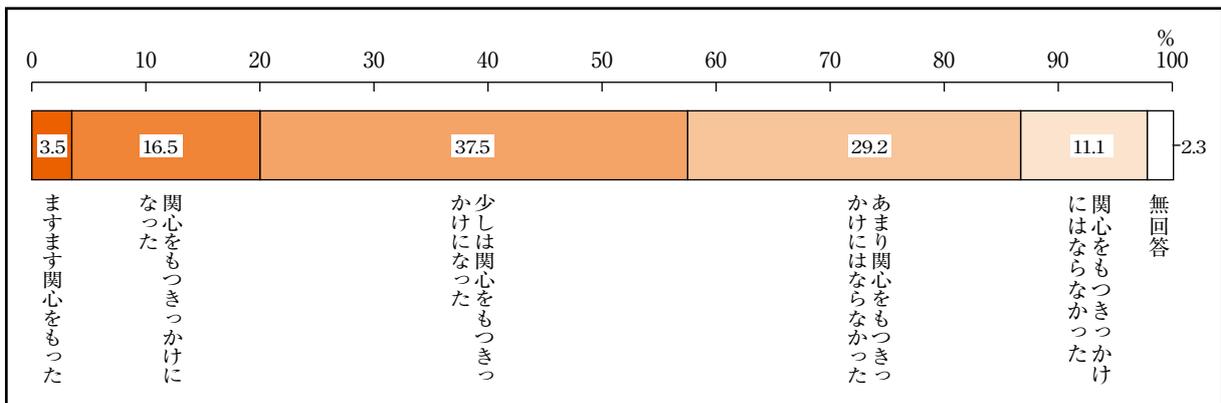
	人	(%)
1 ますます関心をもった……………	49	(3.5)
2 関心をもつきっかけになった……………	199	(14.0)
3 少しは関心をもつきっかけになった……………	515	(36.3)
4 あまり関心をもつきっかけにはならなかった……………	419	(29.5)
5 関心をもつきっかけにはならなかった……………	198	(14.0)
無回答……………	39	(2.7)

N = 1419

2012 年調査



2007 年調査



パンフレット・標語・ポスター・パレード等によって、人権問題への関心を喚起されたという人が多い一方で、実際には全体の 8 割が街頭啓発活動やパレードを見かけたことがないという結果（問 17C の集計結果から）も出ており、今後より効果的な広報・啓発活動を企画していくことが必要である。

[表 62] 性別×問 17 - 2 (人権問題への関心の喚起)

	おおいに関心をもつきっかけになった	関心をもつきっかけになった	少しは関心をもつきっかけになった	あまり関心をもつきっかけにならなかった	関心をもつきっかけにはなかった	％の基数
男性	3.9%	12.2%	34.5%	32.3%	17.1%	589
女性	3.4%	16.0%	39.4%	29.0%	12.2%	776
合計	3.6%	14.4%	37.3%	30.4%	14.4%	1365

(1%水準で有意)

性別では、「おおいに関心をもつきっかけになった」「関心をもつきっかけになった」「少しは関心をもつきっかけになった」を合わせると、女性は58.8%、男性は50.6%と女性の方が8.2ポイント啓発効果が高い。

[表 63] *社会的援助×問 17 - 2 (人権問題への関心の喚起)

	おおいにもつきっかけになった	もつきっかけになった	少しはきっかけになった	あまりきっかけにならなかった	きっかけにはなかった	％の基数
援助一多	6.3%	16.0%	38.3%	25.1%	14.3%	175
援助一中	1.7%	13.8%	42.7%	28.4%	13.5%	349
援助一少	4.1%	15.0%	36.0%	32.4%	12.6%	661
援助一無	2.6%	12.6%	30.9%	32.5%	21.5%	191
合計	3.6%	14.5%	37.3%	30.5%	14.2%	1376

(5%水準で有意)

※社会的援助は、問 20 の家族以外でどれだけ手助けをしてくれるかを数値化したもので、高いほど「手助けしてくれる人が多い」ことを表している。

家族以外で手助けを多く期待できる人ほど、人権問題への関心をもつきっかけになることが顕著に表れている。

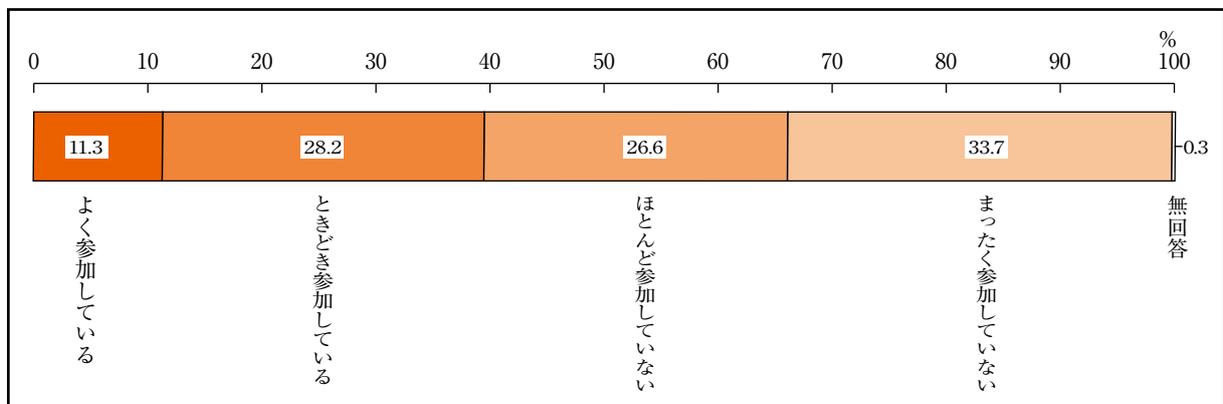
5 社会活動・社会関係に関する意識

問 18 あなたは、次にあげる団体やグループとのかかわりは、現在どの程度ですか。それぞれについてお答えください。

A 自治会・町内会

	人	(%)
1 よく参加している……………	259	(11.3)
2 ときどき参加している……………	650	(28.2)
3 ほとんど参加していない……………	611	(26.6)
4 まったく参加していない……………	775	(33.7)
無回答……………	6	(0.3)

2012年調査



[表 64] 年代×問 18 A (自治会・町内会)

	よく参加している	ときどき参加している	ほとんど参加していない	まったく参加していない	％の基数
10代	0.9%	12.1%	22.4%	64.5%	107
20代	1.9%	8.1%	20.5%	69.5%	210
30代	8.7%	24.2%	26.5%	40.6%	355
40代	9.5%	31.4%	24.6%	34.4%	398
50代	11.7%	29.7%	34.2%	24.4%	401
60代	14.9%	35.6%	27.0%	22.6%	478
70代	20.1%	34.4%	25.0%	20.5%	308
合計	11.3%	28.2%	26.7%	33.9%	2257

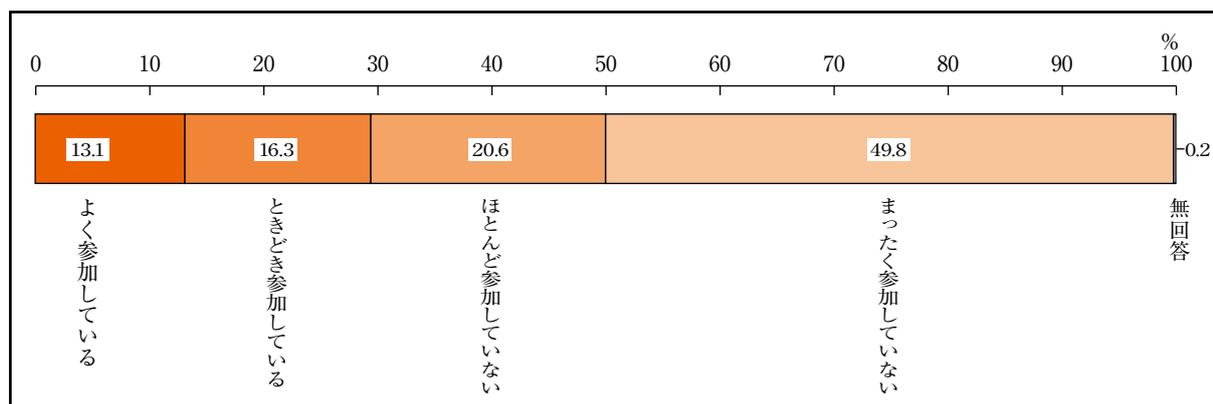
(1%水準で有意)

自治会・町内会へのかかわりは、「よく参加している」「ときどき参加している」が39.5%である。10代、20代は「まったく参加していない」と答えた人が多いが、30代から参加の頻度の多少はあれ、かかわりがあると答えた人が多くなっている。

B 趣味やスポーツの団体

	人	(%)
1 よく参加している	302	(13.1)
2 ときどき参加している	374	(16.3)
3 ほとんど参加していない	475	(20.6)
4 まったく参加していない	1145	(49.8)
無回答	5	(0.2)

2012年調査



[表 65] 性別×問 18 B (趣味・スポーツの団体)

	よく参加している	ときどき参加している	ほとんど参加していない	まったく参加していない	％の基数
男性	14.0%	17.2%	22.6%	46.2%	943
女性	12.7%	15.6%	19.5%	52.3%	1326
合計	13.2%	16.3%	20.8%	49.8%	2269

(1%水準で有意)

[表 66] 年代×問 18 B (趣味・スポーツの団体)

	よく参加している	ときどき参加している	ほとんど参加していない	まったく参加していない	％の基数
10代	22.4%	10.3%	17.8%	49.5%	107
20代	11.4%	17.1%	10.4%	61.1%	211
30代	11.5%	16.1%	18.0%	54.4%	355
40代	11.8%	14.8%	20.6%	52.8%	398
50代	12.0%	16.7%	21.7%	49.6%	401
60代	10.7%	17.2%	23.9%	48.2%	477
70代	20.4%	17.8%	26.5%	35.3%	309
合計	13.2%	16.3%	20.8%	49.7%	2258

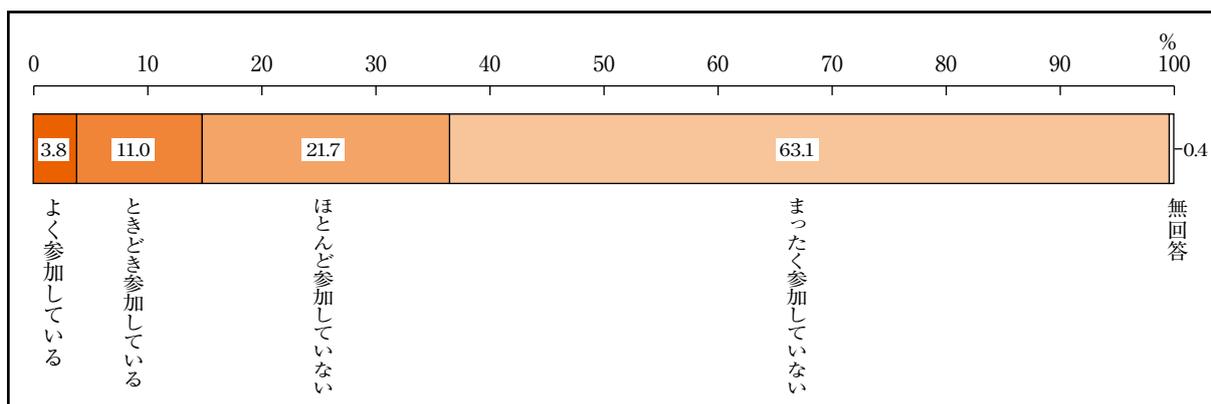
(1%水準で有意)

趣味やスポーツ団体へのかかわりは、「よく参加している」「ときどき参加している」が29.4%で、10代と70代以上が高い。また、「全く参加していない」と答えた人は、70代を除き、それぞれの世代の約半数を占める。性別での参加割合は、男性の方が高い。

C ボランティア団体

	人	(%)
1 よく参加している	88	(3.8)
2 ときどき参加している	254	(11.0)
3 ほとんど参加していない	499	(21.7)
4 まったく参加していない	1451	(63.1)
無回答	9	(0.4)

2012年調査



[表 67] 性別×問 18 C (ボランティア団体)

	よく参加している	ときどき参加している	ほとんど参加していない	まったく参加していない	％の基数
男性	4.9%	13.7%	23.7%	57.7%	941
女性	3.1%	9.2%	20.2%	67.5%	1325
合計	3.8%	11.1%	21.7%	63.4%	2266

(1%水準で有意)

[表 68] 年代×問 18 C (ボランティア団体)

	よく参加している	ときどき参加している	ほとんど参加していない	まったく参加していない	％の基数
10代	3.8%	14.2%	19.8%	62.3%	106
20代	0.9%	5.7%	11.8%	81.5%	211
30代	2.0%	9.3%	19.8%	68.9%	354
40代	2.3%	10.3%	19.3%	68.1%	398
50代	3.2%	11.5%	22.4%	62.8%	401
60代	5.0%	11.5%	23.5%	60.0%	477
70代	9.1%	15.9%	29.2%	45.8%	308
合計	3.9%	11.1%	21.5%	63.5%	2255

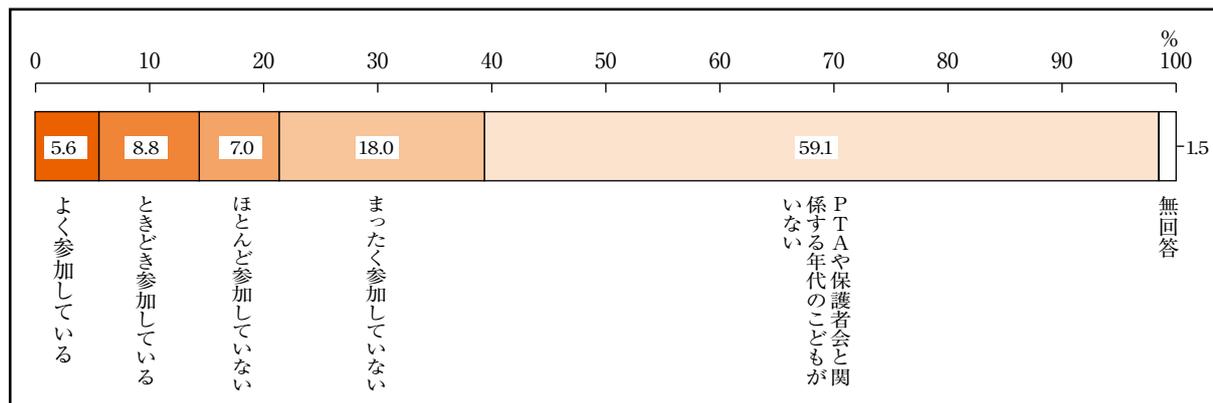
(1%水準で有意)

ボランティア団体へのかかわりは、「よく参加している」「ときどき参加している」が14.8%で、男性の方が6.3ポイント高い傾向にある。「ほとんど・まったく参加していない」と答えた人は、70代を除く全年代で80%を超えており、特に20代は93.3%でかかわりの薄さが顕著となっている。

問 19 あなたは、PTAまたは保護者に、現在のどの程度かかわっていますか。

	人	(%)
1 よく参加している	128	(5.6)
2 ときどき参加している	203	(8.8)
3 ほとんど参加していない	162	(7.0)
4 まったく参加していない	415	(18.0)
5 PTAや保護者と関係する年代の子どもがいない	1359	(59.1)
無回答	34	(1.5)

2012年調査



[表 69] 性別×問 19 (PTA・保護者会)

	よく参加している	ときどき参加している	ほとんど参加していない	まったく参加していない	その年代の子がいない	％の基数
男性	3.0%	7.4%	9.0%	25.1%	55.4%	931
女性	7.6%	10.2%	5.7%	13.2%	63.3%	1309
合計	5.7%	9.0%	7.1%	18.2%	60.0%	2240

(1%水準で有意)

PTA活動への参加は、明らかに女性が多い傾向にある。

[表 70] 年代×問 19 (PTA・保護者会)

	よく参加している	ときどき参加している	ほとんど参加していない	まったく参加していない	その年代の子がいない	％の基数
10代	1.0%	4.0%	8.9%	56.4%	29.7%	101
20代	2.9%	2.9%	1.4%	21.9%	71.0%	210
30代	10.3%	17.1%	8.8%	17.1%	46.7%	351
40代	15.2%	23.0%	13.4%	17.5%	30.9%	395
50代	3.3%	5.3%	7.5%	14.1%	69.8%	398
60代	1.1%	2.1%	4.0%	14.4%	78.3%	471
70代	1.7%	3.0%	4.3%	16.5%	74.6%	303
合計	5.7%	9.0%	7.1%	18.2%	60.0%	2229

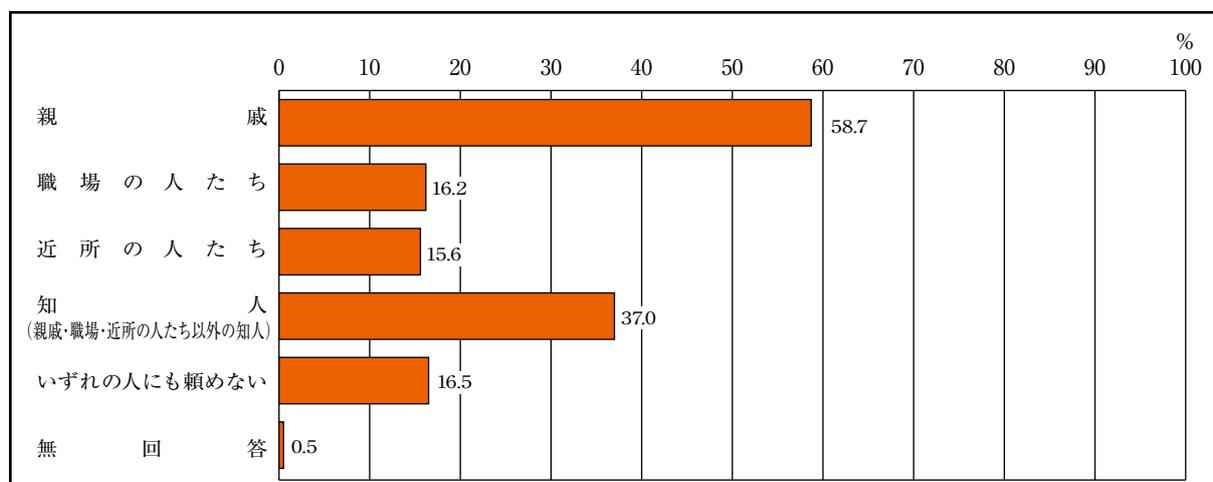
(1%水準で有意)

PTA活動への参加が多いのは、30代、40代である。

問 20 あなたが、もし、病気で2週間寝込んだとします。家族以外で、いくらかでも手助けを期待できるのは、次の中では誰でしょうか。あてはまるものをすべてお選びください。

	人	(%)	[複数回答]
1 親戚……………	1351	(58.7)	
2 職場の人たち……………	373	(16.2)	
3 近所の人たち……………	359	(15.6)	
4 知人（親戚・職場・近所の人たち以外の知人）……	852	(37.0)	
5 いずれの人にも頼めない……………	380	(16.5)	
無回答……………	11	(0.5)	

2012年調査



「2週間寝込んだ時に、家族以外で手助けを期待できる」のは、「親戚」が58.7%である。続いて「知人」に手助けを期待する人が37.0%が多い。

[表 71] 性別×問 20 (手助けを期待できる人) [複数回答]

	親戚	職場の人	近所の人	知人	いない	％の基数
男性	58.1%	21.4%	13.3%	32.2%	18.9%	938
女性	59.4%	12.8%	17.4%	41.0%	15.0%	1325

[表 72] 年代×問 20 (手助けを期待できる人) [複数回答]

	親戚	職場の人	近所の人	知人	いない	％の基数
10代	66.4%	9.3%	13.1%	51.4%	10.3%	107
20代	53.6%	22.7%	6.6%	55.0%	14.7%	210
30代	54.3%	27.0%	14.8%	44.3%	13.9%	355
40代	57.9%	24.4%	14.6%	37.8%	19.1%	398
50代	58.9%	20.0%	13.0%	39.4%	16.7%	401
60代	63.2%	6.7%	18.3%	29.4%	16.4%	478
70代	59.7%	2.3%	24.7%	21.1%	20.1%	308

[表 73] 性別×年代×問 20 (手助けを期待できる人) [複数回答]

		親戚	職場の人	近所の人	知人	いない	％の基数
男性	10代	67.9%	7.5%	17.0%	49.1%	13.2%	53
	20代	50.0%	25.6%	9.8%	53.7%	17.1%	82
	30代	52.2%	36.6%	9.7%	42.5%	14.2%	134
	40代	59.3%	38.7%	8.0%	32.7%	18.7%	150
	50代	51.8%	26.5%	11.8%	32.9%	21.8%	170
	60代	65.2%	9.5%	17.1%	23.3%	19.0%	210
	70代	60.7%	3.0%	20.0%	15.6%	22.2%	135
女性	10代	64.8%	11.1%	9.3%	53.7%	7.4%	54
	20代	55.8%	20.9%	4.7%	55.8%	13.2%	129
	30代	55.3%	21.2%	18.0%	45.2%	13.8%	217
	40代	57.1%	15.8%	18.6%	40.9%	19.4%	247
	50代	64.1%	15.2%	13.9%	44.2%	13.0%	231
	60代	61.7%	4.5%	19.2%	34.2%	14.3%	266
	70代	59.0%	1.7%	28.3%	25.4%	18.5%	173

知人に期待する割合は、女性が多い。しかし、男女ともに年代が上がると知人に期待できない割合が高くなり、60代以上の高齢者では30%以下になる。

職場の人は、20代から50代までは、手助けを期待できる割合が高いが、退職する60代から期待できないが90%を超える。

一方、近所の方は、60代から増加する傾向を示す。

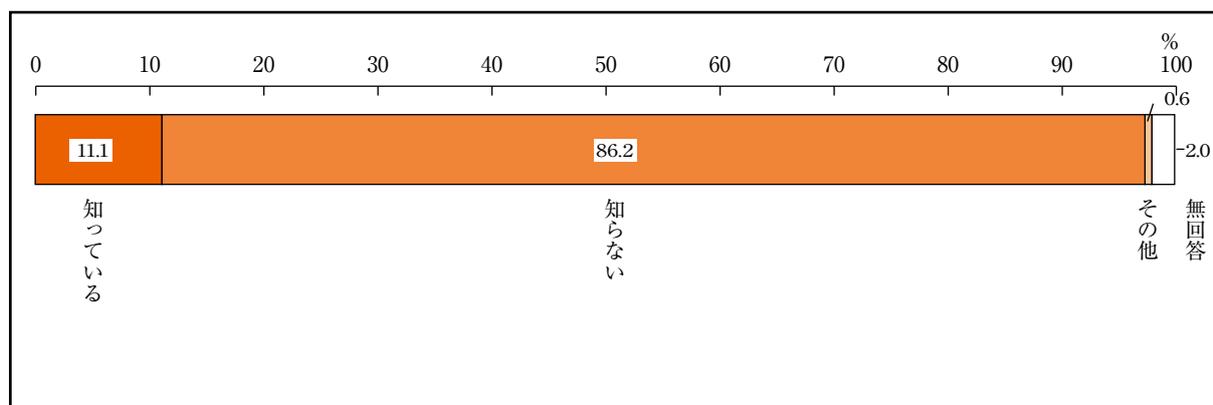
いずれの人にも頼めないと答えた人は、40代を除いてどの年代も男性が多い。今後は男性が仕事をしながら、地域社会とつながりをもてるようにするための意識啓発や環境整備が必要であると思われる。

6 「松山市人権啓発施策に関する基本方針」に関する意識

問 21 あなたは、松山市では、人権啓発施策に関する基本方針を策定していることをご存知ですか。次の中から 1つ お選びください。

	人	(%)
1 知っている.....	256	(11.1)
2 知らない.....	1984	(86.2)
3 その他（具体的に： ）.....	14	(0.6)
無回答.....	47	(2.0)

2012 年調査



基本方針を「知っている」11.1%、「知らない」が86.2%となっている。

[表 74] 性別×問 21（基本方針の認知）

	知っている	知らない	その他	％の基数
男 性	14.5%	84.8%	0.6%	936
女 性	9.1%	90.3%	0.6%	1310
合 計	11.4%	88.0%	0.6%	2246

(1%水準で有意)

性別では、男性の方が認知度が5.4ポイント高い。

[表 75] 年代×問 21（基本方針の認知）

	知っている	知らない	その他	％の基数
10 代	3.8%	95.3%	0.9%	106
20 代	7.1%	92.9%	0.0%	210
30 代	5.7%	94.0%	0.3%	352
40 代	11.3%	88.7%	0.0%	397
50 代	11.8%	88.0%	0.3%	399
60 代	12.3%	86.3%	1.5%	473
70 代	21.7%	76.9%	1.3%	299
合 計	11.4%	88.0%	0.6%	2236

(1%水準で有意)

年代別では、若い世代に認知されていない状況がみられる。

[表 76] 問 2 (人権問題への関心) × 問 21 (基本方針の認知)

	知っている	知らない	その他	％の基数
おおに関心がある	30.2%	68.0%	1.8%	225
少しは関心がある	12.0%	87.6%	0.4%	1112
どちらともいえない	7.0%	92.5%	0.4%	455
あまり関心がない	4.9%	94.3%	0.7%	405
まったく関心がない	5.4%	94.6%	0.0%	56
合計	11.4%	88.0%	0.6%	2253

(1%水準で有意)

「人権問題への関心度」との関係調べてみると、人権問題への関心が高いほど松山市の基本方針の認知度が高いことがわかる。

[表 77] *団体参加度 × 問 21 (基本方針の認知)

	知っている	知らない	その他	％の基数
活発	27.4%	71.7%	0.9%	226
やや活発	17.7%	81.8%	0.5%	373
やや不活発	10.4%	88.9%	0.7%	594
不活発	6.3%	93.4%	0.4%	528
なし	6.3%	93.3%	0.4%	489
合計	11.5%	88.0%	0.5%	2210

※団体参加度は、問 18・問 19 の団体やグループにどの程度かかわっているのかを数値化したもので、関わりが多いほど「活発」と表している。

※団体とは、自治会・町内会、趣味やスポーツ団体、ボランティア団体、PTAまたは保護者を指す。

団体参加度が高いほど、基本方針の認知度が高い。

[表 78] *研修会等への参加 × 問 21 (基本方針の認知)

	知っている	知らない	その他	％の基数
なし	8.4%	91.0%	0.6%	1776
1～2回	22.4%	76.5%	1.1%	272
3～5回	17.2%	82.8%	0.0%	145
6回以上	46.7%	53.3%	0.0%	45
合計	11.4%	88.0%	0.6%	2238

※研修会等への参加状況 × 問 21 は、問 16 の人権問題の学習会や研修会等に参加状況によって基本方針の認知度を数値化したもの。

人権に関する研修会等への参加度が高いほど、基本方針の認知度が高い。

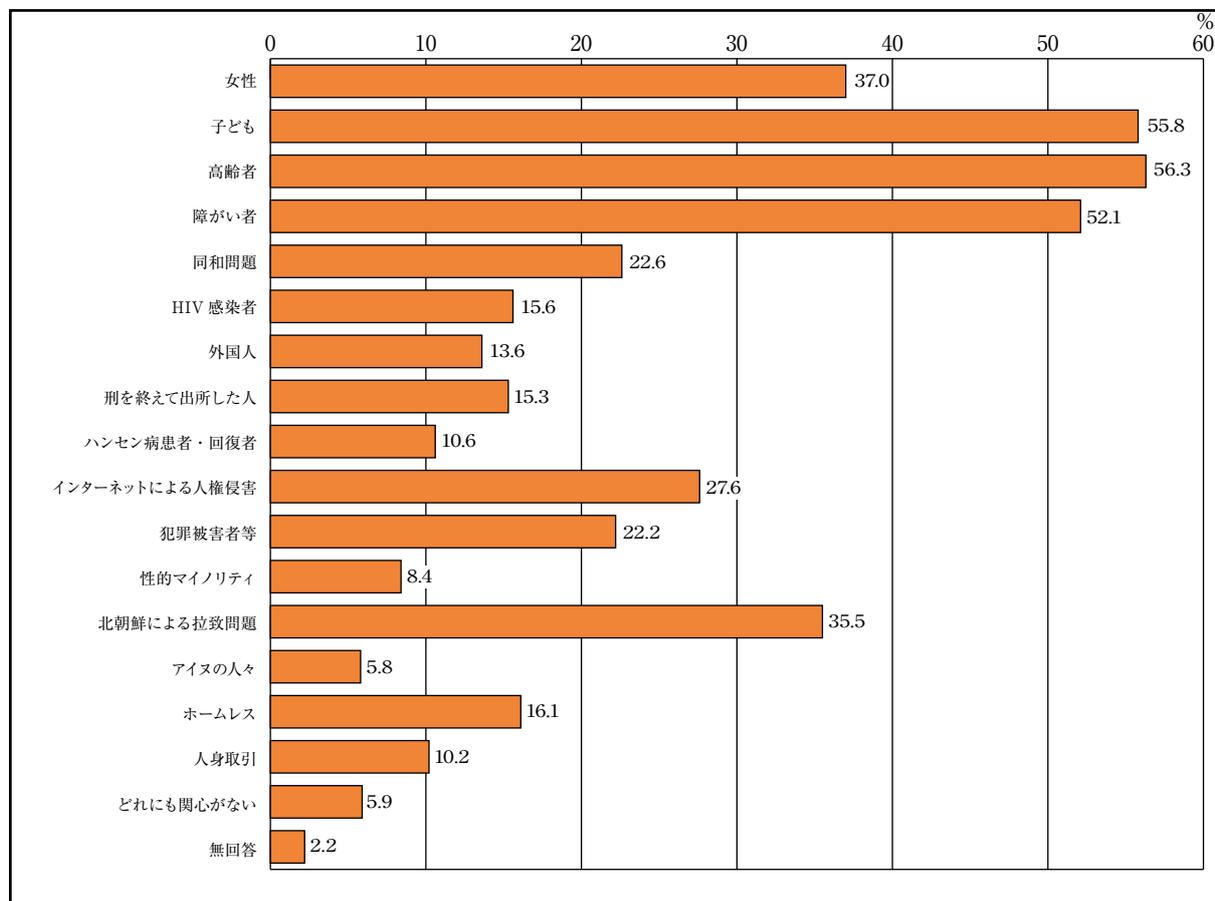
人権啓発施策に関する基本方針については「知らない」が 86.2% と認知度は低い。

人権問題への関心・団体への参加度・研修会等への参加度が高いほど、基本方針の認知度が高い傾向を示していることから、団体活動及び研修会等の地道な取組を続けることが必要である。

問 22 基本方針には、人権教育・啓発の推進に関する重要な人権課題として、以下の項目を位置づけていますが、あなたが関心のあるものをすべてお選びください。

	人	(%) [複数回答]
1 女性	852	(37.0)
2 子ども	1258	(55.8)
3 高齢者	1295	(56.3)
4 障がい者	1198	(52.1)
5 同和問題	521	(22.6)
6 HIV感染者	359	(15.6)
7 外国人	312	(13.6)
8 刑を終えて出所した人	351	(15.3)
9 ハンセン病患者・回復者	245	(10.6)
10 インターネットによる人権侵害	636	(27.6)
11 犯罪被害者等	511	(22.2)
12 性的マイノリティ	193	(8.4)
13 北朝鮮による拉致問題	816	(35.5)
14 アイヌの人々	134	(5.8)
15 ホームレス	371	(16.1)
16 人身取引	234	(10.2)
17 どれにも関心がない	136	(5.9)
無回答	50	(2.2)

2012年調査



「女性、子ども、高齢者、障がい者」については関心が高い。特に高齢者 56.3%、子ども 55.8%、障がい者 52.1%については半数以上の人が関心をもっている。このことは、それぞれがかかわりをもつ身近な課題であるためと考えられる。

一方で、現在まで人権問題の中心として取り組んできた同和問題が 22.6%と必ずしも高くない。このことは「同和問題」を中心に取り組む学習から様々な人権問題について幅広く学習し、その共通の学びとして「人間の差別意識」をなくすという学習に変化してきた結果ともいえる。同和問題は我が国固有の人権問題であり、今後とも関心を高め、学習・啓発していく必要がある。

また、昨今の緊迫した世界情勢の中で、「北朝鮮による拉致問題」に関心が高くなっている。性的マイノリティについても、若い人を中心にカミングアウトやボランティア団体等の取組や啓発もあり、課題として取り上げられるようになり、関心が高まってきていると考えられる。

「インターネットによる人権侵害」についても、今日的な人権課題として関心が高く、今後 IT 技術の進歩とともにさらなる被害が予想されるため、早急に新たな対策を立てる必要がある。

なお、関心度の高くない項目については、今後学習内容・啓発活動・広報等を工夫・努力していくことが必要である。

7 自由記述から伺える意識

(1) 概要

【性別 内訳】

性別	男	女	不明	計
人数	178	301	1	480
比率 (%)	37.1%	62.7%	0.2%	100%
回収された調査票 全体の構成比	41.1%	57.8%	1.2%	100%

【年代別 内訳】

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	計
人数	20	35	94	84	84	97	63	3	480
比率 (%)	4.2%	7.3%	19.6%	17.5%	17.5%	20.2%	13.1%	0.6%	100%
回収された調査票 全体の構成比	4.7%	9.2%	15.4%	17.3%	17.4%	20.9%	13.5%	1.7%	100%

【記述内容別 内訳】

記 述 内 容	件数	比率 (%)
①人権教育や啓発活動に肯定的な意見や感想	64	10.4%
②同和教育や同和問題に対して肯定的な意見や感想	10	1.6%
③人権教育や啓発活動に対して否定的な意見や感想	9	1.5%
④同和教育や同和問題に対して否定的な意見や感想	45	7.3%
⑤その他の人権や人権問題に関する記述	151	24.4%
⑥その他、同和問題に関する記述	72	11.7%
⑦アンケート調査に対する肯定的な意見や感想	64	10.4%
⑧アンケート調査に対する否定的な意見や感想	24	3.9%
⑨その他、アンケート調査に関する記述	80	12.9%
⑩上記のどれにも当てはまらない記述	99	16.0%
計	618	100.0%

(複数の記述があったので、計が618になっている。)

アンケートに回答した2301人のうち、21.9%にあたる480人が何らかの意見や感想を記入している。

男女の記入割合では、男性(37.1%)より女性(62.7%)の方が、25.6ポイントも多く、アンケートに回答した女性1329人のうち4人に1人弱(22.6%)の人が記入している。

(2) 自由記述の抜粋（文意を変えない範囲で原文を一部変更しています。）

10代

【男性・17歳】 街頭での大衆向けの広報は、ただの風景になりがちなので、会社や学校ひいては家庭といった小さな単位で広報活動をすべきだと感じる。特に、小学生の子どもを持つ家庭には特別丁寧かつ高頻度に活動を行うべきである。一度誤った人権意識を抱くと、それを正すのは容易ではない。裏をかえせば偏見を持つ前に正しい知識を身につければ、その人の中に、その知識は根ざすだろうから、偏見のこれ以上の蔓延を防ぐことにもつながりうると私は考えています。

【女性・18歳】 私は看護学生です。今年9月に初めての実習に行きました。そこには重症心身障がい者の方が居られたのですが、最初はどうしても同じ人間というふうにとらえることができませんでした。しかし、きちんと関わるにつれて、その気持ちはどっかに行きました。私たち学生、ほとんどが同じように感じていて、偏見がなくなったという意見が多く出て、実習へ行って良かったなと思いました。しかし、行く前はやはり偏見があったわけで…。やはり世間一般の人々は、こういう方々と関わる機会があるわけではなくどうしても偏見をもってしまっていると思います。それをなくすためにどうしたらいいのか、正直わかりません。障がい者に対する偏見はどうしたらなくなるのでしょうか。

20代

【男性・28歳】 自分の住んでいる地域が昔は部落だったと聞かされているが、そのような差別意識を感じた経験はないので、部落差別はなくなっていると個人的には思う。女性の差別等は、男女平等の方針によって女性の尊重、社会進出がみられるがまだまだ不十分だと感じる。民間企業の幹部や国会議員の数等、海外の先進国に比べると依然として低い水準なので、国民の意識レベルでは男性社会が続いているのではないか。人権問題は何より国民一人一人の意識の向上が大切なので、私自身日頃の生活からもっとこれらの問題に目を向け、考えを深めていきたいと考えさせられた。

【女性・27歳】 差別のない、皆が住みやすい日本になっていければと思います。また、差別意識は子どもころの教育によっても変わると思います。学校で正しい知識をもっと教えてあげてほしいなとも思います。大人になってからはそれについて話し合ったり学習する場が身近にあればなとも思います。私は今、子育てをしています。子どもを連れての出先、たとえば児童館や図書館等でフランクな会、出入り自由なものがあれば参加してみたいなとも思いますし、正しく子どもに教えてあげられそうです。

【男性・30歳】 世間が全く関心を持ってなく、差別意識も無い問題を提起するのは、本末転倒だと思います。例えば、同和問題やハンセン病やアイヌ等かなりの年配でないと知らない話をわざわざこんな差別があったと宣伝するのは、差別の存在すら知らない世代に差別意識を植え付けているのも同然だと思います。

【女性・33歳】 子育て中なので、なかなか研修会等に参加できません。子育てをしている時こそ、人権問題について母親一人一人が、子どもを育てる中で、又、教育する中で考え、教えていかななくてはならないと思いますが、なかなか時間がもてません。もっと市や県 etc…が、健診時 etc…にパンフレットや、授業のようなものをすることによって関心をもてるのではないのでしょうか。そのことによって、女性の人権も守られるのではないかと考えます。

【女性・39歳】 二人子どもがいます。人権問題と難しく言ってしまうと理解が出来ないので、人の嫌がることや自分がされて嫌なことは人にはしないようにとっています。でも、理屈ではそうでも、周りの人の意見からはみ出ると自分に向って攻撃されるのでは…との恐怖もあり、矛盾することもあります。正しいことを正しいと言え、それを認められる広い心を持つことが出来る日が来るよう願います。

【女性・36歳】 今回このアンケート調査をいただくまで、人権問題に関して言葉では知っているものの深く考えることはありませんでした。関心を持たない・意識していないというのは個人の問題ではありますが、人権問題に対する関心、意識をもっと促進するためには、各人権団体をはじめ自治体（県や市を含む）が率先して活動する必要があると思います。また、若い人からお年寄りまで全ての人に関心を持つよう各年代の人が参加しやすいイベントや講演会を可能な範囲で行い、それぞれのニーズに合わせた形式で行われると良いと思います。私個人としては、人権問題に関するイベントについて今までほとんど知りませんでした。もっとアピールする必要があるのではないのでしょうか？今回を機に、人権問題についてもう少し関心を持つようにしたいと思います。

【男性・35歳】 最近は権利ばかりを主張し、義務を果たさない人が増えているように感じます。人権啓発も大事だとは思いますが、社会に対する奉仕の精神、倫理、道徳、国民の義務等についても併せて啓発し、バランスをとるべきだと考えます。学校の先生には、もう少し強い権限を与えても良いと思います。子どもたちには、悪いことをすれば先生に怒られる、時にはゲンコツをされる等、信賞必罰を教育するべきだと思います。（自分勝手に、人の意見を聞かない子どもが増えている）

【男性・35歳】 テレビ・チラシ等で時々見かけることはありますが、学校等を卒業してからは研修等で時間をかけて学習する機会は減ったと思います。いじめがニュースで取り上げられている今日、学校、企業等で差別に対する取組が増すことを望みます。

【女性・35歳】 私は小学生の時に同和教育を受けました。小学校、中学校と進んでいく中で、自分の住んでいる市にも部落差別を受けている地域があることに気がつきました。親、

兄弟と話をすることはありませんでしたが、近所の大人や友人の家族等、ある一定の年齢以上の人は誤解したままの知識を堂々と話しているように感じた経験があります。結婚をして松山市に来てからも、このあたりの地域は部落差別を受けている所だろうな…と、上手く言えませんが空気でわかることがありました。「知らない・関心がない」で済まされているのは、自分が人権を侵害されていないから出来るのであって、決して他人事でないのだと自分の息子には教えていきたいと思っています。固定概念を持った大人には長い時間がかかるでしょうが、これからの子どもたちに正しい知識を十分に与えていけるような教育を松山市にお願いしたいです。このアンケートが少しでもお役に立てますように…。

【女性・39歳】自分が子どもの頃に、親が同和問題の部落の人のことを良くは言っていなかった。まだ小学校低学年だったので、「そうなんだ…」と思っていたが、中学校くらいに、部落差別について授業を受けて、親が間違っていることがわかった。確か、部落は、江戸時代かそのあたりに、民衆をうまく治めるためにある日突然勝手に決められたものと記憶していますが…。自分は悪くないのに、急に理不尽な扱いをされることに怒りを覚え、心にずっと忘れずに残っています。学校で、くり返し同和問題をはじめ人権問題を学ぶことは、本当に大切だと思います。子どもたちが、他人事ではなく、自分のこととして考えるような授業内容であることを期待しています。

40代

【男性・49歳】誰でも外面内面があると思う。うまいことを言っても、自分が家族がという時は態度が違うと思う。

【女性・46歳】人権問題も私が小学生の頃は同和問題だったが、現在はかなり広い範囲で項目があると思う。小5、6の時に同和問題についてかなり深く教育を受けました。それは、未だにきざみこまれているが友人のことの知らないでよいことまで知ることになり、その教育が良かったかどうかはわかりません。自分の内には、極端に人を差別しない生き方ができていると思います。ただ、小学生の時にあまりにも深く勉強したので、大人になってまで人権問題にふれたくないといったものを持っています。

【女性・44歳】女性や障がい者、外国人に対する人権侵害を感じます。地方に住んでいるせいではなく、日本全体（主にマスコミ）に感じます。日本はもっと世界に目を向けて欲しいものです。

【女性・49歳】何をもって人権問題ととらえるのか、人によって様々かなと思う。人権問題＝同和問題とは思いたくないし、同和問題だけをとりあげる教育も間違っていると私は思う。幸か不幸か、私は、部落差別というような問題とは関わりなくこれまできたけれど、中学の頃の授業で全く身近でない同和問題について論じるよりもクラスの中にある「いじめ」や「差別する心」そういった一人一人の心の中にある問題について考えたり道徳心を養うことの方が大事なのではないかと思っていました。最近の学校教育については知りませんが、偏った教育がないとはいえないと思います。悲惨な

ニュース（いじめ、自殺、社会的地位のある人の犯罪等）をみていると、人々の心にまっとうな道徳心はないのか！！と嘆かわしくなります。道徳心、宗教心を養うような教育があってしかるべきと考えます。一人一人の心が少しでも清く美しく、高い良心をもつような社会に変われば、自ずと全ての問題が解決されていくのではないのでしょうか。まあ、むずかしいことですが…。

【女性・42歳】 障がい者も健常者も同じ人間です。住みやすい街という見方をすると、障がいのある方には住みにくいのではないかと感じます。私は20年広島に住んで、松山に移転しました。こちらに来てまず感じたのが歩道の狭さです。車イスの友人と一緒に街を歩いて感じました。小さな段差も多く、これは一人で行動するのは厳しいですし、市内・街中に障がい者用のトイレが少ないこと（デパートに入らないと無い）せっかく観光していてもくたくたになってしまいました。私たち健常者の目線ではなく、弱者の方々の意見の方が大切だと思います。悲しいかな、松山はまだハード面の整備ができていません。障がい者の方が安心して、一人でも行動できる街はそれ以外の人にとっても住みやすくなると思います。もちろん市政にたよりっぱなしではなく、私たち、企業、地域でも出来ることはあります。これからの高齢社会になっていく上でだれにでも住みやすい街、やさしい街になっていくことを願っております。正直、私は松山市がこういう推進に取り組まれていることを知りませんでした。今回のことで知ることができ、今後、いろいろな改善がなされていくことに関心が生まれました。このような機会を与えて頂きましてありがとうございました。私の好きな松山がもっと良くなることを願っております。

【男性・46歳】 人権問題は、多岐にわたり色々な項目があるが、行政において、主導して取り組んでいかねばならない課題も多くあると思います。しっかりとリーダーシップを発揮して頂くとともに、取組の過程、成果を市民に知らせる活動も充実してください。

【男性・44歳】 人権問題に関するパンフレットを職場で頂いたりしますが、ざっと目を通すくらいで深く考えることはありませんでした。この意識調査をきっかけに、少し関心を持つことが出来ましたので、感謝いたします。何かのきっかけがないと、興味というものは向けられないと思います。このような機会を多くつくってくださいますようお願いいたします。

50代

【女性・51歳】 子どもが学校と関わっている時は少しは考える機会がありましたが、大きくなるにつれその機会も少なくなってきました。普段、人権についてほとんど考えていないことがこのアンケートでわかりました。考え直すきっかけになりました。ポスター等、これからは関心を持って見てみます。

【女性・50歳】 人権は個人の位置づけで、かなり違った考えになるかと思います。人権は本当に守られなければならないものですが、権利を主張するためには義務も果たさないといけないのではないかと思います。最近、権利ばかり主張するケースが目立ちます。

【男性・52歳】 日々の何気ない言葉や行動が、差別につながっていきたりすることは、やはりいろいろなところで、勉強を積み重ねないと理解できないと感じています。関係者の方は大変ですが、いろいろな方法を利用して情報発信をしてください。多くの人たちが、手を取りあい、言葉をかけあい支え合える社会の実現を、災いを体験した日本から発信していきたいものです。チャンスは自分からといいます。色々な取組に参加できる方法を調べ、無理のない形で参画をしていきたいものです。

60代

【男性・66歳】 諸問題が家庭を含む教育、躰にあると考えている。教える側の親、教師自身が人としてあるべき方向を目指して生活しているかといえば、必ずしもそうではない。その根本的部分により注目すべきだ。また、子どもたちは町内の大人たちが大切に育てるという考え方がかつてはあったように思う。「子どもは国の宝」子どもを含めたコミュニティを活性化することも重要と考える。(個人情報の名の下、家族の情報が周囲に知られないようにしてしまうのは、利点をはるかに超える悪影響を及ぼしていると感じている。) 相談窓口、通報窓口がどこにあるのか、またどんな対応力があるのかをもっと知らせる必要がある。

【男性・66歳】 人権問題にしろ、他の問題にしろ多数の市民は関心を持っていますが、日本人の性格としてそっとしておこうという人がほとんどです。全員が声を上げることが第一歩です。

【男性・68歳】 人権問題＝教育問題と思う、日本国憲法にのっとった教育を小さい頃からまき返し、繰り返しやる以外に解決の道はない。教育問題はすべての項目に時間を必要とする。少しずつではあるが同和問題等を含め、我々の子ども時代から意識は変わってきている。じっくりと時間をかけ意識啓発をすることが大切だと思う。

【女性・65歳】 同和問題については、中学生の時、法事で親戚の人の話で初めて知りました。理由がわからず、母に尋ねたところ「あなたたち若い者は知らなくて良い。」と申しましたが、その歴史は教えてくれました。母はリベラルな考えの持ち主で、母の意見に同感したことを今も思い出しております。その折に「では、私が同和地区の人と結婚すると知ったら許すかしら？」と聞いたところ「親戚は許さないかもしれないが、あなたが幸せなら良いですよ。」という返事。中学生の私は、その時から母に尊敬の念を抱いた覚えがあります。教師、大人たちの正しい歴史認識を子どもたちに伝えてこそ良い方向に行くのでは…。

70代

【男性・72歳】 同和問題については、当事者にとっては気の毒と思いつつ、私自身気になる点がありわかってはいるようでも家族の結婚となると反対すると思います。そこは私もなさけないです。

【女性・73歳】 昔ほどではないと思いますが、今でも同和問題はあると思います。また、夫婦間でも夫は妻を自分の持ち物のように思っているのではと思うことがあります。若い人はそうでもないのでしょうか？いつも相手を思いやる気持ちで過ごせたら、穏やかに暮らせるのではと思います。

【女性・72歳】 これは私が20歳前に体験しましたことを記させていただきました。（父から）昭和35年度に大島青松園の（女性の）話を聞かされました。彼女はやはり実家恋しさに病院から無断で帰られたそうです。その実家は遠く高知の方でした。若い娘さんがなぜこのような場所にいななければならないのか、好きで病気になった訳ではないものを大変な病に侵され当時の彼女はどんな思いで日々の生活を送っていたのでしょうか。この小さな島でどこへ行くことも許されずただひたすら病と向き合い、治療に専念し、いつかは家族の元へと誰しも思いをはせたことでしょうか。私は父の話を聞き目頭が熱くなったことを昨日のように思い出します。その父も去って五十年、今はあの時、父の話を聞かされなければ人を敬う心を持っていたのでしょうか。私はただただ父に感謝です。（思いのまま書かせていただきました）

【女性・79歳】 常に人間について深く関心を持ち、いい意味の個人認識、人権問題を基本的に市政、教育、経済、制度、文化をとらえていこうとする松山市は素晴らしい。市の職員の方々の思考や対策、発言、すべて良心的で、信頼できます。住民も共に自他の立場を尊重し合って、お互いに尊重し合って、質の高い現代社会をめざしましょう。明治の近代化の中で、いかに愛媛が良心的なすぐれた権利の対策・理解を展開させたか。松山の近代化が、文学になり得たことを誇りに思います。まだお世話になりますが、松山市民であることに「よろこび」と「誇り」を持って、お互いを大切にしていきたいと思います。

IV 付 属 資 料

「人権問題に関する市民意識調査」実施要項

「人権問題に関する市民意識調査」調査用紙

「人権問題に関する市民意識調査」数値表

参考資料

「人権問題に関する市民意識調査」実施要項

1 調査目的

同和問題をはじめ様々な人権問題を解決し、誰もがしあわせに生きることのできるまちづくりを目指すため、「人権問題に関する市民意識調査」を実施する。

この調査結果を分析・検討し、本市における人権教育及び啓発の取組の成果と残された課題を確認するとともに今後の人権教育及び啓発の推進に役立てる。

2 実施主体

松山市人権教育推進協議会

3 調査期間

2012（平成24）年9月24日～10月9日

4 調査設計

調査対象：松山市内に在住する15歳以上79歳以下の男女

標本数：4,000

抽出方法：住民基本台帳より単純無作為抽出

調査方法：郵送調査

5 報告集

報告書 2,000部

ダイジェスト版 10,000部

「人権問題に関する市民意識調査」

— お 願 い —

松山市は松山市人権教育推進協議会と連携し、2011（平成23）年度に改訂した「松山市人権啓発施策に関する基本方針」をもとに、同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決を目指し、『「誇れる」人権尊重で笑顔に』一人にやさしい、人がやさしいまち 松山ーをスローガンに、市民の人権尊重意識の高揚に取り組んでいます。

この調査は、市民のみなさんが、人権について、どのようなお考えをもっておられるかを
お聞かせいただき、今後の松山市の人権教育・啓発の推進のための基礎資料として活用させて
いただくためにご協力をお願いするものです。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解のうえ、ぜひお答えいただき、
ご返送くださいますようお願い申し上げます。

2012（平成24）年9月24日

松山市・松山市人権教育推進協議会

～ ご回答いただくために ～

- 1 あなたは松山市民の中から、無作為抽出法（くじ引きの要領で選ぶ方法）で調査の対象者として選ばれた4000名のうちのお一人です。

選ばれた方は、この調査票の宛先となっている方です。誠に勝手なお願いですが、かならず
ご本人がご回答ください。

- 2 ご回答にあたって、お名前を書く必要はありません。
- 3 この調査結果は、人権啓発の目的以外には使用いたしません。回答はすべて、松山大学社会調査室で統計的な手続きにしたがって科学的に処理されます。無記名ですので、個人の回答が外にもれて、ご回答いただいた方にご迷惑をかけるようなことは一切ありません。あなたがお考えになっていることをありのままにお答えください。

- 4 回答はすべて、該当する数字に○印をおつけください。

- 5 調査用紙は、ご記入が終わり次第、お手数ですが同封の返信用封筒に入れて、**切手をはらずに10月9日（火）**までにポストにお入れください。

なお、返信用封筒の宛先欄の下に付されているバーコードは郵便局が整理のために付したものです。回答者個人を特定するためのものではありません。

- 6 この調査についてご不審の点がありましたら、下記にお問い合わせください。

【この調査についてのお問い合わせ先】

松山市人権啓発課・松山市人権教育推進協議会事務局

〒790-8571 松山市二番町4丁目7番地2

TEL (089) 948-6386

FAX (089) 934-1742

受付時間 月～金 8:30～17:15

問1 あなたは、今の日本の社会では人権が尊重されていると思いますか、思いませんか。次の中から1つお選びください。

- 1 十分尊重されている
- 2 おおむね尊重されている
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり尊重されていない
- 5 まったく尊重されていない

問2 あなたは、人権問題に、日ごろからどの程度関心がありますか。次の中から1つお選びください。

- 1 おおいに関心がある
- 2 少しは関心がある
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり関心がない
- 5 まったく関心がない

問3 あなたが、理想とする女性の働き方として、最も近いものはどれですか。次の中から1つお選びください。(男性の方もお答えください)

- 1 一生職業をもつ
- 2 結婚ないし出産まで職業をもち、子どもに手がかからなくなってから再び職業をもつ
- 3 結婚ないし出産までは職業をもつが、それ以後は家庭のことに専念する
- 4 わからない

問4 あなたは、子どもに対する体罰に関して、どのようにお考えですか。次の中から1つお選びください。

- 1 親であれ教師であれ、子どもに対する体罰はみとめられない
- 2 親が自分の子に体罰を加えるのは時には必要だが、教師の体罰はみとめられない
- 3 親や教師が、子どもに体罰を加えることも時と場合によっては必要である
- 4 わからない

問5 虐待を受けたと思われる子どもに気付いた時に、あなたはどのようにしますか。次の中から1つお選びください。

- 1 児童相談所や保健所等に通報する
- 2 家族や保育園・学校等に知らせる
- 3 知らないふりをする
- 4 その他（具体的に： _____)

問6 一人ぐらしの高齢者に家や部屋を貸すのを断る家主がいますが、あなたはどのようにお考えですか。次の中から1つお選びください。

- 1 他の人と同様に入居させるべきだ
- 2 近くに家族が住んでいれば、入居させてもよいと思う
- 3 何かあった場合、周囲の人が迷惑するので、入居を断る方が結果的にはよい
- 4 わからない

問7 外国人に家や部屋を貸すのを断る家主がいますが、あなたはどのようにお考えですか。次の中から1つお選びください。

- 1 断るべきではない
- 2 滞在目的や保証人がしっかりしている場合に限って貸すようにすればよい
- 3 断ってもよい
- 4 わからない

問8 日本に居住している外国人の人権について、あなたはどのようにお考えですか。次の中から1つお選びください。

- 1 日本国籍を持たない人でも、日本人と同じように人権は守られるべきだ
- 2 日本国籍を持たない人は、日本人と同じような権利を持っていなくても仕方がない
- 3 どちらともいえない
- 4 わからない

問9 もし職場の同僚がエイズ患者・HIV感染者とわかった場合、あなたはどのように思いますか。次の中から1つお選びください。

- 1 今までどおりにつきあう
- 2 その人が職場にいるのはかまわないが、一緒に仕事をしたくない
- 3 その人には、できれば職場をやめてもらいたい
- 4 わからない

問 10 障がい者がくらす施設が地域に設置されようとした時に、地域住民が反対することがありますが、あなたはどのように思いますか。次の中から1つお選びください。

- 1 反対する人の気持ちがわからない
- 2 反対する人の気持ちもわかる
- 3 そうした施設は、住宅地から離れた迷惑にならないところにつくればよい
- 4 わからない

問 11 次にあげるA, B, Cについて、あなたはどのように思いますか。次の中からそれぞれ1つお選びください。

A 結婚式や葬儀を行うときに、「大安」・「仏滅」や「友引」などを気にしますか、気にしませんか。

- 1 気にする
- 2 少しは気にする
- 3 あまり気にしない
- 4 気にしない

B あなたの身内の結婚のときに、相手の家柄などを気にしますか、気にしませんか。

- 1 気にする
- 2 少しは気にする
- 3 あまり気にしない
- 4 気にしない

C 葬儀の後で、「清め塩」をまくことについてどのように思いますか。

- 1 ケガレをはらうためにまくべきだと思う
- 2 慣習なのでまく方がいいと思う
- 3 まく必要はないと思う
- 4 わからない

問 12 あなたは、今なお同和問題（部落差別）にかかわる差別があると思いますか、思いませんか。

- 1 まだまだあると思う
- 2 少しは残っていると思う
- 3 なくなったと思う
- 4 わからない

→ 問 12-2 問 12 で「1」または「2」を選んだ方におたずねします。それはどんな時ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

- 1 結婚のとき
- 2 進学のとき
- 3 就職のとき
- 4 居住地を聞かれたとき
- 5 職場でのつきあいのとき
- 6 近所づきあいのとき
- 7 その他（具体的に： _____)

問 13 あなたは、この1年間に家族との間で、同和問題をどの程度話題にしましたか。

- 1 よく話題にした
- 2 ときどき話題にした
- 3 ほとんど話題にしなかった
- 4 まったく話題にしなかった
- 5 一人ぐらして話題にできなかった

問 14 あなたは、この1年間に友人との間で、同和問題をどの程度話題にしましたか。

- 1 よく話題にした
- 2 ときどき話題にした
- 3 ほとんど話題にしなかった
- 4 まったく話題にしなかった

問 15 もし家族から同和問題について差別的な話が出たとき、あなたはどのようにしますか。次の中から1つお選びください。

- 1 自分で差別のまちがいを説明する
- 2 説明する自信がないので、そのまましておく
- 3 自分には関係のないことだから、そのまましておく
- 4 家族の意見にあわせてしまう
- 5 その他（具体的に： _____）

問 16 あなたは、過去3年間で、人権問題の学習会や研修会などに何回くらい参加しましたか（学校での授業を含みます）。

- 1 3年間で1回～2回
 - 2 3年間で3回～5回
 - 3 3年間で6回以上
 - 4 まったくない
- （6ページの間16-4をお答えください）

→ 問 16-2 問16で「1」、「2」、「3」と答えた方にお聞きします。参加したきっかけは次のうちのどれですか。主なものを2つ以内でお選びください。

- 1 その問題に関心をもっていたから
- 2 勤務先から参加するようにすすめられたから
- 3 関係団体の役員になっていたから
- 4 知人に参加するように頼まれたから
- 5 参加した行事の中に、人権教育が組み込まれていたから
- 6 授業参観日やPTA行事に、人権教育が組み込まれていたから
- 7 公共の施設を利用するとき、人権教育の研修が義務づけられていたから
- 8 学校の授業に人権学習があったから
- 9 その他（具体的に： _____）

→ 問 16-3 問16で「1」、「2」、「3」と答えた方にお聞きします。参加してみて、その内容について総合評価すると、次のどれにあてはまりますか。次の中から1つお選びください。

- 1 人権問題の理解に大いに役立った
- 2 人権問題の理解に少しは役立った
- 3 内容がむずかしすぎて、よくわからなかった
- 4 いつも同じような話の内容であった
- 5 話の内容に反発をおぼえた
- 6 その他（具体的に： _____）
- 7 よくおぼえていない

問 16-4 問 16 で「4 まったくない」と答えた方にお聞きします。研修・学習会に参加しなかった理由を、次の中から1つお選びください。

- 1 研修・学習会が行われていることを知らなかった
- 2 人権問題のことはすでによく知っていたので参加するまでもない
- 3 参加したかったが、時間的余裕がなかった
- 4 人権問題に関心がない
- 5 その他（具体的に： _____）
- 6 おぼえていない

問 17 あなたは、最近（過去3年程度の間）、次にあげるA, B, Cについて、もったり、見かけたりしたことがありますか、ありませんか。

A 人権問題に関するパンフレットなどをもらったことがありますか、ありませんか。

- 1 ある
- 2 ない

B 人権問題に関する標語やポスターなどを見かけたことがありますか、ありませんか。

- 1 ある
- 2 ない

C 人権問題に関する街頭啓発活動やパレードを見かけたことがありますか、ありませんか。

- 1 ある
- 2 ない

→ 問 17-2 問 17 のA, B, Cの内、1つでも「1」と答えた方にお聞きします。それらのものは、あなたの人権問題に関する関心をどの程度よびおこしましたか。

- 1 ますます関心をもった
- 2 関心をもつきっかけになった
- 3 少しは関心をもつきっかけになった
- 4 あまり関心をもつきっかけにはならなかった
- 5 関心をもつきっかけにはならなかった

問 18 あなたは、次にあげる団体やグループとのかかわりは、現在どの程度ですか。それぞれについてお答えください。

A 自治会・町内会

- 1 よく参加している
- 2 ときどき参加している
- 3 ほとんど参加していない
- 4 まったく参加していない

B 趣味やスポーツの団体

- 1 よく参加している
- 2 ときどき参加している
- 3 ほとんど参加していない
- 4 まったく参加していない

C ボランティア団体

- 1 よく参加している
- 2 ときどき参加している
- 3 ほとんど参加していない
- 4 まったく参加していない

問 19 あなたは、PTAまたは保護者会に、現在どの程度かかわっていますか。

- 1 よく参加している
- 2 ときどき参加している
- 3 ほとんど参加していない
- 4 まったく参加していない
- 5 PTAや保護者会と関係する年代の子どもがいない

問 20 あなたが、もし、病気で2週間寝込んだとします。家族以外で、いくらかでも手助けを期待できるのは、次の中では誰でしょうか。あてはまるものをすべてお選びください。

- 1 親戚
- 2 職場の人たち
- 3 近所の人たち
- 4 知人（親戚・職場・近所の人たち以外の知人）
- 5 いずれの人にも頼めない

問 21 あなたは、松山市では、人権啓発施策に関する基本方針を策定していることをご存知ですか。次の中から1つお選びください。

- 1 知っている
- 2 知らない
- 3 その他（具体的に： _____)

問 22 基本方針には、人権教育・啓発の推進に関する重要な人権課題として、以下の項目を位置づけていますが、あなたが関心のあるものをすべてお選びください。

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1 女性 | 2 子ども |
| 3 高齢者 | 4 障がい者 |
| 5 同和問題 | 6 HIV感染者 |
| 7 外国人 | 8 刑を終えて出所した人 |
| 9 ハンセン病患者・回復者 | 10 インターネットによる人権侵害 |
| 11 犯罪被害者等 | 12 性的マイノリティ |
| 13 北朝鮮による拉致問題 | 14 アイヌの人々 |
| 15 ホームレス | 16 人身取引 |
| 17 どれにも関心がない | |

*統計的な分析のために必要ですので、あなた自身のことについてお答えください。

問 23 あなたの性別をお答えください。

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

問 24 あなたの年齢は満何歳ですか（2012年10月1日現在でお答えください）。

満_____歳

「人権問題に関する市民意識調査」数値表

問1 今の日本の社会では人権が尊重されていると思いますか、思いませんか。

総数	合計	十分尊重されている	おおむね尊重されている	どちらともいえない	あまり尊重されていない	まったく尊重されていない	無回答
(性別)	2301	95	1065	734	352	47	8
男性	945	54	461	269	133	27	1
女性	1329	37	594	457	215	19	7
無回答	27	4	10	8	4	1	0
(年齢別)							
15歳～19歳	107	1	43	43	17	3	0
20歳～29歳	211	8	82	73	39	8	1
30歳～39歳	355	18	149	123	53	11	1
40歳～49歳	398	14	193	126	58	5	2
50歳～59歳	401	14	189	127	61	9	1
60歳～69歳	480	20	234	141	75	8	2
70歳以上	311	15	158	90	45	2	1
無回答	38	5	17	11	4	1	0
(性・年齢別)							
男性 15歳～19歳	53	1	23	20	6	3	0
20歳～29歳	82	5	28	31	14	3	1
30歳～39歳	135	13	50	47	18	7	0
40歳～49歳	151	5	79	47	18	2	0
50歳～59歳	170	7	90	39	28	6	0
60歳～69歳	213	16	113	50	30	4	0
70歳以上	137	7	76	33	19	2	0
女性 15歳～19歳	54	0	20	23	11	0	0
20歳～29歳	129	3	54	42	25	5	0
30歳～39歳	219	5	99	75	35	4	1
40歳～49歳	247	9	114	79	40	3	2
50歳～59歳	231	7	99	88	33	3	1
60歳～69歳	267	4	121	91	45	4	2
70歳以上	174	8	82	57	26	0	1
無回答	39	5	17	12	4	1	0

問2 人権問題に、日ごろからどの程度関心をお持ちですか。

	合計	大いに関心がある	少しは関心がある	どちらともいえない	あまり関心がない	まったく関心が ない	無回答
総数	2301	233	1135	466	410	56	1
(性別)							
男性	945	106	444	179	184	32	0
女性	1329	121	680	279	225	23	1
無回答	27	6	11	8	1	1	0
(年齢別)							
15歳～19歳	107	7	54	17	24	5	0
20歳～29歳	211	10	96	38	57	10	0
30歳～39歳	355	26	154	94	67	13	1
40歳～49歳	398	37	205	85	66	5	0
50歳～59歳	401	39	199	81	71	11	0
60歳～69歳	480	48	253	89	81	9	0
70歳以上	311	59	157	52	41	2	0
無回答	38	7	17	10	3	1	0
(性・年齢別)							
男性15歳～19歳	53	4	23	8	15	3	0
20歳～29歳	82	3	35	17	20	7	0
30歳～39歳	135	9	56	27	36	7	0
40歳～49歳	151	12	79	28	30	2	0
50歳～59歳	170	23	75	35	30	7	0
60歳～69歳	213	22	108	40	37	6	0
70歳以上	137	33	66	23	15	0	0
女性15歳～19歳	54	3	31	9	9	2	0
20歳～29歳	129	7	61	21	37	3	0
30歳～39歳	219	17	98	66	31	6	1
40歳～49歳	247	25	126	57	36	3	0
50歳～59歳	231	16	124	46	41	4	0
60歳～69歳	267	26	145	49	44	3	0
70歳以上	174	26	91	29	26	2	0
無回答	39	7	17	11	3	1	0

問3 あなたが理想とする女性の働き方として、最も近いものはどれですか。

総数	合計	一生職業をもつ	結婚・出産までは職業をもち、子育て終了後、再就職	結婚・出産まで職業をもち、その後、専業主婦	わからない	無回答
(性別)	2301	478	1280	294	237	12
男性	945	122	538	147	131	7
女性	1329	353	728	141	102	5
無回答	27	3	14	6	4	0
(年齢別)						
15歳～19歳	107	17	55	17	18	0
20歳～29歳	211	32	128	25	26	0
30歳～39歳	355	83	194	37	41	0
40歳～49歳	398	102	207	40	48	1
50歳～59歳	401	95	228	39	37	2
60歳～69歳	480	86	281	66	42	5
70歳以上	311	57	169	61	20	4
無回答	38	6	18	9	5	0
(性・年齢別)						
男性 15歳～19歳	53	5	23	10	15	0
20歳～29歳	82	8	49	8	17	0
30歳～39歳	135	18	77	17	23	0
40歳～49歳	151	26	82	19	23	1
50歳～59歳	170	23	101	23	22	1
60歳～69歳	213	23	129	37	20	4
70歳以上	137	19	75	32	10	1
女性 15歳～19歳	54	12	32	7	3	0
20歳～29歳	129	24	79	17	9	0
30歳～39歳	219	65	116	20	18	0
40歳～49歳	247	76	125	21	25	0
50歳～59歳	231	72	127	16	15	1
60歳～69歳	267	63	152	29	22	1
70歳以上	174	38	94	29	10	3
無回答	39	6	19	9	5	0

問4 子供に対する体罰に関して、どのようなお考えですか。

	合計	親であれ教師であれ 体罰は認められない	親の体罰は時には必要、 教師のは認められない	親や教師の体罰は、時 と場合によって必要	わからない	無回答
総数	2301	422	181	1573	119	6
(性別)						
男性	945	142	53	716	32	2
女性	1329	279	127	836	83	4
無回答	27	1	1	21	4	0
(年齢別)						
15歳～19歳	107	31	11	62	3	0
20歳～29歳	211	48	14	132	17	0
30歳～39歳	355	64	30	237	24	0
40歳～49歳	398	56	30	295	17	0
50歳～59歳	401	67	40	272	18	4
60歳～69歳	480	95	25	330	29	1
70歳以上	311	58	27	219	6	1
無回答	38	3	4	26	5	0
(性・年齢別)						
男性 15歳～19歳	53	14	4	33	2	0
20歳～29歳	82	13	5	58	6	0
30歳～39歳	135	16	4	109	6	0
40歳～49歳	151	15	5	128	3	0
50歳～59歳	170	27	13	124	5	1
60歳～69歳	213	34	8	162	8	1
70歳以上	137	23	12	100	2	0
女性 15歳～19歳	54	17	7	29	1	0
20歳～29歳	129	35	9	74	11	0
30歳～39歳	219	47	26	128	18	0
40歳～49歳	247	41	25	167	14	0
50歳～59歳	231	40	27	148	13	3
60歳～69歳	267	61	17	168	21	0
70歳以上	174	35	15	119	4	1
無回答	39	4	4	26	5	0

問5 虐待を受けたと思われる子どもに気付いた時に、あなたはどのようにしますか。

総数	合計	児童相談所や保健所等に通報する	家族や保育園・学校等に知らせる	知らないふりをする	その他	無回答
(性別)	2301	1185	847	78	165	26
男性	945	471	353	46	68	7
女性	1329	702	480	32	96	19
無回答	27	12	14	0	1	0
(年齢別)						
15歳～19歳	107	46	48	7	5	1
20歳～29歳	211	111	65	15	18	2
30歳～39歳	355	199	115	12	28	1
40歳～49歳	398	206	138	12	39	3
50歳～59歳	401	219	136	13	29	4
60歳～69歳	480	245	183	13	31	8
70歳以上	311	144	141	5	14	7
無回答	38	15	21	1	1	0
(性・年齢別)						
男性15歳～19歳	53	24	23	5	1	0
20歳～29歳	82	40	27	9	5	1
30歳～39歳	135	69	40	7	19	0
40歳～49歳	151	82	50	5	13	1
50歳～59歳	170	91	58	9	10	2
60歳～69歳	213	104	86	8	14	1
70歳以上	137	61	66	2	6	2
女性15歳～19歳	54	22	25	2	4	1
20歳～29歳	129	71	38	6	13	1
30歳～39歳	219	130	74	5	9	1
40歳～49歳	247	124	88	7	26	2
50歳～59歳	231	128	78	4	19	2
60歳～69歳	267	141	97	5	17	7
70歳以上	174	83	75	3	8	5
無回答	39	15	22	1	1	0

問6 一人暮らしの高齢者に家や部屋を貸すことを断る家主がいますが、あなたはどのようなようにお考えですか。

総数	合計	他の人と同様に同居させるべき	近くに家族が住んでいれば、同居させてよい	入居を断るほうが結果的によい	わからない	無回答
(性別)	2301	809	1052	134	300	6
男性	945	348	382	68	141	6
女性	1329	454	655	63	157	0
無回答	27	7	15	3	2	0
(年齢別)						
15歳～19歳	107	37	49	2	19	0
20歳～29歳	211	77	93	9	32	0
30歳～39歳	355	128	149	22	55	1
40歳～49歳	398	135	176	21	64	2
50歳～59歳	401	162	170	18	49	2
60歳～69歳	480	162	240	29	48	1
70歳以上	311	97	155	28	31	0
無回答	38	11	20	5	2	0
(性・年齢別)						
男性 15歳～19歳	53	18	24	1	10	0
20歳～29歳	82	23	33	6	20	0
30歳～39歳	135	47	52	14	21	1
40歳～49歳	151	50	62	10	27	2
50歳～59歳	170	70	56	12	30	2
60歳～69歳	213	85	93	14	20	1
70歳以上	137	53	61	10	13	0
女性 15歳～19歳	54	19	25	1	9	0
20歳～29歳	129	54	60	3	12	0
30歳～39歳	219	81	96	8	34	0
40歳～49歳	247	85	114	11	37	0
50歳～59歳	231	92	114	6	19	0
60歳～69歳	267	77	147	15	28	0
70歳以上	174	44	94	18	18	0
無回答	39	11	21	5	2	0

問7 外国人に家や部屋を貸すことを断る家主がいますが、あなたはどのようにお考えですか。

総数	合計	断るべきではない	目的・保証人がしっかりしている場合に貸す	断ってもよい	わからない	無回答
(性別)	2301	246	1757	111	184	3
男性	945	110	699	61	74	1
女性	1329	131	1043	47	106	2
無回答	27	5	15	3	4	0
(年齢別)						
15歳～19歳	107	31	66	5	5	0
20歳～29歳	211	23	168	5	15	0
30歳～39歳	355	34	279	15	26	1
40歳～49歳	398	41	299	22	35	1
50歳～59歳	401	38	316	13	33	1
60歳～69歳	480	44	377	21	38	0
70歳以上	311	29	228	26	28	0
無回答	38	6	24	4	4	0
(性・年齢別)						
男性 15歳～19歳	53	17	29	5	2	0
20歳～29歳	82	7	59	3	13	0
30歳～39歳	135	13	108	8	6	0
40歳～49歳	151	16	107	14	13	1
50歳～59歳	170	20	120	10	20	0
60歳～69歳	213	21	171	10	11	0
70歳以上	137	16	102	10	9	0
女性 15歳～19歳	54	14	37	0	3	0
20歳～29歳	129	16	109	2	2	0
30歳～39歳	219	21	170	7	20	1
40歳～49歳	247	25	192	8	22	0
50歳～59歳	231	18	196	3	13	1
60歳～69歳	267	23	206	11	27	0
70歳以上	174	13	126	16	19	0
無回答	39	6	25	4	4	0

問8 日本に居住している外国人の人権について、あなたはどのように思いますか。

総数	合計	日本人と同様に人権は守られるべき	日本人と同じ権利がなくてもよいかたがない	どちらともいえない	わからない	無回答
(性別)	2301	1297	519	347	130	8
男性	945	510	270	127	34	4
女性	1329	770	247	218	91	3
無回答	27	17	2	2	5	1
(年齢別)						
15歳～19歳	107	84	14	7	2	0
20歳～29歳	211	113	49	37	12	0
30歳～39歳	355	187	89	57	21	1
40歳～49歳	398	239	80	62	15	2
50歳～59歳	401	241	85	62	13	0
60歳～69歳	480	253	125	70	30	2
70歳以上	311	160	71	47	31	2
無回答	38	20	6	5	6	1
(性・年齢別)						
男性 15歳～19歳	53	39	11	2	1	0
20歳～29歳	82	39	21	16	6	0
30歳～39歳	135	67	48	15	4	1
40歳～49歳	151	77	45	26	2	1
50歳～59歳	170	95	44	27	4	0
60歳～69歳	213	117	67	20	8	1
70歳以上	137	75	32	20	9	1
女性 15歳～19歳	54	45	3	5	1	0
20歳～29歳	129	74	28	21	6	0
30歳～39歳	219	119	41	42	17	0
40歳～49歳	247	162	35	36	13	1
50歳～59歳	231	146	41	35	9	0
60歳～69歳	267	136	58	50	22	1
70歳以上	174	85	39	27	22	1
無回答	39	21	6	5	6	1

問9 もし職場の同僚がエイズ患者・HIV感染者とわかった場合、あなたはどのような考えですか。

総数	合計	今までどおりにつきあう	一緒に仕事をしたいくない	できれば職場をやめてもらいたい	わからない	無回答
(性別)	2301	1516	231	71	479	4
男性	945	628	110	32	173	2
女性	1329	873	120	38	296	2
無回答	27	15	1	1	10	0
(年齢別)						
15歳～19歳	107	84	5	3	15	0
20歳～29歳	211	151	16	5	39	0
30歳～39歳	355	263	24	7	61	0
40歳～49歳	398	287	31	14	64	2
50歳～59歳	401	270	43	11	77	0
60歳～69歳	480	276	63	14	125	2
70歳以上	311	165	46	16	84	0
無回答	38	20	3	1	14	0
(性・年齢別)						
男性15歳～19歳	53	37	3	2	11	0
20歳～29歳	82	62	5	1	14	0
30歳～39歳	135	103	10	3	19	0
40歳～49歳	151	107	13	5	25	1
50歳～59歳	170	108	25	7	30	0
60歳～69歳	213	135	30	5	42	1
70歳以上	137	74	23	9	31	0
女性15歳～19歳	54	47	2	1	4	0
20歳～29歳	129	89	11	4	25	0
30歳～39歳	219	159	14	4	42	0
40歳～49歳	247	180	18	9	39	1
50歳～59歳	231	162	18	4	47	0
60歳～69歳	267	141	33	9	83	1
70歳以上	174	91	23	7	53	0
無回答	39	21	3	1	14	0

問10 障がい者がくらす施設が地域に設置されようとした時に、地域住民が反対することがありますが、あなたはどのように思いますか。

	合計	反対する人の気持ち がわからない	反対する人の気持ち もわかる	住宅地から離れた 場所に作ればよい	わからない	無回答
総数	2301	980	974	129	209	9
(性別)						
男性	945	388	422	59	74	2
女性	1329	579	544	68	133	5
無回答	27	13	8	2	2	2
(年齢別)						
15歳～19歳	107	50	48	2	7	0
20歳～29歳	211	90	86	15	20	0
30歳～39歳	355	137	166	14	38	0
40歳～49歳	398	164	186	18	29	1
50歳～59歳	401	173	180	16	31	1
60歳～69歳	480	220	187	25	45	3
70歳以上	311	132	106	37	34	2
無回答	38	14	15	2	5	2
(性・年齢別)						
男性 15歳～19歳	53	28	21	1	3	0
20歳～29歳	82	33	33	5	11	0
30歳～39歳	135	44	72	8	11	0
40歳～49歳	151	62	69	11	9	0
50歳～59歳	170	67	85	8	10	0
60歳～69歳	213	103	86	8	15	1
70歳以上	137	51	52	18	15	1
女性 15歳～19歳	54	22	27	1	4	0
20歳～29歳	129	57	53	10	9	0
30歳～39歳	219	93	93	6	27	0
40歳～49歳	247	102	117	7	20	1
50歳～59歳	231	106	95	8	21	1
60歳～69歳	267	117	101	17	30	2
70歳以上	174	81	54	19	19	1
無回答	39	14	16	2	5	2

問 11 A 結婚式や葬儀を行うときに、「大安」・「仏滅」や「友引」などを気にしますか、気にしませんか。

	合計	気にする	少しは気にする	あまり気にしない	気にしない	無回答
総数	2301	915	914	280	188	4
(性別)						
男性	945	369	362	119	94	1
女性	1329	537	543	156	90	3
無回答	27	9	9	5	4	0
(年齢別)						
15歳～19歳	107	27	44	15	21	0
20歳～29歳	211	73	85	28	25	0
30歳～39歳	355	119	157	47	31	1
40歳～49歳	398	164	160	51	23	0
50歳～59歳	401	177	153	42	29	0
60歳～69歳	480	193	199	54	33	1
70歳以上	311	148	105	35	21	2
無回答	38	14	11	8	5	0
(性・年齢別)						
男性 15歳～19歳	53	17	21	6	9	0
20歳～29歳	82	24	27	17	14	0
30歳～39歳	135	48	54	18	14	1
40歳～49歳	151	67	57	16	11	0
50歳～59歳	170	67	67	22	14	0
60歳～69歳	213	83	89	22	19	0
70歳以上	137	62	46	17	12	0
女性 15歳～19歳	54	10	23	9	12	0
20歳～29歳	129	49	58	11	11	0
30歳～39歳	219	71	102	29	17	0
40歳～49歳	247	97	103	35	12	0
50歳～59歳	231	110	86	20	15	0
60歳～69歳	267	110	110	32	14	1
70歳以上	174	86	59	18	9	2
無回答	39	14	12	8	5	0

問 11 B あなたの身内の結婚のときに、相手の家柄などを気にしますか、気にしませんか。

	合計	気にする	少しは気にする	あまり気にしない	気にしない	無回答
総数	2301	286	1016	645	351	3
(性別)						
男性	945	110	370	279	185	1
女性	1329	172	633	361	161	2
無回答	27	4	13	5	5	0
(年齢別)						
15歳～19歳	107	13	35	27	32	0
20歳～29歳	211	18	87	61	45	0
30歳～39歳	355	37	141	103	74	0
40歳～49歳	398	51	198	95	53	1
50歳～59歳	401	55	186	104	56	0
60歳～69歳	480	57	211	162	49	1
70歳以上	311	47	141	86	36	1
無回答	38	8	17	7	6	0
(性・年齢別)						
男性 15歳～19歳	53	9	14	14	16	0
20歳～29歳	82	6	25	26	25	0
30歳～39歳	135	14	38	42	41	0
40歳～49歳	151	17	65	35	33	1
50歳～59歳	170	24	75	47	24	0
60歳～69歳	213	19	90	76	28	0
70歳以上	137	20	61	38	18	0
女性 15歳～19歳	54	4	21	13	16	0
20歳～29歳	129	12	62	35	20	0
30歳～39歳	219	23	103	60	33	0
40歳～49歳	247	34	133	60	20	0
50歳～59歳	231	31	111	57	32	1
60歳～69歳	267	38	121	86	21	1
70歳以上	174	27	80	48	18	0
無回答	39	8	17	8	6	3

問 11 C 葬儀の後で、「清め塩」をまくことについてのどのように思いますか。

総数	合計	ケガレをはらうためにまくべき	慣習なのでまくほうがいい	まく必要はないと思う	わからない	無回答
(性別)	2301	268	1203	565	257	8
男性	945	103	507	230	103	2
女性	1329	162	683	328	328	5
無回答	27	3	13	7	7	1
(年齢別)						
15歳～19歳	107	10	59	15	23	0
20歳～29歳	211	26	119	21	44	1
30歳～39歳	355	46	199	64	46	0
40歳～49歳	398	48	202	92	54	2
50歳～59歳	401	50	199	122	29	1
60歳～69歳	480	49	239	152	38	2
70歳以上	311	36	166	89	19	1
無回答	38	3	20	10	4	1
(性・年齢別)						
男性 15歳～19歳	53	3	29	9	12	0
20歳～29歳	82	10	40	13	18	1
30歳～39歳	135	15	77	28	15	0
40歳～49歳	151	17	87	26	20	1
50歳～59歳	170	19	88	51	12	0
60歳～69歳	213	24	109	68	12	0
70歳以上	137	15	76	33	13	0
女性 15歳～19歳	54	7	30	6	11	0
20歳～29歳	129	16	79	8	26	0
30歳～39歳	219	31	121	36	31	0
40歳～49歳	247	31	115	66	34	1
50歳～59歳	231	31	111	71	17	1
60歳～69歳	267	25	130	84	26	2
70歳以上	174	21	90	56	6	1
無回答	39	3	21	10	4	1

問12 今なお同和問題（部落差別）にかかわる差別があると思いますか。思いませいか。思いませんか。

総 (性別)	合計		まだまだあると思う		少しは残っている と思う		なくなっと思う		わからない		無回答	
	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
男性	945	21.2%	200	21.2%	433	45.8%	155	16.4%	157	16.6%	0	0.0%
女性	1329	19.3%	256	19.3%	663	49.9%	165	12.4%	240	18.1%	5	0.4%
無回答	27	25.9%	7	25.9%	9	33.3%	7	25.9%	7	14.8%	0	0.0%
(年齢別)												
15歳～19歳	107	20.6%	22	20.6%	38	35.5%	17	15.9%	30	28.0%	0	0.0%
20歳～29歳	211	15.2%	32	15.2%	88	41.7%	27	12.8%	64	30.3%	0	0.0%
30歳～39歳	355	22.0%	78	22.0%	156	43.9%	42	11.8%	78	22.0%	1	0.3%
40歳～49歳	398	23.9%	95	23.9%	186	46.7%	38	9.5%	78	19.6%	1	0.3%
50歳～59歳	401	21.9%	88	21.9%	207	51.6%	52	13.0%	53	13.2%	1	0.2%
60歳～69歳	480	19.2%	92	19.2%	247	51.5%	76	15.8%	63	13.1%	2	0.4%
70歳以上	311	14.5%	45	14.5%	172	55.3%	66	21.2%	28	9.0%	0	0.0%
無回答	38	28.9%	11	28.9%	11	28.9%	9	23.7%	7	18.4%	0	0.0%
(性・年齢別)												
男性 15歳～19歳	53	11.3%	6	11.3%	24	45.3%	8	15.1%	15	28.3%	0	0.0%
20歳～29歳	82	12.2%	10	12.2%	31	37.8%	12	14.6%	29	35.4%	0	0.0%
30歳～39歳	135	25.9%	35	25.9%	56	41.5%	18	13.3%	26	19.3%	0	0.0%
40歳～49歳	151	27.2%	41	27.2%	66	43.7%	18	11.9%	26	17.2%	0	0.0%
50歳～59歳	170	25.9%	44	25.9%	82	48.2%	26	15.3%	18	10.6%	0	0.0%
60歳～69歳	213	21.6%	46	21.6%	93	43.7%	44	20.7%	30	14.1%	0	0.0%
70歳以上	137	12.4%	17	12.4%	80	58.4%	29	21.2%	11	8.0%	0	0.0%
女性 15歳～19歳	54	29.6%	16	29.6%	14	25.9%	9	16.7%	15	27.8%	0	0.0%
20歳～29歳	129	17.1%	22	17.1%	57	44.2%	15	11.6%	35	27.1%	0	0.0%
30歳～39歳	219	19.6%	43	19.6%	100	45.7%	24	11.0%	51	23.3%	1	0.5%
40歳～49歳	247	21.9%	54	21.9%	120	48.6%	20	8.1%	52	21.1%	1	0.4%
50歳～59歳	231	19.0%	44	19.0%	125	54.1%	26	11.3%	35	15.2%	1	0.4%
60歳～69歳	267	17.2%	46	17.2%	154	57.7%	32	12.0%	33	12.4%	2	0.7%
70歳以上	174	16.1%	28	16.1%	92	52.9%	37	21.3%	17	9.8%	0	0.0%
無回答	39	28.2%	11	28.2%	11	28.2%	9	23.1%	8	20.5%	0	0.0%

問12-2 問12で「1」または「2」を選んだ方におたずねします。それはどんな時ですか。あてはまるものすべてをお選びください。(複数回答)

総 (性別) 男 女 無 回 答	合計	結婚のとき	進学のとき	就職のとき	居住地を聞かれたとき	職場でのつきのとき	近所づきあいのとき		その他									
							1287	82.1%		57	3.6%	233	14.9%	563	35.9%	121	7.7%	309
15歳～19歳	60	40	9	15.0%	23	38.3%	30	50.0%	9	15.0%	16	26.7%	9	15.0%				
20歳～29歳	119	90	6	5.0%	36	30.3%	53	44.5%	15	12.6%	29	24.4%	10	8.4%				
30歳～39歳	233	171	12	5.2%	44	18.9%	102	43.8%	28	12.0%	71	30.5%	28	12.0%				
40歳～49歳	281	234	9	3.2%	51	18.1%	106	37.7%	18	6.4%	65	23.1%	23	8.2%				
50歳～59歳	296	249	8	2.7%	29	9.8%	96	32.4%	15	5.1%	41	13.9%	12	4.1%				
60歳～69歳	340	296	7	2.1%	34	10.0%	105	30.9%	17	5.0%	46	13.5%	14	4.1%				
70歳以上	216	188	5	2.3%	13	6.0%	63	29.2%	17	7.9%	39	18.1%	4	1.9%				
無回答	23	19	1	4.3%	3	13.0%	8	34.8%	2	8.7%	2	8.7%	0	0.0%				
(性・年齢別)																		
男性15歳～19歳	30	17	2	6.7%	12	40.0%	13	43.3%	3	10.0%	6	20.0%	5	16.7%				
20歳～29歳	41	27	2	4.9%	15	36.6%	19	46.3%	10	24.4%	10	24.4%	4	9.8%				
30歳～39歳	91	62	7	7.7%	18	19.8%	42	46.2%	16	17.6%	26	28.6%	14	15.4%				
40歳～49歳	107	85	5	4.7%	22	20.6%	46	43.0%	10	9.3%	27	25.2%	9	8.4%				
50歳～59歳	127	94	5	3.9%	15	11.8%	49	38.6%	7	5.5%	22	17.3%	5	3.9%				
60歳～69歳	139	117	3	2.2%	21	15.1%	40	28.8%	8	5.8%	19	13.7%	8	5.8%				
70歳以上	97	83	3	3.1%	8	8.2%	27	27.8%	13	13.4%	20	20.6%	3	3.1%				
女性15歳～19歳	30	23	7	23.3%	11	36.7%	17	56.7%	6	20.0%	10	33.3%	4	13.3%				
20歳～29歳	78	63	4	5.1%	21	26.9%	34	43.6%	5	6.4%	19	24.4%	6	7.7%				
30歳～39歳	142	109	5	3.5%	26	18.3%	60	42.3%	12	8.5%	45	31.7%	14	9.9%				
40歳～49歳	174	149	4	2.3%	29	16.7%	60	34.5%	8	4.6%	38	21.8%	14	8.0%				
50歳～59歳	169	155	3	1.8%	14	8.3%	47	27.8%	8	4.7%	19	11.2%	7	4.1%				
60歳～69歳	201	179	4	2.0%	13	6.5%	65	32.3%	9	4.5%	27	13.4%	6	3.0%				
70歳以上	119	105	2	1.7%	5	4.2%	36	30.3%	4	3.4%	19	16.0%	1	0.8%				
無回答	23	19	1	4.3%	3	13.0%	8	34.8%	2	8.7%	2	8.7%	0	0.0%				

問13 この1年間に家族との間で、同和問題をどの程度話題にしましたか。

	合計	よく話題にした	ときどき話題にした	ほとんど話題にしなかった	まったく話題にしなかった	一人ぐらしで話題にできなかった	無回答
総数	2301	23	239	666	1226	138	9
(性別)							
男性	945	10	83	271	508	69	4
女性	1329	13	152	388	706	65	5
無回答	27	0	4	7	12	4	0
(年齢別)							
15歳～19歳	107	1	14	24	65	3	0
20歳～29歳	211	4	16	48	126	16	1
30歳～39歳	355	2	36	83	215	18	1
40歳～49歳	398	5	41	100	232	19	1
50歳～59歳	401	4	31	133	208	24	1
60歳～69歳	480	6	52	148	242	30	2
70歳以上	311	1	44	120	119	24	3
無回答	38	0	5	10	19	4	0
(性・年齢別)							
男性 15歳～19歳	53	1	5	11	34	2	0
20歳～29歳	82	1	2	16	55	7	1
30歳～39歳	135	0	13	27	82	12	1
40歳～49歳	151	1	8	40	90	11	1
50歳～59歳	170	2	12	52	86	17	1
60歳～69歳	213	4	20	66	110	13	0
70歳以上	137	1	23	58	48	7	0
女性 15歳～19歳	54	0	9	13	31	1	0
20歳～29歳	129	3	14	32	71	9	0
30歳～39歳	219	2	23	56	132	6	0
40歳～49歳	247	4	33	60	142	8	0
50歳～59歳	231	2	19	81	122	7	0
60歳～69歳	267	2	32	82	132	17	2
70歳以上	174	0	21	62	71	17	3
無回答	39	0	5	10	20	4	0

問 14 この1年間に友人との間で、同和問題をどの程度話題にしましたか。

	合計	よく話題にした	ときどき話題にした	ほとんど話題にしなかつた	まったく話題にしなかつた	無回答
総数	2301	11	170	554	1559	7
(性別)						
男性	945	8	67	247	619	4
女性	1329	3	97	298	928	3
無回答	27	0	6	9	12	0
(年齢別)						
15歳～19歳	107	1	13	25	68	0
20歳～29歳	211	1	11	36	162	1
30歳～39歳	355	0	28	54	272	1
40歳～49歳	398	2	18	78	299	1
50歳～59歳	401	4	24	104	269	0
60歳～69歳	480	3	30	142	302	3
70歳以上	311	0	40	104	166	1
無回答	38	0	6	11	21	0
(性・年齢別)						
男性 15歳～19歳	53	1	6	13	33	0
20歳～29歳	82	0	1	9	71	1
30歳～39歳	135	0	9	26	99	1
40歳～49歳	151	1	8	37	104	1
50歳～59歳	170	3	13	47	107	0
60歳～69歳	213	3	9	68	132	1
70歳以上	137	0	21	46	70	0
女性 15歳～19歳	54	0	7	12	35	0
20歳～29歳	129	1	10	27	91	0
30歳～39歳	219	0	19	28	172	0
40歳～49歳	247	1	10	41	195	0
50歳～59歳	231	1	11	57	162	0
60歳～69歳	267	0	21	74	170	2
70歳以上	174	0	19	58	96	1
無回答	39	0	6	11	22	0

問15 もし家族から同和問題について差別的な話が出たとき、あなたはどのようなようにしますか。

総数	合計	自分で差別のま ちがいを説明する	説明する自信がないの で、そのまましておく	自分に関係ないことだ からそのまましておく	家族の意見に合わ せてしまう	その他	無回答
(性別)	2301	1100	517	268	165	196	55
男性	945	472	182	125	63	87	16
女性	1329	618	326	139	101	108	37
無回答	27	10	9	4	1	1	2
(年齢別)							
15歳～19歳	107	51	25	14	12	3	2
20歳～29歳	211	95	43	33	21	17	2
30歳～39歳	355	180	85	28	23	37	2
40歳～49歳	398	235	78	21	21	37	6
50歳～59歳	401	187	106	41	21	40	6
60歳～69歳	480	210	108	71	36	34	21
70歳以上	311	129	60	52	30	26	14
無回答	38	13	12	8	1	2	2
(性・年齢別)							
男性 15歳～19歳	53	25	13	7	7	1	0
20歳～29歳	82	36	15	16	8	7	0
30歳～39歳	135	69	20	16	10	19	1
40歳～49歳	151	97	25	11	6	12	0
50歳～59歳	170	87	35	21	6	18	3
60歳～69歳	213	105	42	28	12	18	8
70歳以上	137	52	31	24	14	12	4
女性 15歳～19歳	54	26	12	7	5	2	2
20歳～29歳	129	59	28	17	13	10	2
30歳～39歳	219	111	64	12	13	18	1
40歳～49歳	247	138	53	10	15	25	6
50歳～59歳	231	100	71	20	15	22	3
60歳～69歳	267	105	66	43	24	16	13
70歳以上	174	77	29	28	16	14	10
無回答	39	13	13	8	1	2	2

問 16 過去3年間で、人権問題の学習会や研修会などに何回くらい参加しましたか。(学校での授業を含みます)

	合計	3年間で1回～2回	3年間で3回～5回	3年間で6回以上	まったくくない	無回答
総数	2301	279	147	46	1811	18
(性別)						
男性	945	98	57	26	754	10
女性	1329	180	89	18	1035	7
無回答	27	1	1	2	22	1
(年齢別)						
15歳～19歳	107	27	48	14	18	0
20歳～29歳	211	27	6	3	175	0
30歳～39歳	355	46	18	4	283	4
40歳～49歳	398	71	39	9	278	1
50歳～59歳	401	38	15	5	342	1
60歳～69歳	480	31	16	3	425	5
70歳以上	311	37	3	6	259	6
無回答	38	2	2	2	31	1
(性・年齢別)						
男性 15歳～19歳	53	14	22	6	11	0
20歳～29歳	82	11	3	2	66	0
30歳～39歳	135	14	5	2	112	2
40歳～49歳	151	15	9	4	122	1
50歳～59歳	170	15	9	4	141	1
60歳～69歳	213	14	8	2	185	4
70歳以上	137	14	1	6	114	2
女性 15歳～19歳	54	13	26	8	7	0
20歳～29歳	129	16	3	1	109	0
30歳～39歳	219	32	13	2	170	2
40歳～49歳	247	56	30	5	156	0
50歳～59歳	231	23	6	1	201	0
60歳～69歳	267	17	8	1	240	1
70歳以上	174	23	2	0	145	4
無回答	39	2	2	2	32	1

問16-2 問16で「1」「2」「3」と答えた方にお聞きします。参加したきっかけは次のうちのどれですか。主なものを2つ以内でお選びください。(複数回答)

総数	合計	その問題に関心をもっていたから	勤務先から参加をすすめられたから	関係団体の役員になっていたから	知人に参加するよう頼まれたから	参加した行事に人権教育が組み込まれていた	授業参観日やPTA行事に組み込まれていた	公共施設の利用のときに義務づけられていた	学校の授業に人権教育があったから	その他
(性別)	473	42	90	31	28	91	154	5	138	24
男性	182	17	47	17	13	35	26	2	59	7
女性	287	24	43	14	14	56	128	3	77	17
無回答	4	1	0	0	1	0	0	0	2	0
(年齢別)										
15歳～19歳	89	0	1	0	0	11	21	0	79	0
20歳～29歳	36	3	12	0	1	4	1	0	17	3
30歳～39歳	68	6	15	3	3	12	31	1	8	2
40歳～49歳	119	8	28	8	1	20	79	0	23	3
50歳～59歳	58	11	17	3	4	11	15	0	6	9
60歳～69歳	51	6	16	7	6	14	3	4	1	4
70歳以上	46	7	1	10	12	18	3	0	2	3
無回答	6	1	0	0	1	1	1	0	2	0
(性・年齢別)										
男性15歳～19歳	42	0	0	0	0	6	9	0	37	0
20歳～29歳	16	1	3	0	0	3	1	0	11	0
30歳～39歳	21	3	8	1	3	4	2	1	3	0
40歳～49歳	28	3	13	2	0	6	8	0	5	0
50歳～59歳	28	5	12	2	1	4	4	0	1	4
60歳～69歳	25	2	10	4	3	6	1	1	1	2
70歳以上	21	3	1	8	6	6	1	0	1	1
女性15歳～19歳	47	0	1	0	0	5	12	0	42	0
20歳～29歳	20	2	9	0	1	1	0	0	6	3
30歳～39歳	47	3	7	2	0	8	29	0	5	2
40歳～49歳	91	5	15	6	1	14	71	0	18	3
50歳～59歳	30	6	5	1	3	7	11	0	5	5
60歳～69歳	26	4	6	3	3	8	2	3	0	2
70歳以上	25	4	0	2	6	12	2	0	1	2
無回答	6	1	0	0	1	1	1	0	2	0

問16-3 問16で「1」「2」「3」と答えた方にお聞きします。参加してみても、その内容について総合評価すると、次のどれにあてはまりますか。

総数	合計	人権問題の理解に役立った	人権問題について少しは知ることができた	内容が難しすぎてよくわからなかった	いつも同じような内容の話であった	話の内容に反発をおぼえた	その他	よくおぼえていない	無回答
(性別)	473	96 20.3%	174 36.8%	11 2.3%	117 24.7%	3 0.6%	10 2.1%	15 3.2%	47 9.9%
男性	182	45 24.7%	68 37.4%	4 2.2%	43 23.6%	2 1.1%	2 1.1%	4 2.2%	14 7.7%
女性	287	49 17.1%	105 36.6%	7 2.4%	73 25.4%	1 0.3%	8 2.8%	11 3.8%	33 11.5%
無回答	4	2 50.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
(年齢別)									
15歳～19歳	89	18 20.2%	32 36.0%	2 2.2%	18 20.2%	1 1.1%	0 0.0%	5 5.6%	13 14.6%
20歳～29歳	36	4 11.1%	16 44.4%	4 11.1%	8 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 11.1%
30歳～39歳	68	12 17.6%	22 32.4%	1 1.5%	19 27.9%	1 1.5%	2 2.9%	4 5.9%	7 10.3%
40歳～49歳	119	28 23.5%	47 39.5%	1 0.8%	26 21.8%	0 0.0%	5 4.2%	4 3.4%	8 6.7%
50歳～59歳	58	13 22.4%	21 36.2%	0 2.0%	17 29.3%	1 1.7%	1 1.7%	0 0.0%	5 8.6%
60歳～69歳	51	12 23.5%	16 31.4%	1 2.2%	18 35.3%	0 0.0%	1 2.0%	0 0.0%	3 5.9%
70歳以上	46	7 15.2%	19 41.3%	1 16.7%	9 19.6%	0 0.0%	1 2.2%	2 4.3%	7 15.2%
無回答	6	2 33.3%	1 16.7%	1 16.7%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
(性・年齢別)									
男性 15歳～19歳	42	8 19.0%	12 28.6%	1 2.4%	10 23.8%	1 2.4%	0 0.0%	4 9.5%	6 14.3%
20歳～29歳	16	1 6.3%	6 37.5%	1 6.3%	5 31.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 18.8%
30歳～39歳	21	5 23.8%	9 42.9%	0 0.0%	4 19.0%	0 0.0%	1 4.8%	0 0.0%	2 9.5%
40歳～49歳	28	10 35.7%	12 42.9%	0 0.0%	6 21.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
50歳～59歳	28	10 35.7%	8 28.6%	0 0.0%	9 32.1%	1 3.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
60歳～69歳	25	8 32.0%	10 40.0%	0 0.0%	4 16.0%	0 0.0%	1 4.0%	0 0.0%	2 8.0%
70歳以上	21	3 14.3%	11 52.4%	1 4.8%	5 23.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.8%
女性 15歳～19歳	47	10 21.3%	20 42.6%	1 2.1%	8 17.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.1%	7 14.9%
20歳～29歳	20	3 15.0%	10 50.0%	3 15.0%	3 15.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.0%
30歳～39歳	47	7 14.9%	13 27.7%	1 2.1%	15 31.9%	1 2.1%	1 2.1%	4 8.5%	5 10.6%
40歳～49歳	91	18 19.8%	35 38.5%	1 1.1%	20 22.0%	0 0.0%	5 5.5%	4 4.4%	8 8.8%
50歳～59歳	30	3 10.0%	13 43.3%	0 0.0%	8 26.7%	0 0.0%	1 3.3%	0 0.0%	5 16.7%
60歳～69歳	26	4 15.4%	6 23.1%	1 3.8%	14 53.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.8%
70歳以上	25	4 16.0%	8 32.0%	0 0.0%	4 16.0%	0 0.0%	1 4.0%	2 8.0%	6 24.0%
無回答	6	2 33.3%	1 16.7%	1 16.7%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

問16-4 問16で「4 まったくない」と答えた方にお聞きします。研修・学習会に参加しなかった理由を、次の中から1つお選びください。

総数	合計	行われていること 知らなかったから	人権問題のことは よく知っていたから	時間的余裕がな かったから	人権問題に関心 がなかったから	その他	おぼえていない	無回答							
1811	874	48.3%	169	9.3%	108	6.0%	352	19.4%	159	8.8%	109	6.0%	40	2.2%	
(性別)															
男性	754	46.7%	82	10.9%	43	5.7%	161	21.4%	69	9.2%	42	5.6%	5	0.7%	
女性	1034	49.7%	83	8.0%	63	6.1%	189	18.3%	89	8.6%	64	6.2%	32	3.1%	
無回答	23	34.8%	4	17.4%	2	8.7%	2	8.7%	1	4.3%	3	13.0%	3	13.0%	
(年齢別)															
15歳～19歳	18	38.9%	1	5.6%	1	5.6%	3	16.7%	0	0.0%	6	33.3%	0	0.0%	
20歳～29歳	175	60.0%	5	2.9%	11	6.3%	34	19.4%	7	4.0%	13	7.4%	0	0.0%	
30歳～39歳	283	60.1%	6	2.1%	13	4.6%	53	18.7%	26	9.2%	12	4.2%	3	1.1%	
40歳～49歳	279	59.1%	15	5.4%	19	6.8%	49	17.6%	18	6.5%	10	3.6%	3	1.1%	
50歳～59歳	342	49.7%	33	9.6%	22	6.4%	67	19.6%	29	8.5%	16	4.7%	5	1.53%	
60歳～69歳	423	37.8%	59	13.9%	26	6.1%	91	21.5%	43	10.2%	32	7.6%	12	2.8%	
70歳以上	259	33.2%	46	17.8%	13	5.0%	50	19.3%	34	13.1%	16	6.2%	14	5.4%	
無回答	32	34.4%	4	12.5%	3	9.4%	5	15.6%	2	6.3%	4	12.5%	3	9.4%	
(性・年齢別)															
男性 15歳～19歳	11	36.4%	0	0.0%	0	0.0%	3	27.3%	0	0.0%	4	36.4%	0	0.0%	
20歳～29歳	66	43.9%	4	6.1%	7	10.6%	12	18.2%	5	7.6%	9	13.6%	0	0.0%	
30歳～39歳	112	50.0%	4	3.6%	3	2.7%	33	29.5%	11	9.8%	5	4.5%	0	0.0%	
40歳～49歳	122	58.2%	7	5.7%	12	9.8%	23	18.9%	6	4.9%	2	1.6%	1	0.8%	
50歳～59歳	141	53.2%	13	9.2%	6	4.3%	30	21.3%	11	7.8%	6	4.3%	0	0.0%	
60歳～69歳	185	41.6%	30	16.2%	9	4.9%	35	18.9%	20	10.8%	12	6.5%	2	1.1%	
70歳以上	114	35.1%	24	21.1%	5	4.4%	23	20.2%	16	14.0%	4	3.5%	2	1.8%	
女性 15歳～19歳	7	42.9%	1	14.3%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	28.6%	0	0.0%	
20歳～29歳	109	69.7%	1	0.9%	4	3.7%	22	20.2%	2	1.8%	4	3.7%	0	0.0%	
30歳～39歳	170	66.5%	2	1.2%	10	5.9%	20	11.8%	15	8.8%	7	4.1%	3	1.8%	
40歳～49歳	157	59.9%	8	5.1%	7	4.5%	26	16.6%	12	7.6%	8	5.1%	2	1.3%	
50歳～59歳	201	47.3%	20	10.0%	16	8.0%	37	18.4%	18	9.0%	10	5.0%	5	2.5%	
60歳～69歳	238	34.9%	29	12.2%	17	7.1%	56	23.5%	23	9.7%	20	8.4%	10	4.2%	
70歳以上	145	31.7%	22	15.2%	8	5.5%	27	18.6%	18	12.4%	12	8.3%	12	8.3%	
無回答	33	36.4%	4	12.1%	3	9.1%	5	15.2%	2	6.1%	4	12.1%	3	9.1%	

問 17 A 人権問題に関するパンフレットなどをもらったことがありますか、ありませんか。

	合計	ある	ない	無回答
総数	2301	601	1673	27
(性別)				
男性	945	265	670	10
女性	1329	330	983	16
無回答	27	6	20	1
(年齢別)				
15歳～19歳	107	63	43	1
20歳～29歳	211	35	173	3
30歳～39歳	355	96	259	0
40歳～49歳	398	129	268	1
50歳～59歳	401	88	311	2
60歳～69歳	480	106	365	9
70歳以上	311	76	226	9
無回答	38	8	28	2
(性・年齢別)				
男性15歳～19歳	53	35	17	1
20歳～29歳	82	15	66	1
30歳～39歳	135	36	99	0
40歳～49歳	151	44	107	0
50歳～59歳	170	46	124	0
60歳～69歳	213	50	160	3
70歳以上	137	38	95	4
女性15歳～19歳	54	28	26	0
20歳～29歳	129	20	107	2
30歳～39歳	219	60	159	0
40歳～49歳	247	85	161	1
50歳～59歳	231	42	187	2
60歳～69歳	267	56	205	6
70歳以上	174	38	131	5
無回答	39	8	29	2

問 17 B 人権問題に関する標語やポスターなどを見かけたことがありますか、ありませんか。

	合計	ある	ない	無回答
総数	2301	1346	892	63
(性別)				
男性	945	570	347	28
女性	1329	762	533	34
無回答	27	14	12	1
(年齢別)				
15歳～19歳	107	96	10	1
20歳～29歳	211	131	75	5
30歳～39歳	355	220	129	6
40歳～49歳	398	263	126	9
50歳～59歳	401	217	177	7
60歳～69歳	480	252	210	18
70歳以上	311	150	147	14
無回答	38	17	18	3
(性・年齢別)				
男性 15歳～19歳	53	47	6	0
20歳～29歳	82	52	27	3
30歳～39歳	135	83	47	5
40歳～49歳	151	100	46	5
50歳～59歳	170	97	69	4
60歳～69歳	213	119	89	5
70歳以上	137	71	61	5
女性 15歳～19歳	54	49	4	1
20歳～29歳	129	79	48	2
30歳～39歳	219	137	81	1
40歳～49歳	247	163	80	4
50歳～59歳	231	120	108	3
60歳～69歳	267	133	121	13
70歳以上	174	79	86	9
無回答	39	17	19	3

問 17 C 人権問題に関する街頭啓発活動やパレードを見かけたことがありますか、ありませんか。

	合計	ある	ない	無回答
総数	2301	383	1846	72
(性別)				
男性	945	182	732	31
女性	1329	197	1091	41
無回答	27	4	23	0
(年齢別)				
15歳～19歳	107	29	76	2
20歳～29歳	211	36	170	5
30歳～39歳	355	71	276	8
40歳～49歳	398	75	312	11
50歳～59歳	401	58	336	7
60歳～69歳	480	62	396	22
70歳以上	311	47	249	15
無回答	38	5	31	2
(性・年齢別)				
男性15歳～19歳	53	22	30	1
20歳～29歳	82	10	69	3
30歳～39歳	135	26	104	5
40歳～49歳	151	30	116	5
50歳～59歳	170	30	137	3
60歳～69歳	213	36	170	7
70歳以上	137	28	103	6
女性15歳～19歳	54	7	46	1
20歳～29歳	129	26	101	2
30歳～39歳	219	45	171	3
40歳～49歳	247	45	196	6
50歳～59歳	231	28	199	4
60歳～69歳	267	26	226	15
70歳以上	174	19	146	9
無回答	39	5	32	2

問17-2 問17のA, B, Cの内、1つでも「1」と答えた方にお聞きします。それらのものは、あなたの人権問題に関する関心をどの程度よびおこしましたか。

総数	合計	ますます関心を もった	関心をもつきっか げになった	少しは関心をもつ きっかけになった	あまり関心をもつきっ かけにならなかった	関心をもつきっか けにはならなかった	無回答
(性別)	1419	49	199	515	419	198	39
男性	605	23	72	203	190	101	16
女性	799	26	124	306	225	95	23
無回答	15	0	3	6	4	2	0
(年齢別)							
15歳～19歳	100	3	21	44	22	10	0
20歳～29歳	135	3	13	60	43	14	2
30歳～39歳	233	5	25	98	66	36	3
40歳～49歳	271	12	44	102	69	41	3
50歳～59歳	229	10	24	76	79	30	10
60歳～69歳	270	9	43	78	85	42	13
70歳以上	163	6	26	50	50	23	8
無回答	18	1	3	7	5	2	0
(性・年齢別)							
男性15歳～19歳	49	1	9	24	11	4	0
20歳～29歳	52	1	4	20	19	6	2
30歳～39歳	87	3	5	28	32	18	1
40歳～49歳	103	4	13	39	25	22	0
50歳～59歳	104	5	12	27	38	16	6
60歳～69歳	132	6	16	38	42	24	6
70歳以上	77	3	13	27	22	11	1
女性15歳～19歳	51	2	12	20	11	6	0
20歳～29歳	83	2	9	40	24	8	0
30歳～39歳	146	2	20	70	34	18	2
40歳～49歳	168	8	31	63	44	19	3
50歳～59歳	125	5	12	49	41	14	4
60歳～69歳	138	3	27	40	43	18	7
70歳以上	86	3	13	23	28	12	7
無回答	18	1	3	7	5	2	0

問 18 A あなたは次にあげる団体やグループとのかかわりは、現在のどの程度ですか。 自治会・町内会

	合計	よく参加している	ときどき参加している	ほとんど参加していない	まったく参加していない	無回答
総数	2301	259	650	611	775	6
(性別)						
男性	945	106	252	253	331	3
女性	1329	149	386	354	437	3
無回答	27	4	12	4	7	0
(年齢別)						
15歳～19歳	107	1	13	24	69	0
20歳～29歳	211	4	17	43	146	1
30歳～39歳	355	31	86	94	144	0
40歳～49歳	398	38	125	98	137	0
50歳～59歳	401	47	119	137	98	0
60歳～69歳	480	71	170	129	108	2
70歳以上	311	62	106	77	63	3
無回答	38	5	14	9	10	0
(性・年齢別)						
男性 15歳～19歳	53	0	8	14	31	0
20歳～29歳	82	1	10	13	57	1
30歳～39歳	135	10	26	38	61	0
40歳～49歳	151	12	47	40	52	0
50歳～59歳	170	20	46	53	51	0
60歳～69歳	213	33	68	60	51	1
70歳以上	137	30	47	32	27	1
女性 15歳～19歳	54	1	5	10	38	0
20歳～29歳	129	3	7	30	89	0
30歳～39歳	219	21	59	56	83	0
40歳～49歳	247	26	78	58	85	0
50歳～59歳	231	27	73	84	47	0
60歳～69歳	267	38	102	69	57	1
70歳以上	174	32	59	45	36	2
無回答	39	5	15	9	10	0

問 18 B あなたは次にあげる団体やグループとのかかわりは、現在のどの程度ですか。 趣味やスポーツの団体

	合計	よく参加している	ときどき参加している	ほとんど参加していない	まったく参加していない	無回答
総数	2301	302	374	475	1145	5
(性別)						
男性	945	132	162	213	436	2
女性	1329	168	207	258	693	3
無回答	27	2	5	4	16	0
(年齢別)						
15歳～19歳	107	24	11	19	53	0
20歳～29歳	211	24	36	22	129	0
30歳～39歳	355	41	57	64	193	0
40歳～49歳	398	47	59	82	210	0
50歳～59歳	401	48	67	87	199	0
60歳～69歳	480	51	82	114	230	3
70歳以上	311	63	55	82	109	2
無回答	38	4	7	5	22	0
(性・年齢別)						
男性 15歳～19歳	53	13	6	15	19	0
20歳～29歳	82	13	14	9	46	0
30歳～39歳	135	20	25	27	63	0
40歳～49歳	151	14	26	36	75	0
50歳～59歳	170	21	34	38	77	0
60歳～69歳	213	23	32	52	105	1
70歳以上	137	28	25	35	48	1
女性 15歳～19歳	54	11	5	4	34	0
20歳～29歳	129	11	22	13	83	0
30歳～39歳	219	21	32	37	129	0
40歳～49歳	247	33	33	46	135	0
50歳～59歳	231	27	33	49	122	0
60歳～69歳	267	28	50	62	125	2
70歳以上	174	35	30	47	61	1
無回答	39	4	7	5	23	0

問 18 C あなたは次にあげる団体やグループとのかかわりは、現在のどの程度ですか。 ボランティア団体

総 (性 別) 数	合計	よく参加している	ときどき参加している	ほとんど参加していない	まったく参加していない	無回答				
2301	88	3.8%	254	11.0%	499	21.7%	1451	63.1%	9	0.4%
男性	945	4.9%	129	13.7%	223	23.6%	543	57.5%	4	0.4%
女性	1329	3.1%	122	9.2%	268	20.2%	894	67.3%	4	0.3%
無回答	27	3.7%	3	11.1%	8	29.6%	14	51.9%	1	3.7%
(年齢別)										
15歳～19歳	107	3.7%	15	14.0%	21	19.6%	66	61.7%	1	0.9%
20歳～29歳	211	0.9%	12	5.7%	25	11.8%	172	81.5%	0	0.0%
30歳～39歳	355	2.0%	33	9.3%	70	19.7%	244	68.7%	1	0.3%
40歳～49歳	398	2.3%	41	10.3%	77	19.3%	271	68.1%	0	0.0%
50歳～59歳	401	3.2%	46	11.5%	90	22.4%	252	62.8%	0	0.0%
60歳～69歳	480	5.0%	55	11.5%	112	23.3%	286	59.6%	3	0.6%
70歳以上	311	9.0%	49	15.8%	90	28.9%	141	45.3%	3	1.0%
無回答	38	2.6%	3	7.9%	14	36.8%	19	50.0%	1	2.6%
(性・年齢別)										
男性 15歳～19歳	53	5.7%	7	13.2%	12	22.6%	30	56.6%	1	1.9%
20歳～29歳	82	2.4%	8	9.8%	10	12.2%	62	75.6%	0	0.0%
30歳～39歳	135	2.2%	21	15.6%	28	20.7%	83	61.5%	0	0.0%
40歳～49歳	151	2.6%	15	9.9%	36	23.8%	96	63.6%	0	0.0%
50歳～59歳	170	5.3%	22	12.9%	39	22.9%	100	58.8%	0	0.0%
60歳～69歳	213	4.7%	29	13.6%	52	24.4%	120	56.3%	2	0.9%
70歳以上	137	10.9%	27	19.7%	44	32.1%	50	36.5%	1	0.7%
女性 15歳～19歳	54	1.9%	8	14.8%	9	16.7%	36	66.7%	0	0.0%
20歳～29歳	129	0.0%	4	3.1%	15	11.6%	110	85.3%	0	0.0%
30歳～39歳	219	1.8%	12	5.5%	42	19.2%	160	73.1%	1	0.5%
40歳～49歳	247	2.0%	26	10.5%	41	16.6%	175	70.9%	0	0.0%
50歳～59歳	231	1.7%	24	10.4%	51	22.1%	152	65.8%	0	0.0%
60歳～69歳	267	5.2%	26	9.7%	60	22.5%	166	62.2%	1	0.4%
70歳以上	174	7.5%	22	12.6%	46	26.4%	91	52.3%	2	1.1%
無回答	39	2.6%	3	7.7%	14	35.9%	20	51.3%	1	2.6%

問19 あなたは、PTAまたは保護者会に、現在の程度かかわっていますか。

総数	合計	よく参加している	ときどき参加している	ほとんど参加していない	まったく参加していない	PTAや保護者会と関係する年代の子ともがいない	無回答
(性別)	2301	128	203	162	415	1359	34
男性	945	28	69	84	234	516	14
女性	1329	99	133	75	75	829	20
無回答	27	1	1	3	3	14	0
(年齢別)							
15歳～19歳	107	1	4	9	57	30	6
20歳～29歳	211	6	6	3	46	149	1
30歳～39歳	355	36	60	31	60	164	4
40歳～49歳	398	60	91	53	69	122	3
50歳～59歳	401	13	21	30	56	278	3
60歳～69歳	480	5	10	19	68	369	9
70歳以上	311	5	9	13	50	226	8
無回答	38	2	2	4	9	21	0
(性別・年齢別)							
男性15歳～19歳	53	1	4	5	26	15	2
20歳～29歳	82	1	2	1	16	61	1
30歳～39歳	135	3	15	12	36	65	4
40歳～49歳	151	9	27	26	45	43	1
50歳～59歳	170	8	9	20	40	91	2
60歳～69歳	213	2	6	13	44	146	2
70歳以上	137	3	6	7	26	93	2
女性15歳～19歳	54	0	0	4	31	15	4
20歳～29歳	129	5	4	2	30	88	0
30歳～39歳	219	33	45	19	24	98	0
40歳～49歳	247	51	64	27	24	79	2
50歳～59歳	231	5	12	10	16	187	1
60歳～69歳	267	3	4	6	24	223	7
70歳以上	174	2	3	6	24	133	6
無回答	39	2	2	4	9	22	0

問 20 あなたが、もし、病気で2週間寝込んだとします。家族以外でいくらかでも手助けを期待できるのは次の中では誰でしょうか。
 あてまるものをすべてお選びください。(複数回答)

	合計	親戚	職場の人たち	近所の人たち	知人(親戚・職場・近所の人たち以外の知人)	いずれの人にも頼めない
総数	2290	1351	373	359	852	380
(性別)						
男性	945	545	201	125	302	177
女性	1329	787	169	230	543	199
無回答	27	19	3	4	7	4
(年齢別)						
15歳～19歳	107	71	10	14	55	11
20歳～29歳	211	113	48	14	116	31
30歳～39歳	355	191	95	52	156	49
40歳～49歳	398	230	97	58	150	76
50歳～59歳	401	236	80	52	158	67
60歳～69歳	480	301	32	87	140	78
70歳以上	311	184	7	76	65	62
無回答	38	25	4	6	12	6
(性・年齢別)						
男性 15歳～19歳	53	36	4	9	26	7
20歳～29歳	82	41	21	8	44	14
30歳～39歳	135	70	49	13	57	19
40歳～49歳	151	89	58	12	49	28
50歳～59歳	170	88	45	20	56	37
60歳～69歳	213	137	20	36	49	40
70歳以上	137	82	4	27	21	30
女性 15歳～19歳	54	35	6	5	29	4
20歳～29歳	129	72	27	6	72	17
30歳～39歳	219	120	46	39	98	30
40歳～49歳	247	141	39	46	101	48
50歳～59歳	231	148	35	32	102	30
60歳～69歳	267	164	12	51	91	38
70歳以上	174	102	3	49	44	32
無回答	39	26	4	6	13	6

問 21 あなたは、松山市では、人権啓発施策に関する基本方針を策定していることをご存知ですか。

	合計	知っている	知らない	その他	無回答
総数	2301	256	1984	14	47
(性別)					
男性	945	136	794	6	9
女性	1329	119	1183	8	19
無回答	27	1	7	0	19
(年齢別)					
15歳～19歳	107	4	101	1	1
20歳～29歳	211	15	195	0	1
30歳～39歳	355	20	331	1	3
40歳～49歳	398	45	352	0	1
50歳～59歳	401	47	351	1	2
60歳～69歳	480	58	408	7	7
70歳以上	311	65	230	4	12
無回答	38	2	16	0	20
(性・年齢別)					
男性15歳～19歳	53	4	48	1	0
20歳～29歳	82	10	72	0	0
30歳～39歳	135	7	127	1	0
40歳～49歳	151	18	132	0	1
50歳～59歳	170	26	144	0	0
60歳～69歳	213	35	172	3	3
70歳以上	137	35	97	1	4
女性15歳～19歳	54	0	53	0	1
20歳～29歳	129	5	123	0	1
30歳～39歳	219	13	203	0	3
40歳～49歳	247	27	220	0	0
50歳～59歳	231	21	207	1	2
60歳～69歳	267	23	236	4	4
70歳以上	174	30	133	3	8
無回答	39	2	17	0	20

問 22 基本方針には人権教育・啓発の推進に関する重要な人権課題として、以下の項目を位置づけていますが、あなたが関心のあるものをすべてお選びください。(複数回答)

	合計	女性	子ども	高齢者	障がい者	同和問題	HIV感染者	外国人
総数	2251	852	1285	1295	1198	521	359	312
(性別)								
男性	945	224	473	500	497	232	156	148
女性	1329	626	810	794	699	289	203	164
無回答	27	2	2	1	2	0	0	0
(年齢別)								
15歳～19歳	107	40	50	43	52	29	34	29
20歳～29歳	211	110	126	95	113	37	50	41
30歳～39歳	355	165	233	160	187	79	68	64
40歳～49歳	398	155	238	195	220	116	66	57
50歳～59歳	401	153	230	236	212	85	59	38
60歳～69歳	480	132	249	335	246	105	52	47
70歳以上	311	91	152	225	162	68	30	34
無回答	38	6	7	6	6	2	0	2
(性・年齢別)								
男性15歳～19歳	53	9	17	22	27	11	13	12
20歳～29歳	82	25	38	36	38	11	20	15
30歳～39歳	135	36	78	45	66	25	23	26
40歳～49歳	151	34	74	67	83	52	28	25
50歳～59歳	170	34	79	84	83	37	26	23
60歳～69歳	213	53	111	148	116	58	28	24
70歳以上	137	32	73	97	82	38	18	22
女性15歳～19歳	54	31	33	21	25	18	21	17
20歳～29歳	129	85	88	59	75	26	30	26
30歳～39歳	219	128	154	115	120	54	45	38
40歳～49歳	247	121	164	128	137	64	38	32
50歳～59歳	231	119	151	152	129	48	33	15
60歳～69歳	267	79	138	187	130	47	24	23
70歳以上	174	59	79	128	80	30	12	12
無回答	39	7	8	6	7	2	0	2

問22 (つづき)

	刑を終えて 出所した人	ハンセン病患 者・回復者	インターネット による人権侵害	犯罪被害者等	性的マイノ リティ	北朝鮮によ る拉致問題	アイヌの人々	ホームレス	人身売買	どれにも関 心がない
総 数	351 15.3%	245 10.6%	636 27.6%	511 22.2%	193 8.4%	816 35.5%	134 5.8%	371 16.1%	234 10.2%	136 5.9%
(性別)										
男性	156 16.5%	96 10.2%	275 29.1%	234 24.8%	78 8.3%	335 35.4%	66 7.0%	175 18.5%	115 12.2%	77 8.1%
女性	195 14.7%	149 11.2%	361 27.2%	277 20.8%	115 8.7%	481 36.2%	67 5.0%	196 14.7%	119 9.0%	58 4.4%
無回答	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.7%
(年齢別)										
15歳～19歳	29 27.1%	11 10.3%	40 37.4%	20 18.7%	11 10.3%	26 24.3%	6 5.6%	26 24.3%	12 11.2%	4 3.7%
20歳～29歳	38 18.0%	12 5.7%	73 34.6%	52 24.6%	26 12.3%	44 20.9%	8 3.8%	33 15.6%	26 12.3%	20 9.5%
30歳～39歳	57 16.1%	43 12.1%	109 30.7%	105 29.6%	37 10.4%	110 31.0%	22 6.2%	47 13.2%	34 9.6%	24 6.8%
40歳～49歳	68 17.1%	53 13.3%	130 32.7%	101 25.4%	37 9.3%	134 33.7%	25 6.3%	64 16.1%	38 9.5%	24 6.0%
50歳～59歳	58 14.5%	45 11.2%	112 27.9%	89 22.2%	36 9.0%	153 38.2%	26 6.5%	59 14.7%	35 8.7%	23 5.7%
60歳～69歳	62 12.9%	47 9.8%	117 24.4%	95 19.8%	28 5.8%	209 43.5%	27 5.6%	92 19.2%	60 12.5%	22 4.6%
70歳以上	39 12.5%	33 10.6%	52 16.7%	49 15.8%	18 5.8%	137 44.1%	19 6.1%	50 16.1%	29 9.3%	16 5.1%
無回答	0 0.0%	1 2.6%	3 7.9%	0 0.0%	0 0.0%	3 7.9%	1 2.6%	0 0.0%	0 0.0%	3 7.9%
(性・年齢別)										
男性15歳～19歳	16 30.2%	3 5.7%	21 39.6%	8 15.1%	3 5.7%	14 26.4%	1 1.9%	14 26.4%	5 9.4%	3 5.7%
20歳～29歳	15 18.3%	6 7.3%	32 39.0%	22 26.8%	7 8.5%	23 28.0%	4 4.9%	16 19.5%	13 15.9%	12 14.6%
30歳～39歳	23 17.0%	16 11.9%	46 34.1%	39 28.9%	10 7.4%	40 29.6%	9 6.7%	19 14.1%	14 10.4%	14 10.4%
40歳～49歳	30 19.9%	17 11.3%	43 28.5%	41 27.2%	16 10.6%	48 31.8%	10 6.6%	25 16.6%	14 9.3%	15 9.9%
50歳～59歳	25 14.7%	16 9.4%	44 25.9%	45 26.5%	15 8.8%	65 38.2%	13 7.6%	31 18.2%	16 9.4%	16 9.4%
60歳～69歳	27 12.7%	21 9.9%	60 28.2%	54 25.4%	15 7.0%	90 42.3%	15 7.0%	43 20.2%	33 15.5%	11 5.2%
70歳以上	20 14.6%	17 12.4%	29 21.2%	25 18.2%	12 8.8%	55 40.1%	14 10.2%	27 19.7%	20 14.6%	5 3.6%
女性15歳～19歳	13 24.1%	8 14.8%	19 35.2%	12 22.2%	8 14.8%	12 22.2%	5 9.3%	12 22.2%	7 13.0%	1 1.9%
20歳～29歳	23 17.8%	6 4.7%	41 31.8%	30 23.3%	19 14.7%	21 16.3%	4 3.1%	17 13.2%	13 10.1%	8 6.2%
30歳～39歳	34 15.5%	27 12.3%	63 28.8%	66 30.1%	27 12.3%	70 32.0%	13 5.9%	28 12.8%	20 9.1%	10 4.6%
40歳～49歳	38 15.4%	36 14.6%	87 35.2%	60 24.3%	21 8.5%	86 34.8%	15 6.1%	39 15.8%	24 9.7%	9 3.6%
50歳～59歳	33 14.3%	29 12.6%	68 29.4%	44 19.0%	21 9.1%	88 38.1%	13 5.6%	28 12.1%	19 8.2%	7 3.0%
60歳～69歳	35 13.1%	26 9.7%	57 21.3%	41 15.4%	13 4.9%	119 44.6%	12 4.5%	49 18.4%	27 10.1%	11 4.1%
70歳以上	19 10.9%	16 9.2%	23 13.2%	24 13.8%	6 3.4%	82 47.1%	5 2.9%	23 13.2%	9 5.2%	11 6.3%
無回答	0 0.0%	1 2.6%	3 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	3 7.7%	1 2.6%	0 0.0%	0 0.0%	3 7.7%

参 考 資 料

今回の調査でも、これまでどおり性別や年代別の分析を行いました。その分析をしていく中で、傾向が顕著に表れているものを参考資料として掲載いたします。

以下の資料は、「性別や年代別にみて、傾向が顕著に伺える」だけのものであり、「男だから…、女だから…」とか「最近の若者は…、高齢者は…」と方向づけるものではありませんのでご注意ください。

今後の人権教育及び啓発の推進にあたり、効果的に研修会や学習会を開催する際の参考にいただければと思います。

性別から伺える人権意識のちがい

人権が「十分尊重されている」「おおむね尊重されている」は、男性 54.5%、女性 47.7%であり、女性の方が 6.8 ポイント低い。このことは賃金、昇格、家庭内での役割分担意識等、女性の人権について社会全体で取り組んでいくことの必要性を訴えていると考えられる。

次に、「女性が一生職業を持つべき」「体罰は認められない」「虐待を許さない」「パンフレット等が自分のためになった」等が、いずれも女性の方が高いことから、女性の方が人権問題に関心が高いといえる。

その反面、「六曜・家柄を気にする」「結婚に同和問題が残っている」は女性の方が高い。また、「同僚がエイズ患者の場合どのように思うか」の問いに、「わからない」が女性の方が 4 ポイント高い。女性は「差別や因習」を男性より気にする傾向が強く、さらに、「同和問題について差別的な話が出た時」に「そのままにしておく」女性の割合が高いことから、今後、「同和問題」や「エイズ問題」等の人権問題を正しく理解する機会を増やしていくことが必要と考えられる。

社会活動・社会関係に関する問いでは、「趣味・スポーツ団体への関わり」「ボランティア団体への関わり」は男性が多い。「知人に助けを期待できる」は女性が高く、それに対して「助けを誰にも頼めない」は、男性がどの年代においても高くなっている。

趣味・スポーツ・ボランティア活動等については、男性の方が社会参加の機会は多いと考えられるが、友人をつくりネットワークを広げて人間関係を密にしていくという生き方については、女性の方が積極的であると思われる。今後は、人権問題を自分自身の生き方と絡めながら考えていくことも大切ではないだろうか。

年代別から伺える人権意識のちがい

「外国人の入居を断るべきでない」と、「外国人の人権が守られるべき」は、圧倒的に 10 代の割合が高い。このことは学校教育における外国人とのふれあいの成果と考えられ、今後も外国人との交流を積極的に進めていく必要がある。また、「パンフレット・標語・ポスター

等を貰ったり、見かけたりする」も10代が圧倒的に多い。このことは、松山市小中学校の児童・生徒が、人権標語・人権ポスター・人権作文等に熱心に取り組んでいる成果と考えられ、今後もこの活動を継続し発展させていきたい。

「エイズ患者と分かっても、今まで通り付き合う」「六曜を気にしない」は、若い世代ほど割合が高く、「結婚に同和問題が残っている」、「高齢者の入居を断るべき」は、若い世代ほど低い。つまり、若い世代では、多くの差別問題や因習について、若者の持つ純粋さで正しく判断し、様々な問題の科学的認識も深めてきているといえる。

しかし、10代、20代では、「虐待を見つけても知らないふりをする」が高く、「清め塩」については「わからない」が20%を超えている。このことは、「児童虐待の児童相談所等への通告義務」や「死に対する汚れ意識」等の内容が十分に認知されていないことが、児童虐待等の差別の残存・助長につながっていると考えられる。10代の高い人権意識をどのように持続させ広めていくのか、今回の調査結果を活かして、今後学校教育や社会教育の改善に生かしていく必要がある。

「松山市人権啓発施策に関する基本方針」は、若い世代ほど認知度が低く、今後の啓発活動において、若者にも浸透させる方法等の工夫が求められる。

高齢層の特徴では、「人権問題に関心があるか」では、年齢が高くなるほど関心が高くなる。「自治会・町内会への参加」でも30代以上で「かかわりがある」が高い。

つまり、高齢層になるにつれて社会参加の機会も増え、人権教育及び啓発活動に関心も高くなっていくが、一方では、古くからの因習や固定観念にとらわれ、人権教育及び啓発活動を積極的に受け入れようとする姿勢が弱くなっていくという傾向もみられている。

社会的扶助において特徴的なのは、「職場の人に助けを期待する」が、20代から50代までは高いが、60代以降は「期待できない」が90%を超えていることである。つまり、退職してしまうと職場の人との繋がりが切れるため、現役の時から地域とのつながりを持ち、社会生活の中でお互いの人権を大切にするという生き方を身に付けていく必要があると考えられる。

また、差別解消の取組では、「自分で差別のまちがいを説明する」が40代をピークに、そこから若い年代、高齢層に向けて低くなっていくという他の設問とはちがった傾向を示した。これは、子どものいる家庭の中で、家族の中心となる40代（30代・50代も含めて）が、同和問題の解決に向けて強いリーダーシップを発揮していることを表していると考えられる。今後も、中堅の世代が、社会における牽引者として、同和問題の解決の先頭に立つことが期待される。

あとがき

今回の「人権問題に関する市民意識調査」は、1982年に行った「同和問題に関する市民意識調査」から数えて7回目の調査になります。今回は、前回までの調査内容を継承しつつ、いくつかの点で変更を加えました。

最も大きな変更点は、「社会関係資本」の量と人権意識との関係性を明らかにしようとした点です。「孤立」や「無縁」がキーワードとなるような現代社会にあって、人間関係の広さや深さが、どう人権意識に関係しているのか調査してみました。その結果は、本文に示したとおりであります。また、これまでのように性別や年代別の分析も行い、その結果に対して検討を加えました。その簡潔な要約を付属資料の最後に参考資料として掲載しております。

次に、松山市の「人権啓発施策に関する基本方針」の認知をめぐる質問項目を加えました。市の施策を周知するとともに、その浸透度を測定しました。

さらに、近年の児童虐待問題への市民の関心の高まりを受けて、この問題への対処の仕方を尋ねました。

以上のような変更がなされたため質問項目が増え、回答者の負担が以前よりも重くなりました。にもかかわらず、調査にご協力いただいた方は増え、調査票の回収率は過去最高を記録しました。今回の調査にご協力いただいた皆様に、この場をお借りしまして改めてお礼申し上げます。

ここ数回の報告書は、調査結果を客観的に示すことに主眼が置かれていました。今回の報告書は、委員が長時間かけてデータを読み解き、回答結果の解釈にまで踏み込んで作成されています。このような形でまとめられた本調査および本報告書が、松山市民の皆様や人権啓発の現場において有効に活用していただければ幸いです。

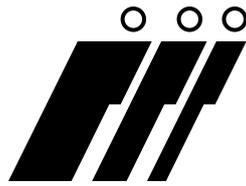
松山大学 人文学部教授
社会調査室 代表 市川正彦

人権問題に関する市民意識調査委員会

委員長	田所和人	副委員長	鎌田サチ子
委員	阿部千恵	委員	磯村弘子
〃	悦内誠二	〃	大森弘之
〃	木下敬幸	〃	村上保
〃	山口信行	〃	芳野安隆

事務局 松山大学 人文学部教授 社会調査室 代表 市川正彦

調 査：人権問題に関する市民意識調査委員会
委員長 田 所 和 人
松山大学 人文学部（社会調査室）
教授（代表）市 川 正 彦
発 行：松 山 市 人 権 教 育 推 進 協 議 会
会 長 田 所 和 人
松山市二番町四丁目7番地2
（松山市役所人権啓発課内）
TEL 089-948-6604 FAX 089-934-1742
2013（平成25）年3月 2,000部



市人推協のシンボルマーク

松山市人権教育推進協議会シンボルマーク

(制作意図) 人間は、顔形が違っていてもみんな平行(平等)で、お互いの人権が侵害されることなく、尊重されなくてはならないことを表しています。
また、松山の頭文字「M」を形どっています。